June 1st 1912

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 245

大日本蠶絲會報

第貳百四拾五號要目

●蠶絲業を世界的に發展せしむるには如何なる注意を要するか　阪谷芳郎（男爵 法學博士）
●蠶絲業陳列館と看貫料　吉池慶正（學士會員）
●予が特許生絲繰製法に關する試驗の成績如何　中村雅次郎（農學士）
●本邦に於ける人造絹絲の需要　明石弘（農學士）
●山形流沈煑製絲術とは何ぞ　村形貞次郎（京都蠶絲講習所技手）
●桑園の復舊は勤勞に在り　十時雄次郎（農學士）
●米國に於ける日本生絲　瀨古孝之助（三井物産會社組織支店長）
●明治十四年の紛擾事件　速水堅曹
●予は練減增加の原因を如此く解せり　佐々木長淳
●米國には日本生絲に如何なる苦情があるか　紫藤章（商務官）
●本邦生絲の練減問題　今西直次郎（生絲檢査所長）
●再び繭仕入の方法に就て　安東潛（三重縣技師 學藝委員）
●蠶絲業法施行要義　鹽谷清多郎
●商業組合に就て　佐藤寛次（農學士）

TOKYO.
The Association ;
No. 18 Nishikicho Sanchome, Kanda, Japan.

山本大藏大臣曰く更に進んで品質の善良なるものを廉價に供給せざる可からざるを以て諸君は之が生産費の輕減に力を費されんことを望む

（大日本蠶絲會第七回總會に於ける講演中の一節）

一定品質の蠶絲多產
生產費輕減煮繰分業
唯一の要器

營業項目

特別中原式乾繭器製作販賣
製絲器械汽機汽罐發動機類
小幡式統一ケンネル機
幷附屬品小道具類

東京市本所區德右衛門町三十四番地
中原式合資會社
電話本所二二二六〔電略ナカ〕
〔振替貯金口座一六五〇四番〕

農產・水產・乾繭其他一切の生產物に適應す

乾燥界の一大革新

鈴木式乾燥裝置

特許

▼本裝置の眞價愈々高まる

◎原名古屋製絲所長の證明に曰く
本裝置は勞力を省き燃料を節約し土地建物の面積を少くして而も火災の恐れなく時間にて多量の生繭を完全に乾燥し加之生繭の外他の物品の乾燥も可なる理想的の乾燥裝置にして有利なる乾燥裝置と比し優良なるものと信ず

◎岡谷館製絲所社長の證明に曰く
本裝置は方今に於ける乾燥機界に一新機軸を出したる完全なる乾燥裝置と認む

◎高田製絲株式會社の證明に曰く
蠶絲業界に於ける一大有益の發明なりと信ぜり切に同業各位に推奬して憚らざるなり

◎靜岡乾燥合資會社の證明に曰く
從來世に行はるゝ所の乾燥裝置と比較するに其優劣實に天淵の差あるのみならず實に文明の良機にして我國蠶絲業界の一福音なりと確信す

▲此他各種生產家より多大なる讃辭を受く

注意
●本乾燥裝置は當部構內へ据付日々乾燥の實地試驗を行ひ居候間何時にても乾燥の模樣御覽に可供御採用の有無に拘らず御覽被下度候
●網目當部主鈴木藤三郎の著述になる『乾燥當國論』御希望の向は郵券二錢御送附被下候はゞ贈呈可仕候
●説明書並に各實驗家證明書御申越次第進呈可仕候

製作發賣元
東京府南葛飾郡砂村
鈴木發明部
電話本所二八七三番 電信略號ハッ
二八七四番

大日本蠶絲會報　第百四拾五號

目次

口繪

●全國製絲業家大會出席者晩餐會の光景
●本會高知支會第一回品評會褒賞授與式當日の光景
●本邦製絲界の功勞者故尾澤金左衛門君
●愛知縣中島丹羽兩郡に於ける降雹被害の惨景

論說……二一―二四

●蠶絲業陳列館と看貫料　學藝委員　吉池慶正
●予が特許生絲繰製法に關する試驗の成績如何　農學士　中村雅次郎
●本邦に於ける人造絹絲の需要　農學士　明石弘
●山形流沈炭製絲術とは何ぞ　京都蠶業講習所技手　村形貞次郎
●桑園の復舊は勤勞に在り　農學士　十時雄次郎

演壇……二五―三六

●蠶絲業を世界的に發展せしむるには如何なる注意を要するか　男爵　法學博士　阪谷芳郎
●米國に於ける日本生絲　三井物產株式會社絹育支店長　瀨古孝之助

叩門……三七―四九

●明治十四年の紛擾事件　特別會員　速水堅曹翁談
●予は練減增加の原因を如此く解せり　特別會員　佐々木長淳翁談
●米國には日本生絲に對して如何なる苦情があるか　商務官　紫藤章氏談
●本邦生絲の練減問題　生絲檢査所長　今西直次郎氏談
●再び繭仕入の方法に就て　三重縣技師　安東潛氏談

講筵……五〇―五四

●蠶絲業法施行要義　學藝委員　鹽谷清多郎
●產業組合に於て　農學士　佐藤寬次

實驗……五五―五六

●二十年間の研究と實驗とに依りて得たる秋蠶生種製造法　佐々木左原太

絲況……五七―六一

●横濱市場●紐育市場●里昂市場●廣東市場

問答……六二―六三

●桑樹の蓋葉に就き質問並答●蠶種貯藏冰庫に就き質問並答●蠶種運搬其他の件に就き質問並答●新奮戰籠に就き質問並答●蠶兒の障害物に就き質問並答

會務錄事……六四―七五

●評議員會＝横濱生絲貿易商懇話會＝全國製絲業家大會＝岐阜支會總會並品評會褒賞授與式＝三重支會第十一回總會

蠶桑雜觀……七五―七七

●青山御所の御養蠶＝奉蠶概況＝東西蠶業講習所蠶況＝原蠶種製造所蠶況＝世界の蠶況＝生絲の日露連絡線迄＝絲綛褒賞下賜（三頁）＝絲綛褒賞下賜（三頁）＝新生絲の手合（二十四頁）愛知縣蠶害の惨狀（二十二頁）＝蠶業講習所部長の廢止（四十五頁）＝支那種の飼育大に發達せん（九頁）＝蛇蠶製來（二十六頁）

文藝……七七―八〇

●俳句＝狂句＝俚諺＝小品文

雜囊……八一―八二

●田口社長の赤裸　●蠶界消息　●蠶界小詩　●人事彙報　●新刊紹介

京光の會蠶絲業出會大蠶業絲製國金るた色開で於に新發機他業振倫京市京東日四月去

Diner offert le 4 Avril à Soyoken, Tokijo.

講習生募集

偉少の料金を以て博士學士廿四名の熱血に接觸し

男子部第三期生
蠶業講義錄女子部第四期生募集

學科擔當講師氏名

蠶業通論　農學士　本多岩次郎
蠶養法　土屋泰
蠶室蠶具論　横田長太郎
種製造論　荒木武雄
桑樹栽培法　農學士　辻鳴太郎
害蟲害鳥論　農學士　明石弘
蠶體生理　農學博士　外山龜太郎
蠶病理　農學博士　佐々木忠次郎
蠶病消毒法　農學士　林學作
顕微鏡使用法　農學士　石川準太郎
蠶種苗審査法　農學士　石居一郎
蠶種製造法　農學士　川島勝次郎
蠶物整理法　今西直次郎
蠶業法　町田穣
蠶業法論　農學士　坂木家則
蠶業大意　農學博士　石渡繁胤
蠶業經濟學　農學士　横井時敬
蠶業經濟學　農學士　針塚長太郎
蠶業經濟學　農學士　小林房治郎
肥料學　農學博士　大工原銀太郎
蠶事經濟　喜多見佐喜
蠶家育兒衛生　中島よし
裁縫　神田順
科理　石井泰次郎

本講義錄は本年一月第一號發行開始毎月一回十二月終了入學は何時にても差支なく第一號より送本す〜し

千二百餘頁の大册に據り智識を啓發し得るもの他にあるなし

●世の中に六ケ敷ものを見ざれば人物の價値なきものの如く思ふは誤れり、ソハ貧小の氣取方なれば也

第三號の目次

男爵阪谷芳郎

蠶爭のある商品は強い
團結力が必要

蠶爭とは何物ぞ、アラユル智力を集めて奇麗に捕つた物でなければ、生産費が高くつく、蠶爭を考へずに蠶業を論ずるは、國家を思ひ子孫を思ふの士は誠にむべくも也

男爵松平正直

辛苦に就て

傳少の文字を人生なんとの辛苦艱難に鍛つて、善く人生の意味を解せんとする士の讀むべきもの也

全國製絲會大會錄事
コーセネバ善い桑は取れない

枝師重富三男三

愛と忠

眞誠の愛と忠とは、眞に力ぎ力かの一生涯に於て、一度は必ず出逢ふ、眞に桑にヤッカルヤ、御壞さん、天下の義務を果す

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治四十一年六月十日五發行　大日本蠶絲會報　第貳百四十五號

高知市公園

生繭取引法の改良に就て廣く其意見方法を求む

全國製絲家大會に於て議了せられたる重要問題中生繭取引法改良の件に關しては「大日本蠶絲會は生繭取引上地方の狀況により夫々適宜の方法を以て養蠶家と製絲家と直接取引する方法を講ずることを奬勵すること」との決議あり玆に本會は此決議を尊重して先づ我二百餘萬の當業者諸君に如何なる方法を以てせば現在の生繭取引法に改良を加へ得べきかを提案し廣く其意見の存する處若くは今現に實行しつゝある最善の方法を蒐めて以て其粹を拔き其長を採り之が普及奬勵に努めんと欲す若し夫れ當業者諸君にして其意見方法の最良と認めらるゝものあらば進んで之を寄せられんことを。

去四月十九日午前十一時に降雹の被害を受けたる愛知縣中島丹羽兩郡中の桑狀一部の光景

Une partie des plantations de mûriers des deux arrondissements de la préfecture de Aichi gâtées par la grêle tombée le 19 Avril à 11 heures du matin

（愛知縣愛知郡養蠶同業組合寄贈）

明治四十一年六月十日五發行　大日本蠶絲會報　第貳百四十五號

論叢

蠶絲業陳列館と看貫料

學藝委員　吉池慶正

大日本蠶絲會は蠶絲業陳列館設置及全國支會代表者會に諮るや滿場異議なく賛成し次に全國製絲業者大會に提議するや熱誠な挙り熱烈なる賛成を以て可決し而して其財源は生糸貿易の歩合看貫料を設なて之に相當する金額を支出して之に充つべしと議決せり此に於て看貫料問題は今の蠶絲業界の大問題となり衆官諸氏の出でゝ當業者な迷はしたるものの少からず依て余輩は本會直接の問題たる蠶絲業陳列館設置の必要と間接の問題たる看貫料廃止に關する余輩一已の所信を吐露して大方の參考に資せんとす

▲歐洲の物産陳列館

歐洲の文明國は國力振興の一策として、全力を生産業の發達に傾注し、其一手段として、到處産業博物館物産陳列館等の設置せられざるなきの狀態なり、實に彼等が之に依り一は自己の智能を啓發し、一は其生産を廣く世に紹介することの巧妙なる一度歐洲漫遊の途に上りたる者の皆能く之を知る所にして、彼の伺牙利に於ける農業博物館の如きは世界に誇る所にして何人も其設備の完全せるに驚嘆せざるはなし。

▲蠶絲業陳列館設置の急務

然るに我邦は世界の大蠶絲國たるにも拘らず來朝の外國人をして、一目の下に直に本邦蠶絲業を紹介するに足る機關なきを以て、彼等は京都、奈良、日光、松島等の風光を賞美し得るも遂に蠶絲國に來りて、蠶絲國の實を解することは能はず空しく歸るを常とせり、尚に是れ蠶絲國たる帝國の一大缺陥にして、我蠶絲業發展の上に其不利尠少ならずと謂ふべきなり、而かも此機關の缺如は我當業者が世界蠶絲業に關する日進月歩の智識を吸收することを能はずして、常に社會の進歩に遅るゝの感くんぐあらず、大日本蠶絲會が蠶絲業陳列館設置の急務を絶叫する所以全く茲に存せり。

▲蠶絲業陳列館設置の利益

若し夫れ蠶絲業陳列館設立の目的成りて、本邦及世界の蠶絲業に關する標本模型發明新案等の機械器具を始めとし、書籍雜誌統計表等を陳列し、內外蠶絲業の現況、繭、生絲の相場等を時々刻々に調製し、掲示するに於ては容易に來朝の外賓を啓發すること亦頗る大なるものあらん、殊に之と同時に通信部紹介部等を設けて內外蠶絲業の通信紹介交渉調査等を爲し、更に倶樂部を設置して內外當業者が一堂に會し、互に其交際を温め、親睦を圖るに於ては不知不識の間に各自の見聞を廣くし、智識、技能を進め、其斯業上に裨益すること頗る大なるのみならず、之に依りて國際間の親誼を厚うすることは信じて疑はざる所なり。

▲今上陛下御即位五十年の記念事業

大日本蠶絲會は蠶絲業陳列館設置の利益如此に甚大なるを認るが故に之が設立の急務を天下に呼號する所以なるが、過般開催したる全國製絲業者大會は滿場一致を以て賛意を表し たり、恐く二百餘萬の蠶絲業者中一人の異議を唱ふる者なからん、況んや之を設立して以て今上陛下御即位五十年の記念たらしめんとするに於てをや、五千萬の同胞皆然るを信ずるなり、聞既く、換國の工業者は今回現帝フランツ、ヨセフ陛下の即位六十年を記念として工業陳列館を建設し、各國工業及手藝の發達を歴史的に明示し併せて國家的工業經濟思想を普及せんとすと實に東西期せずして符節を合したる事業を爲さんとするも亦奇ならずや。

▲蠶絲業陳列館設置の財源

惟ふに蠶絲業陳列館の設置は同人も雙手を擧げて賛する所なるべしと雖も、莫大の經費を要するを以て須らく之を國家事業たらしむべしとの議なきにあらず、然りと雖も、帝國現時の財政狀態到底之を許さざるものあるを如何せん、然らば之を民間の事業たらしめんか、絲況不振の今日多數の出資は當業者の最大苦痛とする處なり、於是乎奈邊に之が財源を求めて設立の目的を達せんかとは全國製絲業者大會に於ける問題なりき、而かも此問題は容易に解決せられたり、曰く横濱生絲市場に於て製絲家が支拂看貫料なるものを撤廢し、之れに相當するし金額を支出して、其財源に充つべしと、從來我國民の癖として少しく大なる事業を起さんとすれば、直に國庫補助の愚典に預からんとする依頼心あり、然るに今回の經費數拾萬圓は全部自己の支出を以て之に當らんとす、其意氣の壯なる實に賞揚すべきものあり。

▲看貫料は生絲貿易開始以來の弊習

抑も此看貫料なるものは生絲取引の際、看貫を行ふ支那人番頭に贈賄せるもの、其價を作したるものにして、實に生絲貿易開始以來の弊習なりとす、其後屢看貫料撤廢は提唱せられしも、荷主側の腰弱かりし爲何時も、此正當の要求は成功せずして止みたるは世人の皆能く知る所なり、然り而して現今生絲一梱に付き看貫料と稱して製絲家が支出する五拾錢は賣買上の手數料にもあらず、又純然たるコンミッションにもあらずして、言はゞ一種の不當支出に外ならざるなり、彼我對等の商權を有する今日此弊風を依然として存續するが如きは頗る不面目なりと謂はざるべからず、之を廢する固より當然の事に屬す、而して此弊習を刷新し無用の費を轉じて有用の資となす一擧兩得と云ふべし。

▲全國製絲家の決心

然るに說を爲すものあり、曰く之を廢する可なり、然れども、輸出商館より之を機會に必ずや一種の交換問題を提出すべく、其結果は却て看貫料支出以上の不利を招くに至らんと、固より是れ爲にする者の放言敢て一顧の値なしと雖も此際一言其妄を排し置かざるべからず、元來交換問題なるものは彼我の利益對等なるに於て、自己の都合上對手の或利益を我に收めんとする場合に生ずべしと雖も看貫料の如き商館側が不當利得を爲し居るものに對して之が撤廢を宣言するものなれば、我にも此要求ありとて製絲家に交換的條件を提出し得べきにあらず、ヨシ之を提出するも看貫料は支拂ふ可らず、交換問題には應ずる能はずと斷ずれば即ち足るとさへ稱する者あり、又看貫料五拾錢を廢すれば、大製絲家は兎も角小製絲家は之より以上の金を支拂ふの餘儀なきに至るべしと無稽も亦甚しと謂ふべし、何となれば看貫料の廢止は全國一般にして或者は廢止し或者は存續する譯にあらず、故に輸出商側に於て荷物を引入るゝ際に、或者に便宜を與へ、或者に不便を與ふるなどの行爲は起るべき筈にあらず、又看貫料廢止の爲に現金取引を改むるが如きことに至らずやと云ふものあり、本邦貿易の大勢に通ぜざるも甚しからずや、何となれば本邦商人の引取る商品は前金拂をなす狀態にして頗る偏務的になり居れり、然るを不當利得の看貫料を廢止するに其交換問題として現金取引の金錢の授受を延べんとするが如きは全く杞憂に過ぎずして斯る問題を提出する筈もなく假令提出するとも引受くべき筋のものにもあらず、之を以て全國の製絲家は此際斷乎として永年の弊習を芟除せんとする決覺頗る堅きものあり、實に嘉すべきことなりとす。

▲看貫料の廢止に反對する者は誰か

尤も輸出商は永年此看貫料を番頭の給料に當て來れるを以て俄に之を廢止するに於ては其打撃決して尠からざるべしと雖も固と此不當利得を以て其使用人の給料に當つるが如きは穩當を缺けるものにして早晩之を改むべきものなるとは賢明なる輸出商の夙に自覺せる所ならんされば之を好個の機會となし、自己の使用人に對する給費は正當の財源に依りて支給せらるゝを穩健の處置なりと信ず、又商館番頭も永年此看貫料に依て衣食し來れるものなるを以て一朝之が廢止の運命に遭遇せんか、其恐慌蓋し常ならざるべしと雖も元來看貫料なるものは、生絲の取引有れば即ち生じ無ければ即ち生ぜざる極めて其根抵不確實なるものなれば、斯る收入に一身一家の衣食を托せんよりは寧ろ之に換ふるに一定の給料を要求するを以て安全の策なりと云ふべし、然るに事此に出でずして强て看貫料を存續し之を以て生絲貿易の要衝に立つ人の給料又は所得となさんとするが如きは漸く文明の域に達せんとする生絲貿易をして依然として世界に類例なき維新前の弊習に甘んぜしめんとするものと云はざるべからず、故に若し看貫料廢止に反對するものあらば、そは眼中國家なく蠶業なく唯自己の懐都合を見て說を立つる者のみ識者は斷じて之に與みせざるなり。

▲蠶絲業陳列館の位置は横濱が適當

今や生絲貿易は横濱埠頭の獨占に歸し年々顯著なる發達を見るは喜ぶべき現象なりと雖も神戸市に於ては關西製絲業の發達に伴ひ再び生絲貿易を開始せんとするの企ある事は蓋ふべからざるの事實にして露國亦西比利亞鐵道に依り生絲の輸送を開始せんとし、彼我の交渉着々として進行するものあれば將來の敦賀港は必ずしも生絲貿易市場たらずとは强ちに斷言し得ざるものあり、然れば横濱市たるもの曷ぞ現況に安んずるを得んや須らく生絲市場の革新と發展とを圖りて他をして一指だも染めざらしむるの用意こそ肝要なり、此秋に當り帝國否世界唯一の一大蠶絲業陳列館を横濱市に建設して一面市の美觀を添ふると共に其繁榮に資し他面生絲市場の發展擴張に資せんとす、苟も籍を横濱に置く者誰か之に反對する者あらんや、某大官は謂へり、蠶絲業陳列館の建設は未曾有の壯擧なり殊に陛下の御即位五十年を記念する爲に建設するの美擧誰か之を贊せざらん、宜しく地を東京市丸の內に相し　皇居と相對し千古の美觀を添ゆる亦可ならずや、若し大日本蠶絲會にして茲に意あらば大に努力する所あるべしと、然れども生絲貿易に深き關係を有する横濱市を措て他に之を建設するの意思毫も存せざることを告白すると共に高潔なる內外生絲貿易商の協贊を得て一大記念館を横濱埠頭に遺さんと欲するものなり。

畑内氏は實業に精勵せし廉を以て去四月十日綠綬褒章を下賜せられたり其賞詞左の如し。

和歌山縣那賀郡安樂川村　畑内篤左衛門

資性謹厚夙に柑橘事業の有利なるを覺り明治二年始めて荒蕪を拓きて之を栽培し當業拾要の法を研究して鄕民を指導し同業者を糾合して購販社を興し社長と爲り鋭意販路の擴張包裝の改良を計り尋て聯合組合を結び組長と爲り海外に輸出を試み又ネーブルオレンヂの苗種を米國より移植して百方苦心之れか蕃殖に努め今や巨額の產出を見るに至らしめ或は倉庫を築造して之れか貯藏を圖る等夙に實業に精勵し衆民の模範たる者とす依て明治十四年十二月七日勅定の綠綬褒章を賜ひ其善行を表彰せらる

予が特許生絲繰製法に關する試驗の成績如何

農學士　中村雅次郎

昨秋富士紡績會社商事課長井上篤太郎君及同社員小幡九一君兩氏の公にしたる生絲繰製法に就き試驗をなすは趣味あることゝ信じたるが故に、東京蠶業講習所に於て之れが試驗を行ふことゝなせり、其の方法及成績以下記載の如し本試驗を分ちて第一試驗及第二試驗の二となせり。

第一試驗にありては東京府下立川產の春蠶繭及秋蠶繭を用ひ左の二區に分ちて製絲試驗を行へり。

一、標準區＝本所所定の方法により製絲せるもの
二、藥液區　右藥液を小幡氏所定の通り使用して製絲せるもの

右小幡氏の余に向つて所定したる藥液使用法は左の如し。

一、繭を普通の繭煮より約三分長く煮熟したる後藥液中に浸漬すること
二、發明者の調劑したる藥液を六十倍に稀釋して用ゆること
三、右稀釋液を陶製の器物に入れ其の中に熱煮せる繭を二三分間浸漬すること、容量は繭面を浸するより少しく餘分に入れ煮繭を浸漬したるとき液が微溫となる程度とすること
四、所定の時間浸漬後は充分に藥液を滴下せしめたる後直に繰絲鍋に入るゝ事
五、該稀釋液を反覆使用する場合には茶飲茶碗に一杯乃至一杯半の新なる稀釋液を加へて使用すること
六、煮釜には該藥液を入れざること

第二試驗にありては右春蠶繭より繰製したる生絲に就き、練減試驗並に左記の狀態に於ける場合の强伸力の比較試驗を行へり。

一、乾燥狀態に於て兩種生絲の强伸力の差異
二、濕潤狀態に於て兩種生絲の强伸力の差異
三、高溫度に觸れしめたる場合の兩種生絲の强伸力の差異
四、日光に晒したる後兩種生絲の强伸力の差異

▲第一試驗

甲、春蠶繭

東京府下立川產の春蠶繭にして乾繭一升の重量三十六匁同粒數二百七十六顆のものを用ひ、各區四升宛三回反覆して製絲試驗を行へり。

其の成績以下順次記載の如し。

繰絲工程經過表

種別	煮繭 回數	煮繭 時間	索緒 回數	索緒 時間	繰絲時間	總時間	切斷數	對生絲十匁時間 繰絲時間	對生絲十匁時間 總時間
標準區第一號	八	一′〇四	三一	′四九	二′四六	三′四一	三九	′三六	一′二四
同第二號	八	一′〇四	三一	′五八	二′五九	三′五五	四四	′四五	一′二五
同第三號	八	一′〇四	三五	′五二	二′五六	三′三三	三四	′四四	一′二四
藥液區第一號	八	一′〇六	三四	′四四	二′四四	三′五五	三四	′三五	一′二八
同第二號	八	一′三八	三四	′四八	二′五五	三′四三	四八	′四〇	一′二八
同第三號	八	一′三八	三四	′四四	二′五六	三′四四	二六	′三五	一′二六

右成績を平均すれば左の如し。

種別	煮繭 回數	煮繭 時間	索緒 回數	索緒 時間	繰絲時間	總時間	切斷數	對生絲十匁時間 繰絲時間	對生絲十匁時間 總時間
標準區	八	一′〇四	三一	′五〇	二′四三	三′五六	四四	′四四	一′二四
藥液區	八	一′三六	三四	′四六	二′五四	三′四八	三五	′三五	一′二五

右の成績に依れば藥液區は索緒繰絲兩時間共短く、切斷數も亦少し、而して其の繰絲の狀況を見るに、先づ煮繭處理後に於ける繭を檢するに、藥液區は標準區に比し繭面稍粗となり軟滑ならず、多少緊りたる氣味を有するに至る、從て其の繰解幾分遲るの傾向を有し爲めに落緒繭稍多し。

種別	原繭重量	生絲重量	屑物 緒絲量	屑物 繭襯量	屑物 殘繭 粒數	屑物 殘繭 重量	屑物 揚繭 粒數	屑物 揚繭 重量	屑物 合計重量	蛹重量	減耗量
標準區第一號	一四四	四〇・三九	六・八五	六・二一	二七	・六九	八	・四〇	一五・六五	六八・四四	二〇・三五
同第二號	一四四	三六・九五	六・八八	六・二七	三五	・五三	九	・二二	一五・七八	六八・四六	二二・八五
同第三號	一四四	三六・七二	六・八五	六・六三	三〇	・四八	九	・五五	一四・五五	六九・三三	二二・二五
藥液區第一號	一四四	四四・三六	五・八〇	六・二〇	三五	・四四	八	・五六	一三・八三	六四・五六	二六・四四
同第二號	一四四	四一・六四	五・八四	六・二〇	三五	・五七	四	・三三	一二・〇五	六五・九五	二五・七九
同第三號	一四四	四〇・八四	五・六八	七・〇七	二〇	・五七	六	・二二	一三・四四	六六・六五	二六・二九

右成績を平均すれば左の如し。

種別	原繭重量	生絲重量	屑物 緒絲量	屑物 繭襯量	屑物 殘繭 粒數	屑物 殘繭 重量	屑物 揚繭 粒數	屑物 揚繭 重量	屑物 合計重量	蛹重量	減耗量	對原繭重量步合 生絲	對原繭重量步合 屑物	對原繭重量步合 蛹	對原繭重量步合 減耗	對生絲重量步合 緒絲	對生絲重量步合 繭襯	對生絲重量步合 殘繭	對生絲重量步合 揚繭	對生絲重量步合 合計
標準區	一四四	四〇・〇八	六・八〇	六・三〇	三〇	・四八	九	・五五	一五・九三	六九・〇五	二二・一〇	二七・八六	・九七	四・八〇	一・五七	一・七三	一・五七	・一二	・〇六	三・四六
藥液區	一四四	四〇・八二	五・七二	六・六三	三三	・五六	六	・三四	一三・二〇	六五・六五	二四・四四	二八・八五	・八二	四・五六	一・三〇	一・五九	一・六三	・一五	・〇六	三・三〇

右成績に依れば絲量に於ては藥液區多く、即ち繭一升に對し一分八厘餘の增加を示せり、之れに反し屑物量は藥液區に於て少なきを認む。

生絲品位檢査成績表

種別	色澤等級	纖度 最太	纖度 最細	纖度 平均	類節 大類	類節 小類	類節 合計	强伸力供用絲纖度	强力 最多	强力 最少	强力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	伸度 割合
標準區第一號	一	一八・〇	一一・〇	一三・九五	二・五	一〇六・〇	一〇八・五	一四・〇	六四	四〇	五三・五	一三七	九六	一〇五・七	五・二一
同第二號	一	一六・〇	一〇・〇	一四・二五	六・〇	一三九・五	一四五・五	一四・〇	六四	四七	五三・二	一五五	八七	一一五・〇	五・六六
同第三號	一	一七・〇	一一・〇	一三・八五	四・五	一三五・〇	一二八・五	一四・〇	六五	四六	五六・二	一五三	八〇	一一三・六	五・五五
藥液區第一號	二	一六・〇	一一・〇	一四・三三	二〇・五	一七五・〇	一九五・五	一四・〇	六五	四五	五六・六	一二八	八五	九七・九	一・八六
同第二號	二	一七・〇	一三・〇	一四・〇七	一・〇	一五〇・〇	一六〇・〇	一四・〇	六五	四〇	五四・六	一二六	八六	一〇六・八	五・四四
同第三號	二	一六・〇	一〇・〇	一四・四五	八・五	一八四・〇	一九二・五	一四・〇	六五	四五	五五・七	一三三	九二	一一一・五	五・五五

種別＼項目	色澤等級	纎度 最太	纎度 最細	纎度 平均	纇節 大纇	纇節 小纇	纇節 合計	强伸力供用絲纎度	强力 最多	强力 最少	强力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	伸度 割合
標準區	一	一六・〇	一〇・〇	一四・〇八	四・五	二九・五	一三六・八	一四・〇	六五	四〇	五三・八	一五・〇	七・六	一一〇・四	一二・二
藥液區	二	一六・〇	一〇・〇	一四・四九	一三・五	一六九・〇	一八二・五	一四・〇	六五	四〇	五五・六	一五・三	八・五	一〇五・四	一二・一

備考 一、强伸力測定に於ける温濕度左の如し

平均温度 六二度

同 濕度 六二度

二、纇節は各區各項檢纇器に捲き取り五回反覆して檢査を行へり

强伸力は各區各項十本宛を採り五回反覆して檢査を行へり

右成績に依れば生絲の光澤は兩區大差なきも色に於ては藥液區は赤味を帶び一見兩區判然たるを見たり、手觸りにありては藥液區稍粗硬にして且つ枠角多少固着の氣味を有す、纇節は藥液區甚だ多く、殊に大纇にありては「ズル節」多しとす、而して强力は藥液區稍多きも伸度に於ては稍少し、要するに藥液區は强力を除くの外概ね品位劣れる結果を得たり。

乙、秋蠶繭

東京府下立川産の秋蠶繭にして乾繭一升の重量三十六匁同粒數三百四十顆のものを用ひ各區四升宛三回反覆して製絲試驗を行へり、其の成績以下順次記載の如し。

繰絲工程經過表

種別＼項目	煮繭 回數	煮繭 時間	索緒 回數	索緒 時間	繰絲時間	總時間	切斷數	對生絲十匁時間 繰絲時間	對生絲十匁時間 總時間
標準區第一號	八	、三六	三五	、二六	六五・三五	六六・二六	四三	一、〇六	一、三六
同 第二號	八	、三六	三五	、二六	六五・三四	六六・一三	二六	一、〇三	一、二四
同 第三號	八	、三六	三五	一、〇〇	六五・三三	六七・四〇	四六	一、〇七	一、二六

右成績を平均すれば左の如し。

種別＼項目	煮繭 回數	煮繭 時間	索緒 回數	索緒 時間	繰絲時間	總時間	切斷數	對生絲十匁時間 繰絲時間	對生絲十匁時間 總時間
藥液區第一號	八	一、一三	三一	一、一三	六八・四四	六九・四八	三一	、三九	一、四二
同 第二號	八	一、一三	三五	一、二六	六八・二八	六九・五四	三五	、三九	一、四六
同 第三號	八	一、一三	三五	一、〇九	六八・三四	六九・四四	三三	、三九	一、三九

右の成績を平均すれば左の如し。

種別＼項目	煮繭 回數	煮繭 時間	索緒 回數	索緒 時間	繰絲時間	總時間	切斷數	對生絲十匁時間 繰絲時間	對生絲十匁時間 總時間
標準區	八	、三六	三三	、三六	六五・四四	六六・五四	四〇	一、〇五	一、二六
藥液區	八	一、一三	三四	一、一六	六八・三三	六九・四〇	三三	、三九	一、四四

右成績に依れば藥液區は標準區に比し索緒時間長けれども春蠶繭の場合と同じく繰絲時間短く、且つ切斷數少し、然れども藥液區は標準區に比し繰解幾分澁るの結果落緒繭多く、特に繰詰の際に甚だしく、從て索緒回數甚だ多きを致せり。

絲量及屑物量調査表

種別＼項目	原繭重量	生絲重量	屑物 緒絲量	屑物 蛹襯量	屑物 殘繭 箇數	屑物 殘繭 重量	屑物 揚繭 箇數	屑物 揚繭 重量	屑物 合計重量	蛹重量	減耗量
標準區第一號	一四四・〇	五四・五二	八・〇七	六八・〇一	一三	、三七	—	—	一六・五二	六八・三〇	三四・九九

種別＼項目	原繭重量	生絲重量	屑物 緒絲量	屑物 蛹襯量	屑物 殘繭 箇數	屑物 殘繭 重量	屑物 揚繭 箇數	屑物 揚繭 重量	屑物 合計重量	蛹重量	減耗量
標準區第二號	一四四〇	五四、五五	八、四〇	七、一五	三六	一、〇〇	—	—	一六、八五	六七、四〇	三五、三三
同 第三號	一四四〇	五四、四三	八、四〇	七、一九	三六	、六一	—	—	一六、四〇	六七、〇九	三五、九九
藥液區第一號	一四四〇	五四、三九	八、〇五	七、四九	三四	、四五	一〇	、三二	一六、三三	六七、三五	三六、〇九
藥液區第二號	一四四〇	五四、六八	八、七四	七、八三	一〇	、四三	九	、三六	一七、九九	六七、四九	三五、四〇
同 第三號	一四四〇	五三、六六	八、四三	七、七四	二八	、四八	一〇	、三三	一六、六六	六八、二〇	三七、一四

右成績を平均すれば左の如し。

種別＼項目	原繭重量	生絲重量	屑物 緒絲量	屑物 蛹襯量	屑物 殘繭 箇數	屑物 殘繭 重量	屑物 揚繭 箇數	屑物 揚繭 重量	屑物 合計重量	蛹重量	減耗量	對原繭重量步合 生絲	對原繭重量步合 屑物	對原繭重量步合 蛹	對原繭重量步合 減耗	對生絲重量步合 緒絲	對生絲重量步合 蛹襯	對生絲重量步合 殘繭	對生絲重量步合 揚繭	對生絲重量步合 合計
標準區	一四四〇	五四、六八	八、八二	七、〇六	三六	、四五	〇	、〇〇	一六、六二	六六、八八	三五、八二	三、四一	一、一五	四六、四	二、四〇	一六、一四	一三、〇四	、二一	、〇〇	三〇、七九
藥液區	一四四〇	五四、三三	八、五九	七、四三	三一	、四〇	一〇	、三五	一六、八七	六七、八八	三四、〇〇	三、七六	一、一七	四七、二三	二、三五	一五、七六	一三、六五	、七三	、〇九	三〇、四〇

右成績に依れば絲量は藥液區に於て稍劣り、繭容量一升に對し一分一厘餘の減量を示せり、之れに反し屑物量は藥液區稍多し、而して右屑物量の各項を見るに緒絲量は却て藥液區の方少なかりしも、蛹襯量及揚繭量が藥液區に於て多きを認むべし、之れに依て之れを觀れば本秋蠶繭の試驗に於て絲量及屑物量の成績春蠶繭の場合と全然反對の成績を示したるは蓋し秋蠶繭に於ては春蠶繭の場合に比し、藥液區は解舒更に進り落緒繭甚だ多かりしに因るが如し。

生絲品位檢査成績表

種別＼項目	色澤等級	纎度 最太	纎度 最細	纎度 平均	纇節 大纇	纇節 小纇	纇節 合計	强伸力供用絲纎度	强力 最多	强力 最少	强力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	伸度 割合
標準區 第一	一	一七・五	一二・〇	一四・八二	二・〇	四四・九	四六・九	一四・〇	六五	四〇	五〇・六	一三・六	八・〇	一〇・五九	一三・〇八
同 第二	一	一八・〇	一二・〇	一四・六六	一・〇	三五・八	三六・八	一四・〇	六六	四〇	五〇・八	一二・二	八・〇	九・六六	一二・八
同 第三	一	一八・〇	九・〇	一四・六〇	一・〇	四九・八	四九・八	一四・〇	六五	四〇	五〇・六	一二・八	八・〇	九・九六	一二・八
藥液區 第一	二	一八・〇	九・〇	一四・四〇	〇・〇	四九・二	四九・二	一四・〇	六五	四〇	五〇・七	一三・六	八・〇	一〇・四八	一三・〇四
同 第二	二	一八・五	一二・〇	一四・〇九	一六・〇	八七・四	一〇三・四	一四・〇	六五	四〇	五一・八	一〇・九	八・〇	九・六八	一八・八
同 第三	二	一八・〇	一二・〇	一四・八八	一〇・〇	二一一・七	二二一・七	一四・〇	六五	四〇	五一・八	一二・二	八・〇	九・九八	一八・八

備考

一、强伸力測定に於ける温濕度左の如し。

平均温度 六二度

平均温度 六二度

二、纇節は各區各項檢纇器に捲き取り五回反覆して檢査を行へり强伸力は各區各項十本宛五回反覆して檢査を行へり

右成績を平均すれば左の如し。

種別	色澤等級	纖度 最太	纖度 最細	纖度 平均	纇節 大纇	纇節 小纇	纇節 合計	強伸力供用絲纖度	強力 最多	強力 最少	強力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	伸度 割合
標準區	一	一六、八	一〇、五	一三、九	一、五	三五、四	三六、九	一四、〇	六五、〇	四二、〇	五〇、八	二一、〇	八、五	一〇〇、〇五	[illegible]
藥液區	二	一六、四	一〇、五	一三、八〇	六、五	八二、四	八八、二	一四、〇	六四、〇	四〇、〇	五二、四	一二、六	八三、〇	九八、五	[illegible]

右成績に依れば生絲品位檢査の成績は春蠶繭の場合と大差なく、即ち色に於ては藥液區は赤味を帶ぶるも光澤は大差なく、手觸は春蠶絲のときの如き差なきも倚藥液區の方稍粗硬なりしが如し、纇節は藥液區に甚だ多く特に「ズル節」の多きを認めたり、又強力は藥液區稍勝りたるも、伸度は稍劣れるを見るべし、要するに強力を除くの外藥液區の生絲品位は劣れる感あり。

▲第二試驗

右試驗中春蠶繭の製絲試驗により得たる生絲につき、練減試驗並に各種の狀態に於ける強伸力を調査せるに、其の成績以下記載の如し。

（一）練減試驗

供試生絲量(無水量)の四分の一の「マルセーユ石鹼」を無水生絲量の三十倍の蒸餾水に溶解し、此の石鹼液中にて生絲を煮沸すること四十分の後、同工程を反覆し、次に清水及蒸餾水にて順次絲を洗滌したる後無水生絲量に對し三%二%一%の結晶炭酸曹達水にて順次洗滌し、次に蒸餾水にて再び洗滌を施し最後に稀醋酸液中に約一分間浸して精練を施せり、其の成績は左の如し。

種別	原重量	無水量	精練後無水量	練減量	無水生絲量に對する同上%
標準區第一	一〇、五一	九、一一	七、七六	一、三五	一四、八二
同 第二	一〇、二七	九、一一	七、五六	一、五五	一七、〇四
同 第三	八、七二	七、七六	六、四七	一、二九	一六、六二
平均	九八、二三	八、六六	七、二六	一、四〇	一六、一三
藥液區第一	一〇、〇五	八、五三	七、四五	一、〇八	一二、六六
同 第二	九、六三	八、三二	七、一七	一、一五	一三、八二
同 第三	九、九九	八、八九	七、三五	一、五四	一七、三二
平均	九、八九	八、五八	七、三二	一、二六	一四、六五

右成績に依れば藥液區は標準區に比し練減量少なきを認む而して精練後の品位を檢するに藥液區は標準區に比し色は赤味を帶び手觸も幾分粗硬の感をなせり。

（二）乾燥狀態に於ける強伸力

乾燥狀態に於ける、兩種生絲強伸力の差異を知らんが爲め、標準藥液兩區の春蠶絲を鹽化石灰を入れたる「デシケーター」に容れ二晝夜間放置し乾燥せしめたる後之れを取り出し充分乾燥せろ室内にて其の強伸力を檢したるに左の如し。

種別	強伸力供用絲纖度	強力 最多	強力 最少	強力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	伸度 割合
標準區第一號	一四、〇	六六	五三	五七、一	八〇	五四	六九、三	一、二〇
同 第二號	一四、〇	六五	四八	五八、四	八七	六三	七八、八	一、六〇
同 第三號	一四、〇	六五	四九	五七、〇	八四	六二	七三、〇	一、五〇
平均	一四、〇	六五、三	四九	五七、八	八三、三	五九	七三、三	一、四〇
藥液區第一號	一四、〇	六八	五三	五八、三	八〇	四八	六九、五	一、三五
同 第二號	一四、〇	六三	四八	五二、六	八七	五三	七二、八	一、四八
同 第三號	一四、〇	六五	五〇	五八、三	八〇	六〇	七四、八	一、四八
平均	一四、〇	六五、三	四八、三	五四、四	八二	五五、七	七二、〇	一、四三

備考

一、強伸力測定に於ける温濕度は左の如し

平均温度　九二度

同　濕度　乾球と濕球との差二二度

二、各區各項十本宛を取り三回反覆して強伸力の檢査を行へり。

右成績に依れば乾燥狀態に於ては藥液區は標準區に比し強力伸度共に稍少し、共に之れを普通の狀態に比するに藥液區は乾燥の爲めに強力は幾分影響せらるゝが如し。

（三）濕潤狀態に於ける強伸力

濕潤狀態に於ける兩種生絲の強伸力の差異を知らんが爲め、硝子壜中に水を入れ器内を濕潤ならしめ標準藥液兩區の春蠶絲を入れ三晝夜間放置して充分吸濕せしめたる後之れを取り出し、更に濕氣の飽和せる室内に於て強伸力を檢せしに左の如し。

種別	強伸力供用絲纖度	強力 最多	強力 最少	強力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	伸度 割合
標準區第一號	一四、〇	七〇	四〇	四六、五	一二五	一〇〇	一一三、六	[illegible]
同 第二號	一四、〇	六五	四〇	五〇、九	一二九	一〇〇	一一四、九	[illegible]
同 第三號	一四、〇	六五	四一	四四、五	一二五	一〇一	一一三、五	[illegible]
平均	一四、〇	六六、五	四〇	四六、〇	一二六、五	一〇〇	一一四、一	[illegible]
藥液區第一號	一四、〇	七〇	四〇	四八、五	一二九	一〇一	一一五、五	[illegible]
同 第二號	一四、〇	五六	四〇	四七、七	一二五	一〇〇	一一六、一	[illegible]
同 第三號	一四、〇	六五	四〇	四七、九	一二五	一〇一	一一六、〇	[illegible]
平均	一四、〇	五七、九	四〇	四八、〇	一二九	一〇一	一一五、一	[illegible]

備考

一、強伸力測定に各ける温濕度は左の如し。

平均温度　六三度

同　濕度　飽和度

二、各區各項十本宛を取り三回反覆して強伸力の檢査を行へり

右成績に依れば藥液區は標準區に比し強力は同一なるも伸度は稍多し、之れを普通の狀態に比すれば藥液區は濕潤狀態に於て伸度の增加步合大なるが如し。

（四）高温接觸後の強伸力

高温度に接觸せしめたる後兩種生絲の強伸力の差異を知らんが爲め標準藥液兩區の生絲を攝氏百二十度の温度に五時間接觸せしめたる後其の強伸力を檢せしに左の如し。

種別	強伸力供用絲纖度	強力 最多	強力 最少	強力 平均	伸度 最多	伸度 最少	伸度 平均	伸度 割合
標準區第一號	一四、〇	五七	四二	四八、〇	一二四	八二	九六、二	一、六四

標準區第二號	一〇〇	五五	一〇〇	四八・八	一二・四	五五・四
同　第三號	一〇〇	八〇	一〇〇	五七・七	一二・〇	七二・〇
平　均	一〇〇	五七・五	一〇〇	五〇・〇	一二・〇	六二・〇
藥液區第一號	一〇〇	五七・五	一〇〇	五六・七	一二・〇	七〇・七
同　第二號	一〇〇	五七・五	一〇〇	五八・三	一二・〇	七一・三
同　第三號	一〇〇	五七・五	一〇〇	五八・〇	一二・〇	七〇・〇
平　均	一〇〇	五七・五	一〇〇	五八・〇	一二・〇	七〇・〇

備考

一、強伸力測定に於ける溫濕度左の如し

平均溫度　七〇度
同　濕度　五六度

二、各區各項十本宛を取り三回反覆して強伸力の檢定を行へり。

右成績によれば藥液區は標準區に比し強力僅かに多く伸度は之に比し稍少なし、此の結果は普通狀態の時と其の揆を一にせり。

（五）日光接觸後の強伸力

日光に接觸せしめたる後の強伸力を比較せんが爲め標準區藥液區の各區共に繭層の表面繊維を採り各其の一部を快晴の日を撰び日當り好き場所に一日七時間の割合にて五日間晒し他の一部は室內に放置し、此の兩者に就き強伸力を比較せしに左の如し。

項目	強伸力			伸度		
區別	最多	最少	平均	最多	最少	平均	割合
標準區日照	一〇〇・〇	六〇・〇	一〇〇・〇	一二・〇	八・〇	一〇・〇	一〇〇・〇
藥液區日照	一〇〇・〇	六〇・〇	一〇〇・〇	一二・〇	八・〇	一〇・〇	一〇〇・〇
標準區室內放置	一〇〇・〇	六〇・〇	一〇〇・〇	一二・〇	八・〇	一〇・〇	一〇〇・〇
藥液區室內放置	一〇〇・〇	六〇・〇	一〇〇・〇	一二・〇	八・〇	一〇・〇	一〇〇・〇

備考

一、強伸力測定に於ける溫濕度は左の如し。

平均溫度　五〇度
同　濕度　七〇度

二、各區十本宛を取り三回反覆して強伸力の檢査を行へり。

右成績に依れば強伸力は標準藥液兩區共日に晒したる方少なく、伸度は標準區は日晒のもの稍少なく、之に反し藥液區は室內放置區のもの稍少なかりし、要するに日光接觸後強力にありては藥液區の方稍多く減じたるも伸度にありては之れに反し標準區の方多く減じたり。

以上の諸成績を綜合すれば左の如し。

一、井上氏特許生糸繭製法によるときは、繭は其使用藥液の主要成分たる「フォルマリン」の收斂作用により幾分凝固し其の結果繰解稍緩慢となり、落繭繭を生ずること多し。

二、右凝固の結果は繊維を減ず、故に原料繭にして、解舒良好なるときは藥液の爲めに凝固作用を受くるも落繭並繭層等を生ずること比較的少なきが繰量を增加する傾向を有す、然れども原料繭にして解舒不良の場合には全く反對となり落繭並繭層最等を增加し其の結果生糸量を稍減ずるに至るが如し。

三、井上氏の藥液は生糸の强力を稍增加する傾向あるも伸度を稍減じ繊節を多からしめ、且つ生糸に一種獨特の味を帶ばしむる等顧して生糸の品位を損ずる傾向あり、然れども藥液の作用に依り「セリシン」凝固の結果繰減量を稍減ず。

四、本生糸は高値の爲め特に強伸力を多く減ずることなきも、乾燥狀態にありては普通の生糸に比し、强力を減じ濕潤狀態にありては伸度の增加大なり、而して日光接觸後に於ては伸度は減ずるも强力を減少し、且つ其の割合普通の生糸に比し稍大なり。

本邦に於ける人造絹絲の需要

學藝委員　明石　弘

編者曰く本報第二百三十七號に天下の製絲家が耳目を聳動すべき一大發明と題して紹介したる井上小村兩氏の發明に係る生糸繰絲法に對する中村學士の試驗成績は以上の如し本試驗に對し井上小村兩氏の意見や如何之を次號に掲げて讀者諸君の公平なる判斷を待たん哉

▲人造絹絲需要の趨勢如何

人造絹絲が佛國に於て初めて工業的に製出せられてより僅かに二十餘年、今や世界に於ける產額は五百五十萬瓦に達し生糸產額約四千萬瓦に對し一割三分餘に相當す、以て斯業發達の如何に急進せるかを想像するに難からず、而して其主なる生產國は獨佛英白米の諸國にして我邦は未だ之が製造を爲すものなきを以て其需要の全額を總て海外に仰ぐの狀態にあり、今試みに明治三十八年以來本邦に輸入せる人造絹絲の數量、並に價額を表示すれは左の如し。

年次	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年
數量	一〇瓦	一〇二瓦	四〇〇瓦	一三〇瓦	一〇〇瓦	一四二瓦	一四〇瓦
價額	一一六瓦	一一七瓦	三三三瓦	一一〇瓦	一一〇瓦	一一四瓦	一一四瓦

右表に據れは明治三十八年以來其輸入額は年々著しき增加をなし、四十一年に於ては幾分の減少を見たるも四十二年に於ては前年に比し四倍餘の增額を示めし、順次需要增加の趨勢を示めしたり、四十三年度に至りて輸入額を減少したり、然るに本邦關稅は四十四年七月より改正施行せらるゝ結果、從來從價一割五分なりし人造絹絲の輸入稅は百斤に付八十七圓九十錢即ち約三倍の高率に變更賦課せられむとする際なるを以て、四十三年度に於ては當然見越輸入をなす者あるべく從て其輸入額は增進をなすべしと、豫想せられたるに準實は

需要の減少を顧みるものと謂ふべきなり、次て昨四十四年に至りては果然其輸入額は頓に減少し前年に比し較量に於て六萬二千七百七十四斤(約四割三分)價額に於て二十三萬五千七百九十六圓(約六割)の減少を示し、愈々内地需要の減少を立證するに至れり。

▲何故に人造絹絲需要減少したるか

我邦に於ける人造絹絲需要者は直接生産國に注文して取寄する者なきにあらざれども、多くは神戸及横濱の外國商館を經て購入するの現狀に在るを以て、該品は殆んど神戸横濱の兩港より輸入すると云ふべき狀態なり、而して人造絹絲は其品質上光澤に於ては特殊の長所を有すと雖ども比較大にして強伸力乏しく、殊に濕氣に對する抵抗力薄弱なるが爲め其編物は衣服の料たるに不適にして、其用途の範圍は自ら局限せらる、即ち目下の所其需要は羽織紐、肩掛の總りボン等を主たるものとし、此他襟飾、裏地、裝飾用品等として使用せられ、又近來編物として衣裝の目的を以て試みつゝあるも、上記の缺點を全然除去し能はざるが爲め廣く行はるゝに至らず、僅かに帶地用として少額の需要を見出しつゝあるに過ぎざるものゝ如し、然るに一時盛んに流行せる天鵞絨肩掛は今や全く廢絶し、又戊申節期以後リボンの需要を減少せしが爲め內地に於ける人造絹絲の消費額に多大の影響を及ぼしたるものゝ如し、加ふるに最初は單に珍らしきものとして好奇心に驅られ使用したる者も漸次數種の缺點を發見し、又其價格の低廉に減はされて購入せる者も、其重量天然絹絲に比し約二割の大さを占むるを以て織物となす場合長に於て二割の損失あるを発れず、從て價格も比較的不廉に歸着するを悟り殊に取引上の紛擾は常に絶へず需要者をして思はずして不快を感ぜしめたる如き亦需要減少の一因たるを失はず。

▲人造絹絲取引上の缺點

人造絹絲の製法に付ては學者實業家の常に研究を怠らざる所にして、日に月に改良せられ、今や其製法數百種を算するに至れり、故に需要者に於ても一定の製品を以て、新着の見本と價格とを對照して成るべく割安のものを求めんとするは當然の事と謂ふべし、然るに人造絹絲は精巧なる工業的工程を經て製造せらるゝものなるが故に、微妙なる生物の力に依り生産せらるゝ生絲の如く常に品質の一樣を期し難く、同一會社に於て同一製法を以て製造せらるゝものと雖ども原料の相違藥品の配合等に依り其光澤强伸力等に於て或は色に於て均一なることを得ず、殊に二等品以下の品物に於ては曩之れが製造を期するあり、試に見本と一致することを得ざるは止むを得ざるの事實とす、然れども斯くの如きは需要者に取りては甚だ不快不利の柄にして、爲めに取引の圓滑を缺き紛擾を惹起せるの實例少なからず。

以上は人造絹絲輸入額の減少に關する事實を說明したるものなるが、更に本邦に輸入する人造絹絲の價格に付比較するは亦興味あることゝ信ず、即ち明治三十八年以來輸入せる數量と價額とに依り、毎一斤に對する價格を算出し比較表示すれば左の如し。

三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年
六、〇二二	四、六六	二、八〇	三、四四	二、八二	二、七〇	一、九〇

右表に據れば四十年に於ける驟騰を除けば本邦に輸入する人造絹絲の價格は年々低落するの傾向を示せり、而して其主なる原因は生産區に於ける價格の低落と內地に於ける加工の進歩とに歸すべきを信ず。

▲人造絹絲製造會社維持困難を訴ふ

人造絹絲需要の急進は實に驚くべきものにして常に生産の之れに伴はざるの狀態に在りしを以て其價格も比較的不廉にして各製造會社は巨額の利益を收めつゝありしが、近年同工藥は著しく發達して其生産力を激增せるに際し需要は其後豫期せるが如く擴大せられざりしを以て勢ひ各會社は其製品販路の競爭を惹起し、明治四十一年後半期より漸次價格の低落を招め今日に至るも猶恢復の氣運に向はず各會社は收益を低減し維持困難を訴ふるものあるに至れり。

▲人造絹絲安物の輸入

近時我邦需要者は人造絹絲の取扱に慣れたるが爲め一時困難を感じつゝありし染色の如きも、今や容易に且低廉に之れを行ひ得るに至り、又燃絲の如き加工絲類の輸入を減少せるものの如く、殊に近年は絹絲を整理するの技術に慣れたるが爲め屑絲と稱し其品質劣等なるにあらざるも、梓ハヅレ等絲繊の整頓を缺きしものを輸入し勞銀低廉にして揮端の器用なる我職工を用ひて之れが整理を行ふの利益を認め一封度一圓二三十錢位の安物を好んで輸入する者あるに至れり、而して屑絲整理の費用は常て十封度に付十圓以上を要せしが近頃に於ては職工の熟練せる爲め四圓內外の工費を以て優に實行し得るの程度に達せり。

藍綬褒章下賜

公衆の利益を興せし廉を以て去五月四日賞勳局より慶應義塾等左顯ぜられたり其賞狀左の如し

和歌山縣伊都郡山田村　戸川吉左衛門

資性溫厚夙に心を殖産興業に賴り殊に力を蒲萄の改良に致し苦心研鑽遂に大形蒲萄及醸造酒の製法を發明し蒲萄酒の改良試驗を重ね同業組合組織し推されて組長と爲り殖産興業の效實既諸の團體に勢め其製品市價は金國の首位を占め一年の產額拾萬五千六百餘圓に達せり同村の森林は明治初年の頃より今の繁盛たる千二百餘町の森林に育成し其他道路橋梁に公園に學校に農會に其事の發達に貢献し公衆の利益を興せし者多し

慶應義塾等

右の種の公職に應ぜられ創設の事業を創立し公衆の利益を興せし者多し

明治三十年十月十七日勅定の慶應義塾等の褒賞は其時行なる表彰せらる

山形流沈煮製絲術の應用に就て

京都蠶業講習所技手　村形貞次郎

●山形流沈煮製絲術とは何ぞ

山形縣下に於ける主なる製絲は概ね煮繭製絲法に依り繭を湯の中に沈む樣に煮之を製絲するの方法にして其製出生絲は市場に於て羽前エキストラと呼ばれ常に盤價を博しつゝある優等品なり、元來優等絲を製出するときは其繰糸功程多かるべからざるも常となせども彼の製絲家に在りては一工女平均功程大概一斗二升の多きに達せず、如斯製絲家にて製出する生産力を働め工費を節約しつゝ盛んに優等絲を産出し、其事業比較的順調に發展しつゝあるが如きは他地方に類例の尠なき實況なりとす、此に於て近年著しく不振を告げる我製絲界より稍々注目せらるゝに至り、之が視察として、試地に向ふ者少からず聞く。

一工場平均一人の功程一斗二升之を平均七八升の工場より見るときは實に此上なき良法の如く大に賞讃せざるを得ず、然りと雖も更に彼の地に於ける現在の方法に付仔細に調査研究するときは猶一段の改善を要すべき點多く自ら研究の妙味に酔ふの感なくんばあらざるなり、即ち彼の地の現在に比し更に功程の增進に於て又更に絲歩の增收に於て共に著しき

○、一八六の減
二、七一九の減
一、〇五三の增

次增收の勢ひに趨けり。

一、繰絲功程――製絲終了の時期なるを以て原料繭は殘物の下等繭四種を提供せられ恰も殘繭整理の實況を呈せり、幸に講習期間全部を通算し、之を講習前同一原料の功程に比し――總平均五割以上の增進――又落繭多く解舒も不良なる殘繭なるに不拘最高の日は――總平均一人一斗一升の功程（二時間作業）に達し、僅々三十日間の講習にて既に羽前の繰絲功程を凌駕せし觀を呈せり、若し夫れ原料繭にして同一種なりせば彼の不良繭にても更に猶一段の功程增進を示せしなるべし。

講習初期平均
講習中期平均
講習終期平均

●技術を形式に流れしめ死絲製造者たる勿れ

現に山形縣下に於て行はるゝ煮方及繰り方に關しては能く其理に精通せる者極めて少なく又彼の工男女は主として器械的に仕上げたる技術を多年練習せる結果不知不識其技巧妙となり能く優等絲を斯く多量に繰絲するを見る實に盛なりと云ふべし、斯くして發達せる彼の現況を一二回の視察にて此技術方法の眞味を探知するは極めて困難なるべし、況んや形式主義の技術者又は製絲技術の內容に通ぜざる實業者輩の容易に其一端を窺ふこと能はざるにあらざるなきかを憂はざるを得ず。

文物の進歩に伴ひ諸種の技術に器械力巧に應用せられ、或は代用せらるゝ時代に進みたるが故に各種技術は然輕視せらるゝ傾きなきにあらざるも、我製絲に於ては大に此技術を應用すべき時代なりと雖も、決して議論に走らしめ又は形式に流れしむべきものにあらざるなり、而るに僅の觀察又は彼の地より斯工男女を一時聘用して彼の技術方法を移し以て從來の工業を改革せんとするが如きは此製絲技術を輕視せるの甚だしきものにして革に大膽なる加減實に驚かざるを得ざるや、斯くして此改革に當りて手せる工場は時に例外あるならんも管理者始め工男女に至る迄其改良すべき技術方法の原理、性質、長短及諸般の關係項等解するの能を讀ぜず只彼の方法に改むれば功程の增進し製出生絲の品位上進すべしと云ふが如き漠然たる概念を以て其事業を進むるに過ぎず、故に其結果たるや概ね彼の地の方法に極似せる形式的の方法と化するに至る、猶一歩進めて之を評するときは極く似寄りたる技術となるも、精神の裏に籠らざる術は靈魂の入らぬ機作に變化するなり、故に其功程に於て漸く二割內外の增進位に停止せんとするが如きを見る他は押して知るべきのみ。

眞に品質改良せられたる生絲に對しては買方に於て決して歡迎せざるの理なく、若し一時の如く隙生りとして其に愈に介するの價直なしと雖も、斯の如く變化せる技術にて製出せられたる生絲の多くは、生産者自ら其品位を知るの明なく

●山形流製絲術實施の概要

兵庫縣氷上郡の製絲業者は山形縣の製絲を視察せ從來の浮絲製絲法を彼の地の方法に改革するとの決心を以て帰郷し、結果、備として去る三月廿八日より三十日間煮繭部工男十五名繰糸部工女六十四名を募集して講習生となし余輩其講師として聘せられ初めて研究に係る技術方法を實驗するの機會を得勇んで該地に出張し、煮繭及繰絲に關する講義と實習とを教授せしに他種にも大要左の如き成績を見るに至れり。

一、生絲の品位――浮繰當時の生絲に比し其品位概して上進を示せり。

一、繰量――講習原料と同一原料には浮繰當時製絲せる繰量と對照するに其增減〈糸歩百分率〉左の如し。

改良を施すべく研究したる結果を此度工場的事業に實施して其効果を働めたるを以て茲に此技術方法を山形流とは名けたるなり、猶流義は其通例の式と稱せらるゝ特殊無形の技術及方法を製絲上に活用せる妙味ある術に係れり、之れが內容の詳細は何れ公表の機會を待つことゝせり。

之を浮織當時の生絲に比し少しく趣味の異なりたる所を見て取り、直に豫期の如く品位上進せるものと認め、市場に於て大に格上げを希望して止まざるが如し、問屋側の迷惑實に察せざるべからず、如斯生絲は實に形式的に變化したる操作によりて製出せられ靈魂の宿らざるが故に全く死人の如き世界の市場に飛躍する得ざるべく、何を以て世の生絲と相伍し世に只形式に流れたるの一顰蹙にあらざるなきか。

●見當違はず其特色を發揮せしめよ

彼の地の製絲の視察も彼の如く功程を進め彼の如き優物を造らんことを期し彼の方法を模倣し改良を始めたるものなきにあらず、其模様を採るに或は其歩に於て百分の二内外を減じ其功程に於て僅々二割内外を増し製出生絲の品位又羽前エキストラに及ばざるや遠きものあり、又或は專心改良に腐心し生絲の品位上進せしめたるも實先に故障生じ、遂に出品を不得して又舊來の浮織に逆戻りせるものあるが如く其情實に氣の毒に堪さるものあり、斯の如く彼の方法を移して充分に成効せしの殆んと之れなしと見え、山形縣下に盛に行はるる沈織、製絲法は獨り彼の地特有の方法にして他地方には其實施不可能なりと叫ぶの聲に至れり。

元來沈織製絲は其功程の増進に於て其品位の昂上に於て之を浮織に比し優かに優秀なる方法なるにもせよ、彼の地の方法を移せば直に羽前絲と同一品質の生絲を製造し得べしとなせば生絲の品位を高むると共に、其製造費に於て年々壹千餘萬圓の節約となり、其事業に及ぼす威力實に大なるものあらん、又工女の賃金に於ても其功程増進に從ひ現今の賃金に比し約十割の増加支給を見るに至らん、幾十萬の工女現くる多額の賃金を受くるに至らば製絲工女の地位は世人より重視せらるるに至らん、又自らに於ては其技を愛し熱心藏に服し求めずして其品性高尚なり、其場自ら高斯整然として元氣旺盛の長を呈するに至らん、斯くて之所謂の一大問題たる本邦生絲の品位改良も亦自ら根本的解決を見るを得ん研究の趣味亦此に至て妙ならずや。

●生産費壹千萬圓の節約工女賃金約十割増支給か

氷上の講習は余が研究實施の當初に係り講習生も亦從來の同一品質の生絲を製造せんには彼の地に工場を設け、彼れと同一品質の原料を仕入彼と同一方法技術に依り事業を經營するにあるのみ何ぞ、東海道又は中國等遠く彼の地に隔絶し從て原料繭の品質、工女の氣質及風土を異にせる土地に於て獨り彼の地のみ移せばとて如何で同一品質の生絲を得べけんや、要は其土地原料固有の特色を發揮せしめ彼の絲質に類似せるもの或はより以上の優等生絲を製出するにあり。

今回實驗せる山形流沈織製絲術は彼の地に行はるゝ沈織に更に一段の改善を加へたる法術なるが故に生絲の品位に於て彼來浮織に比して製出せる生絲（特殊の品を除く）に對して更に改良を加へ繰絲功程にありては一人の功程平均一斗四五升に進め大に工場生産力を増進し而かも絲歩に於て彼の地の現在方法に比し絲量増收等の特色を有し、其反面に於て更に損所なきにあらずと雖も、其損所たる極めて微々たる者にして敢て此流の採否に關するの程の問題にあらず、故に計畫其宜しきを得る術法なれば、之が改革の初年より多少の利益を進めつゝ安全に改良し得る術法なれば、之が改革に伴ふ一時の故障を覺悟したらんには其成効容易なるを知に難からず、實に製絲經濟上興味ある流義にあらずや、只此流は實施の當初なるが故に採用希望の工場あるに於ては該工場の氣風製出生絲の品格工女の技能等を調査し只其實行に前後あらしむるの要あるのみ。

桑園の復舊は勤勞に在り（承前）

農學士　十時雄次郎

▲今日の勞働力は減少しつゝあり

斯の如くして勞働は單に賤きのみならず、其勞働力は減少しつゝあるやうである、其原因は勞働が勞働を賤む觀念は其一つである、其内容的觀念の増長は又其一つである、而して本邦の制度としても日はうか上の下を用ふることの師弟規則的に失するとも其一つである、維新後に於ける所謂成功者の經歴は又勞働を避け徒に機會を捕捉せんことにのみ意を用ひ（其半面をのみ見て）勞働を輕視するに至つた様に思はれる、此等の原因は勞働力を減少したるものゝ主要なるものであろう、此の如き觀念が吾人の頭を充したならば勞働に堪ゆるものでない、勞働に從事しても直ちに嫌服の情が起る勞働に對する趣味は淺却せられてしまふ、遂に放棄せらるゝに至る勞働せんと欲するも能はない様になる、今日に於ける勞働は果して中の中を用ひて居るか余輩は決して左様には感じない、精神的と肉體的勞働者の孰れに於ても十中の五六人果して勞働して居るであろうか、例へば官吏の如きに於て之を見るに最近本邦に於て員數に於て二割を淘汰したが浮織り織を沈織製絲に改むるものなるに依り織絲上の操作、大部分革めざるべからざるを以て其効果如何は氣遣はざるを得ざりしに幸に前述の成績を收めたるは敢て余輩より謙遜生が暫ひ力上手なりに相違なく、殊に郡當局和め當業者氏の援助及極めて有効なり事と信ずるを得ず故に何れの地方にも如斯新製織絲を取むるは近き思も寄らざる新なるべしと雖も、幸に新製織絲界に應用せられ、平均功程一斗四五升に増加し得たりとせば生絲の品位を高むると共に、其製造費に於て年々壹千餘萬圓の節約となり、其事業に及ぼす威力實に大なるものあらん、又工女の賃金に於ても其功程増進に從ひ現今の賃金に比し約十割の増加支給を見るに至らん、幾十萬の工女現くる多額の賃金を受くるに至らば製絲工女の地位は世人より重視せらるるに至らん、又自らに於ては其技を愛し熱心藏に服し求めずして其品性高尚なり、其場自ら高斯整然として元氣旺盛の長を呈するに至らん、斯くて之所謂の一大問題たる本邦生絲の品位改良も亦自ら根本的解決を見るを得ん研究の趣味亦此に至て妙ならずや。

●生産費壹千萬圓の節約工女賃金約十割増支給か

氷上の講習は余が研究實施の當初に係り講習生も亦從來の

其結果は更に事務に影響を來さない、來さないのみならず或方面に於ては反て敏捷なる結果を得たと云ふとてはないか、然し之を外國等の例に比すれば本邦は遙かに其割合に於て多數なることを認めることが出來る、しかるに又れば尚淘汰するも敢て過支はあるまいと思ふ、其勞働に從事するものが余輩の始めて述べし如く勝仰天地に恥ならざる心を以て勞働に從事する場合を云ふにあることは、其勞働に從事するものが余輩の忘るゝ能はざる所なるべし、唯此際忘るゝことの出來ないのは、其勞働に從事するものに於ても例へば農夫の勞働、工男、工女の勞働の如きも充分に利用せられて居ない、余輩は地方に於ける勞働日と然らざる日との割合を見るも、自由勞働者と自由勞働者の勞働功程に驚くべき五六割に止まる如く見て居る、工男工女の如きに於ても全く然りである、要するに今日の勞働力は減少しつゝありて且つ甚だ少いことを知る、而て又他に異論はあるまいと思ふ。

▲勞働力の減少を增加するは體力の養成に在り

勞働は初め隙しく精神的と肉體的に分れるが、其孰れにすも勞働すれば其功程は其人の體力如何に關することは申までもなく、其人の勞働を爲す官吏の如き學校の教師も身體が强壯なることを要する、强壯なる時は充分に奮闘することが出來る、例へば官吏にして如何に多くの事件が輻湊するも必ず片つ端より整理するとが出來る、整理するとが出來るのみならず疲勞を感ずることが少ない、假りに疲勞するも其疲勞に打勝つことが出來る、加之其判斷力は明晰である、所謂一刀兩斷の弟に出ることが出來る、之に反して虛弱であり又は疾病に罹ると云ふ時は決して右の如く出來ない、直ちに疲勞して仕事が明晰でなく、判斷も誤謬に陷り易い、そして功程は其人の能力に於て體力に衰ふるのは充分の働强が出來ない、學校教師の如きは遂に生徒に滿足を與へることは出來ない、殊に肉體的勞働者に於ては論を俟たない、故に今日に於ける勞働力の減少を增加するには體力の養成より他にはあるまい。

▲絶體的體力の必要なる場合あり

體力養成の如き、衛生家の論ずべきものであつて吾人は今茲に論ずるの餘暇がない、併し體力と云ふも絶對的體力の必要は吾人の主張する所である、絶對的體力なりとせんか、如何に養成し難く極に達するも馬牛には及ばない、體力の精神作用に由り如何にも左右せらるゝことを一通り論じ度と思ふ、勿論絶對的體力の必要なくないては、精神的戰爭の如きは直ちに見出されるが、如何に精神的に奮ふ元氣旺盛なる數日乃至數旬露はさるゝ時は到底耐ゆるものでない、此の如き際には絶對的體力の必要を見る、故に吾人は更に云ふ絶對的體力も無論必要であるが、比較的體力を無視する譯でなく、體力の比較的に於ては絶對的體力を無視する譯でなく、體力の比較的作用に由り、健であれば又疾病に陷らざる限りは精神的作用に由り、

如何にも體力を左右し其勞働を遂行することが出來ると云ふことを主張したいと云ふ許りだ、少し横道に入るの傾があるが、身體と精神との關係を述べて意志の存する所を明かにして見よう。

▲不用觀念の存在は疲勞を大にす

勞働は肉體であり人生と勞働が相離るゝことの出來ないものとして吾人が生存する限り勞働をしなければならぬ、然るに勞働をすれば身體が疲勞する此疲勞と云ふことも精神と一つである、例へば自己の從事する仕事に興味を有すると、即快樂の觀念を有する時は中々疲勞しない、之に反して毫も興味を有せず不精不精に從事する時は直ちに疲勞を感ずる、假りに興味を有すると有せざるとに關せず、是非爲さなければならぬと云ふ考の存する時と存じない時に於ても疲勞のしかたが異る人の事を云ふ迄もなく吾人の經驗によるも愚く然りて、最も得意とする學術の研究を爲す時は時の經過するも忘れるが、最も不得手の役所に於ても研究する時は必ず此仕事を仕遂げねばならぬと云ふ時と、本月中に仕遂げれば先づよしと云ふ時は大變に異る、又學校に於て實習を課せらるゝに厭しと思へば働く氣になれず、直ちに疲勞する、併し自己に進んでなさざるを得ないと云ふ時は一時間二時間疲勞を異にすることはない、是等により全く精神一つに由りて疲勞を大にする、又不用觀念の存在が疲勞を大にする、普通農業家は殆んど成否を天に任ずるが、養蠶家は成否を自然に知る、之は戶外の作業にて一は室內の作業であるから此差が生ずる、即ち養蠶家は成功の遲速を見ることが甚だ强い、結果の良否を考ふることが甚だ深い、一言に曰へば不用觀念が普通農業家より甚だ多い、從て疲勞すること多い、而て成功の遲速を考へ過ぎては成功を遲くし結果の良否を顧慮しては反て不結果に陷ることが多い、要するに精神の如何は身體の疲勞に大關係を生ずるものである、故に余輩は成功と結果は自然に任せ、唯業務の進行を樂み而て進行の現在の各歩丈けに注意せんことを希望する斯くしたならば疲勞を減ずることが出來るであらう。

▲智的肉體勞働ならざるべからず

又疾病にてもそうで精神如何に由る、精神は快不快は疾病の治療發作に大關係を有する、氣力の緊張に依りて病を治ずることもある、或は神經が（通俗の意味にて）病氣を誘發することもある、或は全く死に到らしむることもある、之等は一々例を擧げると面倒だから略するが故人古橋源六郎氏は病氣は忌憎の天罰であると云つた、勉强さへするならば各自の實務を充分遂しさへすれば病氣に罹ることはないと云はれた、余輩も學校に奉職して居る際は學生に此事を主張して病氣缺席へ無論輕微の風邪の類）を大に輕くした、兎に角精神が充分緊張して能く働く時は病氣に罹ることを少くすることは出來る、此の如くして精神療養法は存在することが出來る、又反對に身體の如何に依りて精神を爽快ならしむることは出來る、

とも出來る、例へば丹田の注意に於て腦髓を冷靜ならしむることが出來る、坐禪の如きも此一例である、以上精神と身體との關係を概略說いたが身體即ち肉體と精神とは別箇にして互に相關して居るものであり、而して身體の强弱は肉體の存在に依り充分に發揮することが出來るが肉體的勞働が精神の强弱に依り層一層其功果を多からしむることが出來る、例へば世に云ふ我身纖弱勞働に堪へずと、之素より强壯なるものと同一なる能はざるも、精神に興奮せざるときは勞働の能へないと云ふことは勞働即ち勤勉の念の少いものだろうと思はれる、勞働は肉體的の勞働と精神的の勞働とに二大別したが、其功程を充分にするには肉體と精神と相離るゝことが出來ない、然に於て獨り肉體的勞働を輕蔑することは出來ないことが充分判然するだろうと思ふ、牛馬の勞働の如き絕對的肉體的勞働であつたならば一文の價値はない、余輩は更に云ふ吾人人類に於て肉體的勞働も智的肉體勞働でなければならぬと云ふ事を、

▲現今の養蠶學は精神的患者ではあるまいか

兎に角現今に於て果して勞働が充分行はれて居るであろうか、我國に於ては國民一般に勞働的觀念が甚だ乏しい、外國殊に獨乙人等と比して見たならば此種の觀念の大差が存することを知るであろう、而して勞働力は種々の原因に依りて減少しつゝある、之は一般の繁榮であるが養蠶家に於ては此繁榮が稍大かすと丈做さなければならぬ點がある、何故にか養蠶家に於ては他の農業家よりは金錢的觀念とても云ふか拜金宗の念慮が餘程勝て居る、此考が寧ろ勞働嫌厭の念を生ずるのではあるまいかと思ふ、故に如何にせば勞働力を增加し得るものであるか、現今養蠶家の狀態は何ふであろうか、養蠶が利益があるならば養蠶家は有福にならなければならぬ、其れに反して福島縣下の某村の如き平均二百圓の負債があり、信州更級郡の某村の如き二百圓乃至三百圓の負債があると云ふことは無論の事である、此負債の原因は又種種あるに相違ないが、其主なるものは繭價法を誤て居ると云ふことであろう。如何に過て居るか、多くの金錢を得しが爲めに徒に其經費を膨大にする、而て却て損をする養蠶家の考は大に過て居る、即ち現今の養蠶家は勞働と別れたるが出來ない人生あれば勞働ありと云ふことを忘れて、金錢を得んが爲め、所謂利益を得んが爲めに勞働するので、考が根本から間違つて居る、之を普通農業家に於て見るも亦斯の如きものがある、一つも金の爲めに働くのであるが、故に金があれば勞働もしようとなる、勞働に對する考は根本的に誤つて居る、身體は逸樂であるか、明らかならず精神は病的ではあるまい、余輩は現今の人少くも養蠶家は精神的の患者ではあるまいかと思ふ、此精神的疾患を治癒するに非ざれば勞働力を增加し養蠶家の其の利益を增加することは出來まいと思ふ。

▲拜金宗的思想に魅せらるゝことなく働く精神を要す

如何にせば此精神的疾患を治癒することが出來るか、既に述べし如く勞働の神聖なることを解するとより他に方法はないと思ふ、何故に働くかと云ふことを理解するより他には無い。働の目的が金錢の爲めであり食の爲であるならば人間の働く目的としては全く幼稚である。犬猫に至る迄食の爲めには心配して居るではないか、併し勞働は實に食の爲めと斗りすることは目的の一部に過ぎない、而して食の爲めと斗りするならば人間が萬物の靈たりと稱してゐたがるとは出來ない、働く目的は第一働て金を儲けることもある、次には名譽を求む爲めに働く此二つは萬國共通に働く目的であろうが英國人が働く目的の中には勞働其者を愛する性情を有するとも云ふことがあると云ふことである、此考がある故に英國人は商業上に於て他國に卓越することが出來又大に發展することが出來る、多くの殖民地を有しても我國も大に發展して韓國も我國の有效すると云ふのである、臺灣も我國の有となつて二の新らしき殖民地を得られたが、此高尚なる考を有しなかつたならば果して殖民政策に於て充分目的を達することが出來るであらうか、既に二宮尊德翁の報德會に述べし如く先生は天意を奉戴し天職の特性を擴充し以て天地の化育を贊成するを以て人道の本義と說きたるに其他八幡權現や琴平權現に所願を込むるも徒に神樂を上て御騰走すれば足るのであろうか、「人之ことに誠の道を盡さなば所らずとても神や守らん」と云ふ事もある、先生の言の如く人間が享有して居る所の特性を發展し天の與へし所の性を天の欲する儘に眞に仕事する必要である、佛教の方で四恩と稱して親恩、君恩、師恩、衆生恩と云ふのがあるが、是に云ふ佛恩は神の恩と同一である、即ち天地の化育を贊成し天地人の三才の德を助けると云ふことが人間の勤勞の生ずる所ではあるまいか、又二宮先生の常に口にされたと云ふ開墾と云ふことも勤勞の必要なることを示されたのである。前に一二ケ村の負債の事を述べましたが各自注意しなければならぬものがあります、農業家は大地主である、自作農家であるも栽培法の改良に依る增收と、物價自然の騰貴によりて二十三年に百圓の收入ありしものが、三十二年には百四十七圓四十一年には二百〇七圓となつて居る、年々收入の增加は結構であるが支出は二十三年の一百圓に對して三十二年百六十六圓四十一年の二百三十五圓となつて居る、支出の增加は收入の增加よりは割合が多くなつて居る、公租の如きは二十一年には平均一人に就て二圓三十七錢六厘、三十一年には三圓五十一錢八厘、三十六年には四圓八十錢六厘、四十年には七圓六十一錢四厘、四十五年には八圓六十一錢六厘、三十一年に比して三十六年には四圓五十一錢八厘、三十六年に比して四十五年には二圓三十錢六厘、公租の增加は國家の進歩發展に伴ふ當然の比例と相伴はない、殊に衣服の如きは二十三年の百圓に對して三十二年には百八十三圓、四十一年の二百二十四圓と云ふ割合で、收入以上である、是

も自然と云へば自然の結果社會の風といへば社會の風かも知れぬ、我國も現今の位置を以て滿足することは出來ぬ、一段も二段も將た幾段となく進歩しなければならぬ爲めには多くの費用を要する、即ち公租として納むるを甘んじなければならぬ、而して是等を作出するは吾人の勞めである　即ち公租と云ふ考より云ふも吾人は徒に金錢なる考へよりするに非ずして勤勞しなければならぬ、佛教の觀念に對し酬恩するも徒に衰老たる親に衣食を與ふる計りでは充分の酬恩と云ふことは出來ない君恩に對しては御更である、衆生の恩の如きも亦同一である。如何にせば報恩することが出來るか金錢の考では決して出來るものではない、愛情の觀念がなければならぬ、此愛情の念を基として以て愛情が發動して始めて此四恩共に報ゆることが出來る、此發動が勤勞と云ふものであらう、個人の存在は必要であるが、國ありて又個人あることが出來る、故に絶對に個人を去りて論ずる積りではないが、以上述べし各方面より見るも勤勞の必要にして苟も缺くべからざるものなることが明であつて、金錢の念を去ることが出來るのである、此の如き考を以て勤勞する所あれば、其勤勞に對する報酬は必ず附隨するものである、他の語を以て云へば現今は報酬を得んが爲めに働き、報酬を豫知して其に相當する丈け働かんとするのである、素より之も一理あるに相違ないが報酬は其勤勞に比例して附隨して得らるゝものであることを知るの要があるではあるまいか、卑近の例を擧て云へば官吏の如きも善く精勵する人は官位も昇進して俸給も亦昇進することは他のものよりも早い、實業家の如き多く成功したと云ふ如き人は精勵家に見出す所であつて、不精の人に成功家はない更に要言すれば金錢を得るが爲めに働くに非ずして人は勤勞するの責務を有するが故に勤勞し、勤勞は天地と事業を共同するものなることを知ることが必要であつて、此精神を有するに至らざれば、勤勞の力を增加することは出來ない、即拜金宗的思想に魅せらるゝことなく働くと云ふ精神に至らんことを望むものである。

▲勞働の質の改善せられんことを望む

尙は終りに臨んで將來の勞働は如何にす可きやを考ふるの要があると思ふ、既に述べし所によれば勞働の量の增加を主張した樣に見ゆるが、素より勞働の量の增加も必要には相違ないが吾人は徒に其量の增加のみを希望するのではない必ず勞働の質の大に改善せられんことを希望するものである之れ普通の品物に於ても粗惡なる品の多量ならんことを希望せずして優良なる品を希望すると同一である、現に賃請仕事の如きに於ては勞働の量は多きも其質の劣惡なるは常に見る所である、自己の勞働と不自由勞働者の勞働の量は同一とする其質の異る所は實に雲泥の差れの如くであるではないか、蠶業界の人の望むは量にあらずして其質にあるのである、改善せられたる質を有する勞働が增加したならば其業の成功を見ざることはない、將來の勞働は正に此くの如きものでなければならぬと思ふが果して如何。

▲三度己を省るの風あらば桑園は、復舊せん

要するに蠶業界に於て投機的の思想が沒却して算盤的の勞働を廢し、天と共に働く、人なるが故に働くと云ふ考を以て、働其ものを愛して働いたならば桑園荒廢の如きは寧ろ意とするに足るまい、荒廢の狀態は寧ろ蠶界に於ける人心を表示せるものではあるまいか、大に自省する所なければならぬと思ふ、所謂三度己を省る風が蠶界に及ぶ時は桑園は復舊するのである。

●新生絲の手合

去月十五日加賀小松町富岡商店へ鹿兒島縣大島郡天城村城嶺次氏より座繰新絲一括の入荷ありデニール二十五中位にして整一し且纇節なく品質極めて優良なるを以て直に十貫目四百七十圓替を以て機業家森山松氏へ御繰備商内出來、又金澤市松ヶ枝町御舘商店へも高知市農人町西澤支店より鮑印副優等デニール二十中二括の入荷あり是亦品質頗好にして九貫目四百四十圓替へを以て石川郡南新保村南機業協へ手合行はれたり

演壇

蠶業を世界的に普及せしむるには如何なる注意を要するか

法學博士 男爵　阪谷芳郎

坂谷男爵

三月二十七日本會第七回總會に於て阪谷男爵に一席の講演を請ひたるか男爵は開口一番閣下及諸君、今日は大日本蠶絲會の總會を御開きになりまして、總裁宮殿下にも御台臨なされますし、又諸君にも斯く多數御集りになりまして、盛んなる式を御擧げになると云ふことでございます、會頭閣下より先日私に何か一場の演説をするやうにと御依頼がございました斯る盛會に臨みまして演説の機會を得ましたことは私に於きまして光榮の至りに存ずる次第でございます、併ながら私は此蠶絲業と云ふことに付ては一向專門の者でございませぬ、固より專門の智識を有せらるゝ閣下及諸君に向つて此蠶絲業の得失に付て詳に御話申上げる資格はございませぬ、唯經濟上から觀察致しまして、此蠶絲業に關しての自分の所感を述べて御清聽を煩はしたいと考へるのでございます……とて左の講演をなせられた。

第一に此生絲が我國の大切なる物産であると云ふことはもう喋々を要せぬ次第でありまして、日本の輸出貿易の殆ど四割を生絲絹物で以て占領致して居るのでありまする、即ち此外國貿易上總輸出額の四割を生絲絹物で占めて居ると云ふ此

事實が如何に此生絲業が日本の經濟界に於て大切なものであると云ふことは明かであります。假に此生絲並に絹織物と云ふものを我輸出貿易の上から除きまして、さうして其外國に對して貿易上如何に權衡を保つかと云ふことを今日考へて見ますのに、之を補ふべき物産と云ふものは殆ど外に見て出ないのであります。此生絲と云ふものは實に今日世界に對して本邦の地位を維持する上に於ても、又我經濟財政の關係を維持する上に於ても如何にも此生絲と云ふものが大切であることは斷言を要せぬ次第でございます、從つて是に從事なされて居る所の諸君が日々年々御盡しになる事柄は各々自己の稼業として御働きになり、又一郡一縣の産業として御働きになるのであります、之を廣く申せば實に

▲國家に對して重大な任務を御盡しになつて居るのであります

宜なるかな、總裁宮殿下が御多繁なるに拘らず此處に御臨になつて諸君に向つてそれ〴〵眞典の上に於て榮譽を御授けになつたことは尤もなことでございます、又斯の如く總裁宮殿下を戴いてことを我蠶業と云ふものが將來益々發展すると云ふことの氣運を有する次第でありまして、今日の御式と云ふものは實に國家の寿命慶賀せねばならぬことでございます。

そこで私は今申上げた通り則此生絲の事業四の事を申上げる資格は無いのでございますが、斯る大切なる、又斯る重大なる蠶業と云ふものを益々世界的に發展して行く上に付てどう云ふ注意を將來採らねばならぬかと云ふことを付て一二御話して見たいと考へるのであります。是は私が申すまでもなく、農商務省其他の當局者に於ても、又諸君に於ても既に御考へになつて居ることであまして、敢て新しいとは考へませぬけれども、自分が近年、二度歐羅巴亞米利加を巡回致し、又其巡回中に聞き及ぶた事から考へ及んだ自分の考へを少しく申して見やうと思ひます、此蠶業は斯の如く重大且つ盛大であります、私の考へる所を以てすると、斯の如く大なる蠶業であり、斯の如く將來有望なる事業であるに拘らず、それに對するだけの

▲蠶業全體に於ての設備が充分であるか

と云ふふと、私は多年多少の疑問を有つて居るのであります、それはどう云ふ事を意味するとか云ふと、成るほど此大日本蠶絲會もあり、又地方に色々協會とか組合かともあつて段々蠶絲業は盛んになつてゐます、併ながら是ほど重大なる蠶絲業に對しては其改善發達に關する機關がもう少し完全にならねばならぬと云ふことを意味するのであります、それで此世の中の物産に付ては内地限りで消費せるるものと、又外國へ輸出せらるゝものゝ内に於ての二通りあります、又外國へ輸出せらるゝものゝ内に於ての國と競爭するものと、競爭の無いものとあります、それに依つて此蠶業を改善發達して行く所の機關が活動せねばならぬ、其機關と云ふ所に私は農商務省の農務局と言はず、蠶絲會と言はず、總て此事業に關係して

此事業の秩序を立つて行く機關を設けるのであつて内地ばかりでなく外國に在る領事館商務官其他のものも含むのであります、そこで其内地だけで消費せらるゝ物産になりますと其物産と云ふものゝ競爭は内地同志の競爭になるのであります、例へば米なら米と云ふ者であれば其米の競爭は外國の市場に出てゐて競爭するのであります、内地で互に良いものを作つて競爭するのであります、其米の秩序を立つて行く機關はそれに應ずる機關と云ふものが出來るのであります、之に反して生絲の場合は内地でも消費せらるゝが、此生絲が外國へ出るからであります、輸出品であるからであります、さうして見ると輸出すると云ふ時には もう競爭は無い筈であります、内地で互に賣る分は一手になつて賣られるものであるから、其目的を以てもう少し強く團結することが必要であります、又是は作らねばならぬものである、殊に此生絲が日本ばかりで出來る品であります、して歐米市場に於て他に競爭者が無い品であれば宜しいが、此生絲と云ふものは第一伊太利を初め其他の國々に於て競爭者がある、競爭者があるのみならず、世の中に現はれて來ぬが、將來現はれて來んとする所の競爭があります、例へば

▲北米合衆國の「フロリダ」などでは生絲の生産方法を研究して居る

併ながら今日は日本の競爭者と成り得ない、向ふはなかなか勢銳が高く、又指先きの熟練が發達して居る日本生絲の敵、工其他に對して競爭者ではない、併ながら「フロリダ」には既に桑が出來、蠶が成育する以上何日か「フロリダ」の生絲が競爭者にならぬとは限られませぬ、斯の如く生絲は日本のみの物産でない、敵を有つて居る、競爭者を有つて居る、しかるに今日は日本が一番進んでゐる、此機關、此機關、此機關は世界を一手に獨占して居る産物になつて居る、これは印度でも支那でも機關は出來ますが、今日に於ての市場は殆ど臺灣の機關に制して居ります、生絲に至つては既に色々の強敵が現はれて居る、又將來現はれんとして居りますから、此強敵に對する準備が無ければならぬ、斯う云ふ性質を帶びて居ります故に私が思ふには、今日大日本蠶絲會が斯の如く盛大なる組織にはなつて居りますが、是では充足らぬと思ひます、ずい〴〵此會を盛んになされ、智力を集めて充分に研究し、如何にして改善發展するかと云ふ其調査研究發展の方法等に付ては餘ほど人智を集めて充分に研究することを工夫せねばならぬ、決して農商務省とか或は府縣の産業課ばかりに委任するだけでなく、もつと強大なる機關に依つて價が廉くして杏麗に揃つた品物を作るのが外國市場に於ける競爭の一番の秘傳であります、どうすれば此品物がもつと廉く出來るか、もつと良い品質になるか、もつと品質が揃ふかと云ふことを段々研究せねばならぬのであります。

▲歐羅巴の商賣を見ますと昔から高く賣る主義を決して採つて居らぬ

此度支那の變亂に付て(内所で武器を革命軍或は滿洲朝廷の方に賣込んだ筈なとは不生よりも廉く賣つて居る、戰爭であるから足下を見て高く賣込みさうであるのに、廉く賣つて此通りの鐵砲を私の國へ御注文なされば幾らでも何時でも賣ります)と言つて決して暴利を貪らない、如何となれば今革命軍の戰爭と言つて其鐵砲で儲けた所で知れたものである、併しながら支那が斷次に今日の陸海軍を擴張して年々買入れる鐵砲は幾千挺幾萬挺と云ふ所で算盤を取つて見れば、今日、人が困つて居る時に相當の價値で廉く賣ると云ふのが商賣上本當の上策である時、人が困つて居る時に高く賣つて其鐵砲がツマラぬと云ふことであれば、事實んだ後に向ふの人は嘗る急場にとんなに高い鐵砲を賣る者と商賣しないが宜いと考へるのであります、さう云ふことは卑法である、凡そ經濟の原則は良い品を廉く賣るのである、故に如何にすれば廉く作り出すかを日々研究工夫せねばならぬ、此藝業に付ても藝の病氣を防ぐことを考へねばならぬ、又其上に取上げに付ても機械の改良を圖らねばならぬ、或は運搬の費用を省かねばならぬ、唯横濱に於ける生絲が幾らになつたと言つて

▲横濱の相場の高さを以て喜んで居るやうでは

世界に對して最後の勝を制することが出來ませぬ、横濱の相場は其時限りの相場である、賣込むには横濱の相場が高からうが、廉からうが、成るべく生産費を輕減して品物を廉くし、品物を增へ、品質を良くしてどん〳〵売ることを工夫せねばならぬのであります、歐羅巴亞米利加を歩いて見ますと品物に依りては物價が段々廉くなつて來ます、人口が殖えるに拘らず、物價は今から五十年前と比較してそれより今日の方が廉くなつて居る、どうして廉くなつたかと云へば、人口が殖えて需要が殖えるに從つて學問上や種々の點から生産費を省く工夫を研究して居る、それで歐羅巴の品物は需用が增加するに從つて却つて廉くなる譯であります、日本の品物は次第に高くなりつゝある、農産物にしても其他の者にしても皆高くなる、是は唯高くすることを考へて如何にしたら廉くして良い品を作るかをも考へないのであります、値段を廉くしても生産費を省くことを工夫すれば儲けは一つであります、却つて値段を廉く賣つた方が儲けが宜い、そこに此經濟上の議論があります、唯市場に高く賣ることを考へて居つては商賣の損になります、それであるから斯の如く大切なる生絲と云ふものに付ては、どうしても今少し智力を集めるが宜い、斯の如く此生絲を作る人が儲の會費を出して居る物産であります、其人は さう云ふ名望家であつて昨年の「ペルン」會議に出たのであります、其時私と話をするのに、自分は

▲あなたの國の生絲の事で餘程大切な事を申込んだのである

それは固より自分は伊太利の爲めを圖つたのであるが、日本の爲に關つても極めて緊要な事と思つて申込んだ、然るに一向あなたの方から返事をして呉れないと言はれました私は何を言はれたのか一向分らぬ、分らぬと云ふのは此「ルザッチー」と云ふ人と無談をして居る間に、どう云ふ筋であつたか、ひよつと其話が出たのであります、然も私は不完全な英語でなければ話せない、此「ルザッチー」氏の英語は私より又一層不完全な英語である、私は又英語は少し話せるが、佛蘭西語はやつと聞くことが出來るが出來ぬ位である、そこで英語でやつたり佛蘭西語でやつたりしましたから「ルザッチー」氏の話がはつきり聞取れません、何かさう云ふ意味で言はれたやうでありますが、私の頭に能く浮ばなかつたから、はあ、さうですかと云ふことで、深く立入つた話をせずに別れました、そこで私は昨年亞米利加のを回つて十月に日本に歸つたら、此「ルザッチー」氏の生絲の話を農商務

ある果して今日さう云ふ事を申すに付ては其原因があります、私は昨年八月の「ペルン」の平和會議に出ました、是は亞米利加の催しでありまして、亞米利加の氏か研究費として二千萬圓寄附しました、其中から年々百萬圓の收入があります、其

▲百萬圓の收入を研究費として學者に呉れました

私も貰つたと言つては言葉が變でありますが、其金を私に頼んで使つて呉れと云ふことでありました、固より此研究費は生絲の事ではない、どうしたら萬國平和を永久に設定が出來るか、それに付ては諸國で陸海軍に無駄な費用を使つて居るが、之を節約することが出來ぬか、其事を世界の經濟學者に頼んで研究して貰はいと、其研究費として自分は毎年百萬圓を生ずる財産を差出す、其條件をあなた方に上げると言つて呉れた、それで此「カーネギー」氏が學者に呉れた二千萬圓の財産は財團法人として皆が寄つて管理して居るから、永久に此百萬圓の收入は絶へない、そこで此「カーネギー」氏から、頼まれたものを見て如何にして今後戰爭を止め陸海軍の費用を輕減するか云ふことに付て經濟的調査を爲して居ります、其相談の爲に昨年八月「ペルン」に參りました、此「ペルン」には何れも歐羅巴、亞米利加の有名なる經濟學者が二十人許り集りました、其集りました學者の中に伊太利の前總理大臣で有名な學者の「ルザッチー」氏が入り居りました、伊太利の財政が困難で公債證書が頗る下落したのを、此人の

識力で値段を回復して伊太利の財政が頗る好くなりました、現に「ツリポリ」で戰爭をして居つても左程伊太利の財政が信用を失はないのは全く「ルザッチー」の力が與つて居るのであります、其人はさう云ふ名望家であつて昨年の「ペルン」會議に出たのでありますが、其時私と話をするのに、自分は

それは固より自分は伊太利の爲めを圖つたのであるが、日本の爲に關つても極めて緊要な事と思つて申込んだ、然るに一向あなたの方から返事をして呉れないと言はれました私は何を言はれたのか一向分らぬ、分らぬと云ふのは此「ルザッチー」と云ふ人と無談をして居る間に、どう云ふ筋であつたか、ひよつと其話が出たのであります、然も私は不完全な英語でなければ話せない、此「ルザッチー」氏の英語は私より又一層不完全な英語である、私は又英語は少し話せるが、佛蘭西語はやつと聞くことが出來るが出來ぬ位である、そこで英語でやつたり佛蘭西語でやつたりしましたから「ルザッチー」氏の話がはつきり聞取れません、何かさう云ふ意味で言はれたやうでありますが、私の頭に能く浮ばなかつたから、はあ、さうですかと云ふことで、深く立入つた話をせずに別れました、そこで私は昨年亞米利加のを回つて十月に日本に歸つたら、此「ルザッチー」氏の生絲の話を農商務

省の人であるかと思ひますが、話しました、それはは つきも愛えませぬが、たしか農商務省の人と思ひます、

▲伊太利から日本の生絲と伊太利の生絲

ともう少し例が解釈を付けて世界の市場に於て調節を圖つて貰込んで有かうではないかと云ふことを言つて来たことがある、さう云ふことは愛えて居ると云ふ話を聞きました、そこでさう云ふ譚ならば今「ルヂッチー」と云ふ人が餘程好い機會と思つて話されたが、向ふの言葉が能くてちに通ぜず又こちらの言葉が能く向ふに通ぜぬと云ふ譚で、森にさう云ふ申込があつたことを私が記憶して居らぬから、話を進めることとか出来なかつた、其事は詰り伊太利から申込んだが、日本からは返事をしないのである、今日私は其事の善い悪いを言ふ譚でないが、是の如き問題は深く考究すべきことと思ひます。

今申す如く、歐羅巴でも亞米利加でも商賣の上に付て需要供給と云ふことは皆が餘程統計を以て精密に調べて居ります例へは米の如きも日本の米の相場と云ふものは、勝手矢鱈に立つて二十間になつたり、又下つたりしますが、此間ニテキサス」から歸つて来た者の話を聞いて見ても「テキサス」で出来た米が何程に賣れるか、出来る時に大決まつて居る、それより高くも廉くも賣れない、ちやんと米の出来方に付て統計が出来て其販路がそれ〴〵聯絡が付て居るから、云ふ利益を感じたに相違ない、日本の生絲と伊太利の生絲と相提携して一つ調節の方法を付た方が市場を支配して行くことが出来ると思つた、其考へで日本の當局者に言つて當越したのであります、ところが當局者はそれを多少研究し、又多少反對もあつたので、大力是は黙つて居つた方がどつち付かずで宜いと葬つて仕舞つたから知れぬ、併しそれは相當研究を經たと思ひますが、向ふでは「さう云ふ考へでありますから、日本でも其事を能く攻究して、其事が善いから其事を進めて行き、其事が悪いから悪いて宜いが、兎に角さう云ふ事を考へないと時勢は一年〴〵段々変化して行く、變化するが世の中には變化した知識を有つて行かなければならぬ、去年不可ならざるものも今年は不可になります、活きた世の中には活きた法を以て行かなければならぬ、それで斯の如く内國の生絲及絹物が一億五六千萬圓も海外市場に出ることになつたのは、是は日本の勢力が貿易上強いからである、此強い勢力を一層強からしむるには伊太利と提携するが宜いか知れぬ、大凡需要供給を調節して段々日本の輸出額を増して行つて賣崩しが出来ないやうにすることを考へる方が生産家も消費者も安心である、日本は外の國が何を言つて来ても一切合切耳を塞いで孤立して居ると仲間外れになつて仕舞ふ、歐米を巡回して見ても

▲「テキサス」て出來る米が獨逸、ハンブルグ」の相場て決まつて居る

今度秋の取入れは一俵に付て何ほど賣ると云ふことが決まつて居る、是は商賣上に於て悪い話でもあるが、高く賣つたり廉く賣つたりするのて趣味があるが、規則が整然決まつて仕舞ふと趣味が少いけれども、需要供給は人間の力て統計を作る方だけて以て、ちやんと需要高と供給高と調節して居るから、或る人が拔掛け功名をすることが出来ない、丁度昔の戰爭の如く加藤清正が鎧形絵を持つて戰へば千軍萬馬の間て功名が出来るが、今日の戰爭は大勢が一緒に喇叭て逃むのてあるから、己れ一人の功名は出来ないけれども、此方が餘り多くの人を損せない、それと同じやうに今日歐羅巴の商賣は需要供給の原則を研究し、其統計を研究して、其秩序聯絡を付て居る國は亞米利加と獨逸と異つても需要地と供給地との聯絡を付けて居りますから、拔掛けの功名は出来ませぬけれども、需要者と供給者とが互に相當なる利益を均分して行くと云ふ方法になつて居ります、さうして見ると、此生絲と云ふものに就ても

▲今日のやうに所謂亂軍てやつて行くのが宜いか

或は整然たる調節が出来る方法を立てるが宜いか、是は少くも問題てあります、伊太利が其事の考へを起したのはさう

向ふは相當な條件て話込んてもこちらは冷淡てあるのか、話相手にならぬて成立たぬ、矢張り商賣も孤立てあります、もう今日の如く文明になつて交通が開けて倫敦に行くにも二週間て行ける、そんなに急がぬても東京を立つて二週間て倫敦に行けるのに、尚ほ今西伯利の復線鐵道が新築中てありますから、此復線ても出来てあつこに遠方の強い汽鐵車を使つたならば、又五日や六日短縮します、將来に於て東京と倫敦の間は十日以内一週間位て聯絡が着きます、斯の如く便利になると昔の江戸と大阪の隔りより近い、さう云風に屠々交通機關の變化が来ますから外國はどうても宜い日本の國は商賣さへすれば宜いと、一人決めをして一人て滿足して孤立して居つて、さうして今度伸間に這入らうとしても入れて呉れない、這入らうとすれば以前より悪い條件て這入ることになります、そこらは單に此日本の蠶業ばかりに眼を注ぐのて、それ〴〵世界の需要供給を見、又世界の機場の盛衰を見て、或は又日本は機場が進歩して、今までは織物が少かつたが、近頃は多量になつたとすれば

始終働きつゝある者の中に於て單り固陋頑固にしてこれの生絲は良い、伊太利が何と言つても宜いと、一人てえらく決めて居つてはいけない、相手になるかならぬかを研究しなければならぬ、今は世界的に商賣を擴めて居るから、此勢力をどこまても持するには充分に研究しなければならぬ、私が今接觸した問題の如きは餘程大切な事と思ひます、それ故に

▲世の中ほど終始變遷するものは無い

孤立てある

私が申すのは、斯の如く大きな商賣になつた其品物の輸出を大切な物であるとして其輸出品は世界に於て競爭者がある以上は益々諸君は相團結する機關が大切であります、それで今日は殿下が御臺臨になつて諸君に榮譽を御授けになり、此無上の光榮に浴せらるゝ諸君は多論、御ほ今日御會合の諸君も今申した精神を有つて互に孤立せず一緒に仕事をすると云ふ御考へになつたならば、僅かな費用を出しても、もつと、學術經驗を擴めるとが出來ろ、さうして充分なる改良を努め、世界の大勢に着目して生絲の商賣に於て日本はどこまでも牛耳を採つて一番優勢の地位に立つことにせねばならぬ、英國の海軍は世界に冠たるものである、どんな國でも英國の海軍には勝つことが出來ない、二つの國を合せた海軍を持つて來ても之に優る海軍は無い近年獨逸が競爭して居るが、獨逸如何なる海軍を作つても英國は約六割づゝ上を占めて行くと云ふことを英國の海軍大臣が演說をして居ります。

▲日本の生絲は世界第一を占めて居るならば

どこまでも之を保つて行くことを決心せねばならぬ、其決心に於ては充分に知識を利用せねばならぬ、其知識を利用するには充分に團結して其知識を擴める工夫を考へねばならぬのであります。今日の如き會合が今後も開かるゝこと、思ひます、然し今日御列席の諸君は私の意を御諒成あつて充分に今後御盡しになることを希望致します、自分は蠶業には一向經驗の無い者でありますが、深くであります、又日本の經濟は日本の蠶業の發達如何に歸するのであります、今日は政府もなか〳〵國費多端であり國民も負擔が多端でありまして、此國費は無論倹約せねばならぬ又負擔も相當に負擔しなければならぬ、其負擔を輕くするには出るものを節約するのも一つであります、それよりも日本で申せば金を作ることを考へるのが一つの大切な手段と思へば諸君も今日の會合に次て今後益々御蠶發になることが極めて重大且つ大切なことであります、御清聽を煩はして誠に有難う存じます（拍手）

▲國家の蠶業を經濟的にやりたいと云ふ一人

愛知縣大雷害の慘狀

明治四拾五年四月拾九日午前拾時四天俄に晴雲な生じ强風と共に電光雷鳴悲慘な光景を化し細雨は變じて鳴雨大の大降雹となり飲中島郡一宮、今伊勢、丹羽郡、西成、葉田、扶桑、大口、羽黒、布袋、吉知野の各町村にありては鶏卵五寸餘に達し時ならぬ個世界を現出せしは古今未曾有の事り時恰も桑芽は育々として蛹の蚕花黄金繭び蛹又蛾抽き農家として育蚕の時には當り此れが被害のため多桑葉は中斷られて收穫皆無となり悲慘は銅皮が剝取られ樹枝は折れ高めに本年の養蚕は中止の止むなきに至り悲哀を極め樹林々枝採し夢葉を知り取る等現實約百五六拾萬圓に及び世紀前語に盡し難く天の所で發出し殘し殘り蚕は繭時すると雖ほ繭き足らざる農民の心中察するに餘りあり（口絵參照）

愛知縣金城蠶種組組合提供

米國に於ける日本生絲

三井物產會社絲育支店長　瀨古孝之助

本篇は去五月四日全國製絲業者大會に於て講演せられたるものなり讀者諸賢の一樂に供す

私は此程絲育から歸朝しましたので此大會に出て、何か御話をする樣にといふことでありましたが、別に耳新らしい說があつて諸君の利益となることを申上る事は出來ませんが吾々の義務は諸君に密接の關係を有するものであるからして絲家諸君の御會合に際し我々の所又見聞せし所を御話するのは吾々の義務であると考へましたから、何等の順序も立たないが平素思ふて居ることを簡單に御話しようと考へます。

▲世界生絲の需要

近來世界の生絲の需要は增加するの勢あり日本の百斤位に直して四十三萬俵位に達しました、其增加の割合は年々百分の五位となつて居ります、其内米國方面に最も增進率が高くて年々百分の十位を增して居る、米國にては千八百九十年頃は一ケ年四萬俵に過ぎざりしが、今日では約十六萬俵を消費して居る、此俵絲を一年に五六千俵より一萬俵位を消費する、即ち亞米利加の需要は十年間に約倍額となるである、歐羅巴の需要は此割合には增さぬ、一ケ年百分の二位の增加である、併し歐洲にて絹布を使用することの增加が夫れ丈けでは無く此外に人造絹絲の使用が年々盛になつて此方は餘程增して居る、亞米利加は歐羅巴に比して人造絹絲の需要が少ないが歐羅巴では需要が急激の增加を示して居ります、世界の人造絹絲生產額は千九百五年には四百六十萬封度なりしに今日は千二百萬封度を超え日本の百斤俵にして九萬俵餘である、米國は生絲の需要が年々一割位增加して其外に人造絹絲及柞蠶絲が增して居る其他歐洲南米印度濠洲等皆絹物需要增加の勢あり、世界を通じて生活程度が日に月に進進する今日に於ては絹布類の需要は從つて增加することは疑を容るべきてない、故に日本生絲の前途は實に有望であると信じます。

▲生絲と人造絹絲

サテ生絲と人造絹絲との消長はドーであるかと云へばそれを明かに申上げることは出來兼ねるのが今日では人造絹絲と云ふより純粹絹絲とも云ふべきもので極めて細絲を要する薄絹又は日光に直射するもの、又は濕氣に當るものは大

體不適當であるからして其需要の範圍は局限せられドンナものにでも用ゆるといふことは出來ないのである、故に人造絹絲の製法に於て今日吾等の豫想出來ざる大改良あらざる限り私は人造絹絲は其特殊の方面に需要を增し生絲の需要は益々增加の勢を變ぜず將來人造絹絲の爲めに壓迫せらるゝことはないと信じます。

▲絲價の低落と需要の趨勢

近來兎角生絲の價格が安くて製絲業の經營難の聲を聞く樣であるが、今日の價格では定めて困難であらうと思ふ、其低落の原因は種々の原因ありて日本に於ける生絲の產額が急に增進したのも一つの原因を爲して居らうが又近來婦人服の流行が一變して裾の狹い袴を着る樣になつて從來の絹の半分又は三分の一位で出來ることゝなつた、從て需要の範圍は廣まつても需要する分量が少ない、即ち供給の增加せる割合には需要が進まない、故に價が下つたのであると考へます、但し此の流行は一時的のもので必ず永く繼續するものでない遠らず恢復するであらうと思ふ、併し此三四年來絲價の低落の爲めに伊太利の產出は年々減ずる許りである、又佛國は最早顧みるに足らないと云ふ狀態になつた、支那は上海廣東双方に於て幾分增して居る、不完全なる上海坐繰並に質の劣等なる廣東の器械絲及坐繰絲が增して居る、世界で需要する上等絲の一部分と中等絲と下等絲の上ものは大部分日本が世界に供給する形勢となつて居る、世界の需要高四十二萬俵の內米國が十六萬俵を占めて居る其內十萬乃至十萬五千俵は日本絲を使用して居る、米國生絲需用の將來は前申す通頗る有望である上に、歐洲の製絲業が漸次衰頽の兆あると共に歐洲に向つても日本絲は其需要を增すことゝ思ふのであります。

此如世界に於ける生絲の需要は增進しつゝあり殊に日本生絲は最も有望であり今後益品位の改良に注意し世界を通じ其好評を博せしめ日本が世界の生絲需要の大部分を供給する樣に致したいものです、

製絲業は素より算盤を基とすることであるから甚だしく工費を增さぬ程度に於て改良を施さねばならぬ、生產費を多く增さずして此上の改良を施こすの餘地有る事かと思ふ、製絲家諸君は私が申す迄もなく平素の熟練を以て御苦心になつて居らるゝことてはあるが倘此上にも御注意ありて改良の實を舉げられんことを切望致します。

▲日本生絲の優點と劣點

私共の取扱つて居る日本絲に就ては常に色々得意先の小言もありますが又他の國の絲に比較して優つて居る點もある、今其優劣の點を揭げて申しませうなれば、先づ其優つて居る點を舉げて申さうなれば第一に價が安い、第二に繰返が宜しい、第三に横絲と編物に使ひ易い、第四に練減が少い、第五に產額が多い、此の產額の多いのを良いとするのは支那、伊太利の絲は每季の末になると無くなるが日本絲は年中何時でも多量にあるから、入用の時は何時でも買ふとが出來る、是れは機屋捻絲業者には甚だ必要のことてある、夫れから又劣點を舉げると第一に細ムラが多い、此細ムラは何れの絲も多

少は無いではないか特に日本絲には多い、是れは日本の繭なり製絲法なりの特質であらう、之を減ずるには生產費に影響を及ぼすであらうが若し繭質の統一等に依りて之を減ずることが出來たならば斯の業の爲め尠からぬ利益であらうと思ふ

第二は二本揚り三本揚りてある、ツマリ日本絲は再繰を爲すが爲に特に多くなるて是れは他國絲には殆どない、日本絲特種の缺點となされて居る、近來日本製絲家に於ても大に注意せらるゝと云ふことてあるが事實は決して減じない、最も特別の注意を拂はるる方面の絲は素より少くなつたが大體を通じては依然として絕へないのである、此二本揚の爲めに需要者の受くる損害は尠からぬ少くも千分の二、五多きは千分の二十五乃至三十に達するのてある、二本揚を發見すると捲いた絲を繰り戾して捨てゝ仕舞ふ、米國の工女は大部分出來高に依て賃銀を仕拂ふから工女は少しても仕事の工程を多からしめんとて二本揚の部分は百分の一のものでもヅン〳〵用捨なく卷戾して百分の二も三も捨てることゝなる、故に工業主の損害は事實以上に多くなるのてある、是れは製絲家の方て左程生產費に關係しない僅かの注意て減ずることが出來ると思ふから是非此點は改良せられたいのてある、第三は絲の抱合、特に縱絲に使ふには絲織のシツカリして居るのが必要で練上げて毛羽立樣の絲は禁物です從て抱合の完全絲織の强健なる絲を要する次第てある此外に近來一本縱を用ゆる事も增加した、一本縱には一層細ムラと此抱合がやかましく大體日本絲は一本立に不適當てあると斷定せられて居る、此一本縱には主として以太利絲が用ひられて居るが將來日本絲も毛ば立たぬ樣絲質抱合を强くすることに注意せられたならば一本縱の需要にも應ぜらるゝに至ることゝ思ふ、第四に纖度の問題てある、纖度の均不均は絲にも依り等級にも依るので何處の絲も纖度が不均一といふ譯てはないが兎角何時も此非難を免れぬ、之を改良するには生產費に影響を及ぼすといふ嫌ひもあらうが、餘り生產費を增さゞる程度に於て改良を願ひたい、此纖度を均一ならしむると環節、サゲ節を減ぜしむるは蠶種の改良如何に關する點もあるべく之と相俟て着々改良の實を舉げられんことを希望するのてある、次に練減の事てある、此問題は昨日以來此會に於ても問題となつて居りますが、亞米利加に於ても近來日本絲の練減が多いと言ふとを聞く樣になつた、普通一割八分少きは一割七分五厘位で多きは一割九分より二割一分に達するものが稀にある、亞米利加ては從來平均一割八分が標準なりしに現今一割八分五厘乃至一割九分に增し來り買手の方から苦情が出る、併し日本にて今日製絲上之を一定するの方法無く、取引上にも此を保證する途無く不得止練減の保證は今日の製絲並に取引狀態より見て出來ぬと買人に申し斷り居るが追々製絹上競爭が烈しくなり行くに對し練減量に百分の二以上の相違ありては製絹計算上大に困難を來すは明にて今後益苦情が出る樣になるてあらうと思ひます。

今一つ日本絲の缺點を申せば同一の製絲場の同格の絲で夏冬春と品質の違ふことてある、他國の絲は季節に依りて色澤は少し變はるが品質は殆ど違はぬ、日本絲は少數のものを除き季節によりて大に異るを以て買手の希望に應ずることが出

来ない、之れは日本の氣候等にも關係するかも知れぬが大製絲家が多數の絲を出す方面にては夏冬春に拘らず品質纖度額節等に於て相違なく若し夫れが出來ぬとならば夏冬春に商標を區別して、品位の均一を維持するは日本絲の信用を高め得意を增す上に於て最も必要なる方法であると考へます。

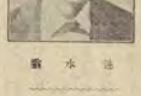
▲日本生絲の用途

以上は日本生絲の優劣點を申上たのであるが尙日本の製絲家として其製出した生絲が米國に於て如何なる方面の織物に用ひらるゝかを知ることは製絲家の參考とも相成るかと考へらるゝにより一言申述べます。現今米國の狀態に就て申せば一般の絲織物用ゆる絲は大にリボン、手袋、メリヤス、電線及縫絲等である、其內日本絲の使用せらるゝ割合は十萬俵內四萬乃至四萬五千俵が廣巾絹で、婦人衣服男子襟飾外套裏地等種々の方面に用ひて此外に近來著帽に用ゆる着物の飾り其他種々の方面に用ひて此外に近來著しく增したのが絹手袋、絹メリヤスである、種增加は一般の流行も素より原因であるが生絲の價の安いのが一の原因を爲して居る、以前は絹手袋、絹メリヤス等は上流社會にあらざれば、用ひなかつたのが近來は中流は申すまでもなく極下流の者迄で用ゆる樣になり、極貧漢な人は絹の下シャツ絹の靴下は肌觸りが良いとか云つて遂に用ゆる樣になつた此方面に用ゆる生絲は五六年前は五六千俵位であつたが現今は二萬乃至二萬五千俵に達するに至つた、而して此生絲は主として日本絲を需要さるゝのであるが必竟此種の使途には細ムラ抔の關係が少ないからである、次に日本絲の需要の近來減じたのは絲織用には器械絲は改良されし物は直段高く下等物は強く力乏しく坐繰絲も迫々良されて多く横絲に使用さるゝに至りて價額も高くなり鎚絲として引合はざるより支那の安絲を以て之に換へる樣になつた、此點現象は悪い結果ではなく大體日本絲の製造の進歩した爲めで實質の價値が高くなつた故である。大體に於て米國では廣巾絹にて一本縱のものは以太利絲を好む此類の特種のものを除くの外、漸次縱絲も日本絲の需要が多くなり以太利絲の賣込區域を蠶食する勢あり、横絲は少數の廣東絲か下等織物に使用するゝを除き殆ど一切縱絲が全部之を占めリボン織には縱横共大部分日本絲を使用し縱絲には優等中等機械絲横絲には中等以下の機械絲及座繰絲を使用し、手袋、メリヤス類は上一番より二三十圓乃至四五十圓高のものと信州上一番類を使用し全部日本絲が使はれて居るのであります。

將來米國に於て日本絲が他國絲の用途を蠶食し得べき方面は日本絲を今一段改良して細ムラを無くし抱合を堅くし縱絲となるべきも之を製して以太利絲と競爭し同絲の販路を吸收するにあり、縱絲の如きは絕て安直の支那絲と爭ふの要なく之れは大體支那絲に任せ我は進んで上物の販路を蠶食するのが日本の經濟上より見て慥かに利益であらうと信じます云々。（拍手）

明治十四年の紛擾事件

特別會員　速水堅曹　翁談



速水翁

本邦の製絲業が今日の如く長大の發達を爲せるは官民一致の力よく之を致したること勿論なるが維新當時器械製絲の何たるかを知る者なき草昧時代に於て早くも之に着眼し擬身之が普及振興に努力せられたる速水堅曹翁の如きは斯界の先覺として輕墨人と萬人の尊崇を拔かざる處なり翁今や齢四に躍して耳に餘生を送くらる編者一夕其門を叩て時事問題を談じ端なくも明治十四年の生絲發賣所に於ける紛擾事件を聞けり者實斯界の一大事なる今日殊に感慨深きものあり仍て左に之を掲ぐ

叩門

▲蠶絲業陳列館の設置には大賛成

貴會には此度蠶絲業陳列館を横濱へ建設せんとの計畫ありとの事なるが之は至極結構の計畫と思ふ、今其目的の一つといふのを聞くに本邦蠶絲業の狀態を來朝の外人に紹介し、又內地の當業者には歐米の蠶業及機業の狀態を紹介し以て我邦に於ける蠶絲業の發展策に資したいといふのにあるさうぢやから壁手を擧げて贊成せざるを得ぬ、斯かる機關を設備したといふのは予壹多年の持論で去明治十三年に創立した彼の同伸會社の如き全く此目的の下に組織したのであつた、予が其

社長の職を去り河瀨秀治君が予に代つて社長となつて居る間はマダ此目的を以て働いて居たが澁澤洪基氏が社長となるに及んで全然其目的を變更し、營利一方で商賣をするやうにした、併し社運は遂に振はずして僅か一昨年だと思ふ之を解散して仕舞つたが遺憾のことをした。

今日から考へて見れば洵に可笑しいやうな話ぢやが、今から三十年前の昔は外國の事情など更に判らない、判らずに貿易を遣らうといふのだから暗夜の仕事も同樣で頗る危險の話である、其危險を脫して健全なる貿易を爲さんとするには外國の事情を審にするといふとが一番大切である、が併し今日と雖も外國の事情に通じて蠶絲業に從事して居る人は恐らく曉天の星であらう、當會に於て蠶絲業陳列館を設置せられたならば先づ此缺陷を補ひ當業者をして能く外國の事情に通ぜしむることが出來るとと考へるて、斯業の爲予は深く之を喜び一面予輩多年の宿望を達せるの機會來れるかと衷心欣悅を禁じ得ぬことてある。

▲看貫料廢止と生絲荷預所

聞けば蠶絲業陳列館の建設費用は六十五萬圓とのことてあるが、其設備を完全にするには莫大の費用を要するてあらう、然るに此財源を看貫料に求めやうといふのが全國製絲業者の大會の決議ぢやさうなが、之は好個の思付ぢや、一體此看貫料なるものは五十年來の弊習て、日本商權の振はざる封建時代の遺風である、之を此儘にして捨て置くのは國家の耻辱日本人の面目に關すると迄予輩は之を考へて嘗て之が廢止の爲に大騷ぎをしたこともあつた。

時は明治十四年である、何しろ三十年前のことてあるから詳しい事は忘れたが、アノ前田正名と井上馨との二氏が上州へ行つて、前橋の蠶絲改良會社に對して若干の資金を貸すといふ約束をした、其時予は自分の縣へ金を貸して貰ふのだから決して惡るいとは思はぬが、併し改良會社のみに金を貸すといふことは如何にも公平でない、夫れよりは百萬圓も橫濱へ出して全國の製絲家中誰でも良い絲を出したものには相當資金の融通をつけて遣るといふとにしたならば斯業の改良上に多大の効果があらうと思はるゝと、時の大藏少輔吉原重俊氏に內話をした、處が夫は尤もぢやといふので、其金が橫濱へ向らるゝやうになりて生絲荷預所が出來た譯である。

▲外商と內商との白眼合ひ

御承知の如く生絲の取引は一々問屋が商館へ引き込んで行ふので此間には種々の弊害が行はれて居た、之が爲に我製絲業者の不利益といふものが尠くないから、セントラルマーケット即ち中央市場を拵へてソコへ荷主は生絲を引込む、商館は之れを買ひに來るといふことにしやうではないかといふ處から出來たのが此生絲荷預所であるから、其の目的は我商權の恢復といふ點から見て大に好いことてあつたが商館がナカ〳〵之に應じないのである、併し此方でも一旦言ひ出して見れば應じないと云つて其儘手を引く譯に行かないから互に白眼み合ふて一步も引かないといふ騷ぎ、紛擾に紛擾を重ねて暫く對抗の姿てあつたが、今にして我商權の恢復を爲すにあらざれば何れの日か之を恢復せんといふのが予の持論てあつたから、外商若し我提議に應ぜざれば彼等に構はずズンズン直輸出を遣れといふ意見を予は大に主張したのである。

▲商權恢復問題は有耶無耶

然るに當時同伸會社の社長は予て其副社長は高木三郎氏てあつた、予が田舍（上州前橋）へ出張して居ると高木氏から電報が來た、荷預所から同伸會社が除名された、ドー致さうといふのである、直に行くと返電を打つて早速同所を出發したが何故に除名されたかといふと、外商と荷預所との紛擾容易に解けざるに依り、外商の向ふを張るべく我社が獨逸人の「サーゲル」から金を借りて生絲を直輸出したのが違約であるといふのであつた、玆に予が前橋を出發した當時の日誌があるから御覽に入れやう。

十月三十日　今般橫濱荷預所と外國人と紛々に付日本人は製造人生絲商人團結せんと昨日地方改良會社組合中より一人宛集るものと同車せり

之を見ると當時の光景が眼前に見えるやうぢやが着京するなり直に荷預所の役員と大激論をした、予の議論にかけられて除名處分の不都合を諭し早速之を取消して我社に關することは日ならずして治まつたが、治まらんのは荷預所と外商との紛擾である、其頃扶桑商會といふがあつて其社長の小安俊と副社長の中山讓治との兩氏が予と同一の意見で侃々諤々の議論を吐き事は容易に落着しさうもない、荷預所の側でも兎角議論が區々になつて步調の齊一を缺くやうであつたが愈十一月十日に及んで一同の協議は深更三時を過ぎてマダ解決しさうもなかつたのである、其時の日誌に

十一月十日　始めて予の發議　雜論及既往の事を論ぜず先以て此儘外人に抗するを得べきか衆人應へ得べからずと決す
第二發議　然らば本日一大緊要の處分如何
小安俊の發議　店頭賣買として荷預所は共同倉庫と爲し橫濱の弊風な廢さん
但此論たる必定行はるゝことに外國人と示談し置く
衆人同意總決議す
右決議な不都合なりとて荷預所の役人等荷主を籠絡し此論議な破るべく、役た決せしむ故に予は荷主な說き五十六人予が意に同意す

云々と書いて置いたが斯くて荷預所の役員等は外商と長く反目對峙するを不利と見て取りしか手に手を廻はして荷主を說き之を軟化せしめたのである、ソコで予は又荷主を說て其意を翻へさしめたが予の意見の餘りに強硬なる處より或方面から時の神奈川縣令野村靖氏をして予に說かしめ、ドーか物を言ふて吳れるなと切りに頼んだものだから、予とて敢て一身一家の利の爲に言ふのではない、國家の爲に喧しく言ふのであるが併し夫程迄に賴むことなら默して物は言はぬといふことにしたがツイ折角の商權恢復問題も、有耶無耶の間に葬られ、夫れと同時に看貫料の如きも其儘になつて今日に及んだのである。

さて其後生絲貿易市場の弊風は漸次改良せられたが看貫料は依然として居る、タトへば多年の商習慣であつても如此き謂はれなきものを文明の今日其儘にしておくべきものではない、併し今回は全國の製絲家が一團となつて遣る以上は無論撤回の目的を達し得るてあらう、予は一日も速に其快報を聞きたく思ふ。

予は練減増加の原因を如此く解せり

特別會員 佐々木長淳翁談

佐々木翁

蠶界の元勳佐々木長淳翁には今春永らく病臥せられたが醫療幸に其効を奏して健康體となられた編者は我蠶界の爲に深く之を祝せざるを得ぬ左の一篇は翁が病後に於て編者に語られたるもの其斯業を愛せらるゝの熱誠には只感謝の外ない

▲練減増加の原因は桑か

里昂蠶絲檢査所は千九百十一年即ち昨明治四十四年に於て世界各國の蠶絲に就て練減の檢査をした、其成績に依ると本邦生絲の練減は千九百八年迄は漸次低減の勢ひであつたのが千九百九年以降は次第に練減増加し、昨千九百十一年には百分の十八、四五の平均を示すやうになつたとは……里昂領事の報告であつて予は之を新聞雑誌の上に散見したが、何故に本邦生絲の練減は近年著しく其率を増加する樣になつたてあらう、尤も支那の生絲も漸次練減率が多くなる傾きがあるといふことぢや、併し本邦生絲の練減率遞増の勢ひは支那絲の夫れよりも遙に多いので玆に世人の注意を引くやうになつたといふことであるが、歐洲の需要者は之を以て本邦製絲家が繰絲の際に何か增量法を行ふて不正手段を施す爲めてはあるまいかとさへ疑ふて居るさうてある、併し之は里昂領事の辨明にも在るが如く不正手段に基因するものでないことは明かであるが、製絲法に改良を加へた爲めであるといふことは如何のものであらうか、成程之も其原因であるかも知れぬ、原因であるかも知れぬが、予は桑も其原因の一つ否有力なる原因てありはせぬかと思ふのてある。

▲立木仕立と堅靱なる生絲

予は明治六年に歐洲へ行つた、其頃伊佛の桑樹は皆立木仕立即ち喬木老木で樹と樹との距離數メートル幹の高さが一丈前後直立しそれから枝條が蕃殖して四方に擴がり而して養蠶期に臨み年々切り採ふ所もあり又た隔年に切揃ふ處もあつた四十年後の今日ドー變つたか知らぬが、昨年歐洲を漫遊して歸つた仲忠次郎（博士をいふ）の話に依ると矢張伊佛の桑樹は依然として立木仕立のものが大部分を占めてゐるさうだ、此立木の桑と根刈の桑とでは絲質の上に大變な相違がある、由來伊佛の生絲は其絲質天下に冠たりとの評判があるが、其評判のあるのは決して偶然でないと思ふ、内地でも秋田地方や滋賀の關原地方の桑をはじめ、其他にも古來喬木仕立があるが、此處に生産せらるゝ生絲は自づと堅靱して千八百八年以前のやうな少練減の絲質を備へて居るといふことは夙に世に定評のあることで、漢土の古書籍中にも津の多き魯桑で大眠前の蠶を養ひ心の實したる荊桑で大眠後の蠶を飼へば其の吐きたる絲は最も堅靱なりといへり、堅靱なる絲は練減も少なき道理なり、優良にして練減の少なき生絲を得んと欲すれば立木仕立の桑園に依て四眠後の蠶を飼育せられたる堅靱なる繭絲に依らざるべからずと迄予は考へて居るのである。

▲學者や實業家の研究を望む

然るに近來は根刈仕立の桑園が著しく増加して來て大概春蠶の第五齢の末まてには其の根株の上より去年の古條を盡く切り拂ふて丸る坊主となし、更に新條を萠生させて來年の春蠶に供すべき桑園栽培方の正則を履行する樣子だが、夫れも宜しい時代の要求てあるとすれば根刈桑園の増加を敢て非難するにも及ばぬが、只茲に注意すべきは地方によつては目下夏秋蠶が盛に行はるゝ結果として桑園栽培の正則に反し來年の春蠶に供用すべき新條の新葉を一年に何回となく氣儘に横奪的に摘み取ることとてある、抑も春蠶の末期の丸刈り後に於て萠生し初めて未だ幾月と經ぬ極く若々しき新條中に幸ふして發生した僅ほ一層若々しい營養液の淡々しい絲膠に化成すべき材料の未成熟なる桑葉に依て飼はれたる蠶は勢ひ滿足の繭を作らぬ樣になる、生絲が堅靱ならずして練減が多量なる上に嘗て絲長七八百回を唱へたことのある本邦種はイツの間にか四五百回の繭すら作らぬやうになつたてはないか、勿論是は蠶の種類にもより又た貯蓄靜養中の蠶種を臨時に取り出して檢査所へ送り數日間自由に翻弄さるゝ爲めに衰弱を來すにもよるてあらうが、桑も大に關係して居ることは爭はれぬ事實てある、仍て案ずるに彼の練減問題の如きも前述の如く繰絲法も原因して居るかも知らぬが桑も亦大に原因して居るてあらうと思はるゝて予は此問題に就て學者や實業家の研究を望みたい。

▲生絲色相の異なる原因

次に本邦の生絲は同一種と稱する荷造の中に色相の同じからざるものがあるとか或は練減率は甚しい差があるとかといふ苦情があるやに聞いて居るが之は全く春、夏、秋、蠶の生絲を混同するが爲めと察せらるゝ、春蠶の夫れよりも夏蠶や秋蠶の遣つた繭は所謂力のない養分の乏しい桑を喰つて造つたのだから其絲質の劣ることや色相の異なることは謂ふ迄もない、夫れを注文に應じて强て荷口を揃へんが爲に春夏秋の生絲を同一に荷造なして需要者に渡せば苦情の來ることは怪むに足りない話で、苦情が來たからとて今更騒ぐに及ばぬことてある、併し斯る事柄は實際に於てあるかないかは吾輩の知つたことてはないが、兎に角海外の需要者が本邦生絲を中傷すべく捏造しての讒言でない限りは先づ其原因を春夏秋蠶の生絲を混同するに在りと推定するのが寧ろ當然てはあるまいか、之等も大に研究調査をなして其原因のある處を明かにし、幸に予輩の考へたことが的外れてあるとすれば結搆ぢやが、若し然らざるに於ては本邦當業者の反省を促すことは極めて必要てあらうと考へたまゝ一の婆心を述べたのてある。

米國には日本生絲に對して如何なる苦情があるか

學藝委員
商務官　紫藤章氏談

紫藤商務官

昨春二月八日商務官として波米の途に赴き別來數々有益なる調査報告を外務省に致して不勝貴當業者を啓發せられたる紫藤學藝委員には四月十二日地學丸にて無事歸朝せられた當時編者は公私多忙の際とて氏の意見を叩き證者に之を紹介するの學を得なかつたが著業成れる去月十五日神奈川町桐畑なる氏の自邸を訪ひ左の談話を拜聽した抑も米國機業家は本邦生絲に對して如何なる批評をしつつあるであらうか會員諸君の一讀を請ふ校閲を經ざるを以て文責編者にあり

▲幽靈みたやうな新聞の記事

米國には養蠶を何んとかして行るやうにしたいと熱心して居る者は尠くない、之に就て妙な事があつた、或時新聞を讀んだ處が一加州の養蠶が非常に發達して巨額の繭を產するやうになつた結果其繭を日本へ送つて製絲し再び米國へ輸入して來るとて、莫計を載せてあつた、不審に思ふて早速之を「ロスアンジエルス」の「オスボロン」氏の處へ尋ねて遣つた、處が同氏は更に之を知らないといふので「サクラメント」の「エム、ジー、リートン」氏の處へ照會して呉れた、氏の返事は直接予の處へ來た反對に種々な質問をして來たのである、而して予の書簡には

▲二本揚が非常に多い

かといふことである予は彼地へ行くと直に二本揚に就ての批難を聞いた、併し日本の生絲は此點に就て特に改良されてあるから二本揚のあるべき筈はないと初めの内は大に辯解に務めて居たが、無いといつても有るものは仕方がないではないかといつて、態々工場へ連れて行き、夫れ此通りおやと證據を見せる者もあつて始と辯解の餘地のないには困つたが、甚しいのになると二本揚が一纏を通じて在るものもあつたから、彼等が苦情を言ふのも無理ではないと思ふて居るて、何とか此二本揚を防止するやうにしたいものだ、來た此の製絲家大會にも此問題が出て居たやうだが、製絲家諸君は宜しく此點に注意を拂はれたい、次に昨年の生絲には如何なるものかつて仕舞つたが兎に角米國と雖も、將來の養蠶國たらずとは斷言し得ないから、邦人は其點に就て居るから、良いといつて米國に養蠶が出來やうかなどゝ徒に神經を勞し取越苦勞をして居らうよりは、如何にせば我生絲をより多く彼等に買はしめらるゝかといふことを研究せられたい、而して先づ當面の問題として研究せられたさは何故に近年本邦の生絲には

▲染付不良のものが多い

と溢して居た者が多かつた其原因に就て質問をして來る者が尠くなかつたから、何か思ふて書き出すの書肆を探した處が、染付不良の原因に就て書いたものが三冊あつた、夫れを買つて讀んで見ると彼は一樣でない、其一冊には撚絲屋が撚絲をする場合には其工程を滑かならしむる爲に油を使用する、處が近年繰物市況不振の結果工賃が低廉となつたので價の高い上質の油を使ふことが出來ない染付不良の油を使用し中には石油さへ使用する者がある、染付不良の原因は全く茲に在りといふのであつた、今一冊には撚絲工程中の作業其宜しきを得ざる結果として裂け絲を多く生ずる夫れが原因だといふてあつた、而して更に他の一冊には虛弱の蠶兒の作つた繭から引いた生絲は染付が悪るいといふのである、之は問題にならぬが第一の不良油使用の結果といふことは大に考ふべきであるといふのは、彼の紐育蠶絲檢査所長をして居るクロット氏や、先年來朝したスキンナー氏や或はチニー氏の如き大機業家になると、撚絲も染色も皆自分の工場で遣るから、更に染付の悪るいものはないといつて居る、是等の事から綜合して考へてみると、如何に撚絲屋が耳ざとい油を使ふといふことは、然し因のつゝ思はるゝて、此點が使く說明してやつたら、彼が能く理解の關知する處ではないが御參考迄に御話しをしておく、ナニ輸減問題に……（次頁續）

▲練減が多くなつた

と小言をいつて居る者もある論、此小言に對しては絲質吹眞の結果は別問題のものであると予は說明して居たが彼等も其上吸ふと言ふこのもなかつた、其他の苦情としつて到つに大小種々有り切りの無るたる苦情即ちそれが鬼に角出たる以上は顧客の苦情は使く聽いて文字ノ小言ふ馬耳東風に聽き流すべきは、況て其の武士道に悪

本邦生絲の練減問題

學藝委員　今西直次郎氏談

今西直次郎氏

由來本邦の生絲は練減が勝いと云ふ評判であつた然るに既年歐洲には多いといふ批難の聲がナカ〳〵に高い之が對岸の火事みゐやうな考へで聞き流しに出來ぬうから苦大に其原因を攻究して練減增加の因つて來る處を明かにするのは焦眉の急であつて此問題は全國製絲業者の大會にも顧はれたお之に就て今西生絲檢査所長は左の如き意見を吐ふれた。

本邦生絲の練減については先年佛國の當業者と嘗しく喧しく言つて來たことがあつて當時此問題は大日本蠶絲會に於て討議せられたことも有る。爾來此事に就ては横濱居留の外商中最も關係の厚き三の人と意見を交換しつゝあるが昨年吉池理事が彼地へ行かれた時なども大に批難して居つたといふ事である。

▲練減の增加は不正の增量にあらず

從來本邦の生産が練減の悲いといふことで彼地の機業家に歓迎せられて居たのであるが、何故近年に至り練減が多くなつたであろうか、其原因は大に研究調査すべきものであるが、繰物の生産力を增加せしむることに努めて居る、之れに用ゐる生絲は抱合の宜しき強伸の多きものを使はなければならぬ、抱合の宜しき生絲を製するには無論好き原料を撰むべきものであるが繰糸中膠質と蛹汁とによりて其抱合を助くべきものである、予が往昔佛國の製絲場に於て實驗した處によれば當時繰糸釜に、特に蛹汁を投して繰糸しただけの量は減じて居つたが何故に斯の如き方法を施すかと云へは生絲を撚糸に係る繰物に仕上ぐる迄には幾度か繰返すもので、其絲條を滑かにし其抱合を保たしむるの必要あるが故である、殊に近年生絲の僅繰立るものに對しては極めて必要を感ずるのであつて決して不正の增量を爲すべきものでない、斯る理由によりて米國にては我生絲の練減が少々多くても八ヶ間敷云はぬのであると思ふ、又佛國にても金黄種の生絲は其繭からして練減の多い譯であるが二割四分内外でも用ひらるゝのみならず、彼地の白繭種も二割以上の練減の生絲を用ひて居る、我生絲の輸出六七割を費消する米國向としては多少赤味を帶びて居る差支ないといふは即ち以前の如く繰湯を交換せずに繰糸するが故に、多少練減は增して居るのであるが繰物の生産力を增すと云ふ經濟から論じたならば其率が增すことになつても差支なき樣に思ふ、又一歩を進めて言へは生絲の需要上便利を助くる邊より起りたるものと思ふ。

▲内外の事情を調べて意思の疏通を圖るが肝要

而して歐洲向生絲に對して練減の多きものあるに付て何故故苦情が絶へないのであるか、是れは繰物作業上に關係するものであるが佛國里昂に於ては數十年來我生絲練減成績が平均一割八分平位であるから、取引上之れより超過する場合に辨償するが法が設けられてある、又生絲商と撚絲家との間に撚絲の練減二割以上に超過する場合には撚絲家が夫れ丈け辨償せんければならぬと云ふ事である、撚絲家に對する練減の多少に付て彼見習ふことは撚絲場に於ける生絲再繰前石鹸及「ヌリヅリ」油等を用ひたる俗に云ふ「ジヤボン」水の結果より起りたるものと云ふ事である、練減の歩合に一二分の餘裕を與へたるものと思ふ、若し我生絲の練減平均一割九分位のものが歐洲に輸出せられて撚絲家の方に依然二割に割に割せられては撚絲家の述懷と云んければならぬ、さればとて我生絲の今後の繰糸法は勿論繭質の關係によりて依然其率を同じくするとは至難のことと思ふ、里昂の方に於ても從來我生絲の用途に付て飽り變りたるものでなければ、商習慣として適々其率の多きものには被易苦情の起るものであるから、此際内外の事情を取調べて意志の疏通を圖ることは緊要のことであると思ふ、併し里昂生絲檢査所長よりの注意に近年我生絲一般に改良の所見なる練減を見る、之れは我當業者の注意を要するこゝ思ひ其原因に就ては種々考へて居るのである。

▲練減率一定論は否決

之れを要するに前きに述べた如く我生絲の練減率を一定することは六ヶ敷きことに思ふ、昨年伊國中部國市に萬國蠶絲藥大會を開かれた際に其論者は伊佛生絲に對しては二割五分支那及び日本の白絲は一割八分平廣東は二割二分等に練減率を定めて取引すべしとの提案をした人もあつたが、之れに反對者は技術上一定すべきものでないとの辨駁により多數其說に贊成して本問題は否決したと云ふことである、一寸其狀況をは參考までに委員會に於て申上げた次第であります。

蠶業講習所の部長廢止

宮崎直正の勅奏蠶業講習所技師辻輔大郎氏は東京蠶業講習所講習部長、同技師藤作氏は同試驗部長、同技師黒木武雄氏は同試驗部長を京都蠶業講習所講習部長、同技師黒木武雄氏は同試驗部長を五月八日に於て何れも止められたり。

再び繭仕入の方法に就て

三重縣技師　安東潛氏談

安東技師

去月三、四の兩日製絲家大會のあつた際夜に上京したとて本會へ來られたる安東技師にば今回の問題に關する夜間賣買禁止の事が出たる上は何等に御話なする事があるとて編者に左の物語りをせられた

▲多額の繭仕入に正量試驗など……遣つて居られぬとは

私が前號に公にした繭買入の方法に就て或人は斯ういふことを申しました、千釜以上の大工場で繭を買入るものと三十釜や五十釜の小製絲場で繭を買入るものとは自ら其買入方に相違があるから一樣にも言はれぬが、一日何千石何百石といふ多額の繭を語ずに於て一時に仕入るゝ大工場に在りては一正量試驗など遣つて居られるものではない、夫れに繭相場といふものは今日の安値は明日の高値となり、今日の高値は明日の安値となりて甚しきは朝夕の相場すら其變化測り知る可らざるものがあるから骨董品や米麥類とは異り時に依りては見越買又は平均買をせねばならぬことともある云々と、なる程之も一應尤もの話でありますが之に就て想ひ出しますのは今から十三年前私がまだ富岡製絲所に居た時のことです。

▲直立裸體の儘手を打つた二萬餘圓の繭商ひ

五月上旬の頃と思ひますが武州八越銀行の倉庫に二萬圓以上の繭があると聞きそを買入れに行きました、最早新繭の出廻りに近い頃のこととて相場は非常に安く一圓に九十四匁といふことでありました、一通り倉庫内の繭を見たところが其内の袋入で四十本位（一本八）の品は良くないものと鑑定しましたから、兎に角取引は翌日にせやうと考へ、掛引上其儘取引をせずに旅館へ歸つて入浴をしてをりました、すると一人の仲買が飛んで來て、横濱の絲相場は突飛の高値になつた、此勢で行つたならば今日の八十八九圓の相場は明日は大ドタとなるであらう、此高値に就て八王子方面から商人が四名遣て來てアノ繭を成行直段で全部買ひたいと申してをりますが貴下はどうなさるかといふのです、夫れを聞くなり宜しい全部私が買ふと應へ風呂の中で銀行の人と仲買とを對手に直立裸體の儘、手を打つて、二萬何千圓といふ繭を買ふことに極めた其呼吸間一髮翌早朝其繭全部に封印をして仕舞つた、處が其歳の蠶作が不作であつた爲に新繭の時節になつて繭相場が非常に高値となり此仕入た繭が大層儲つたのであります。

▲製絲家の逆算失敗は危險の取引をするにあり

之は私が危險を冒して繭を買入た一例に過ぎないが之は昔の事で今は世間が狡猾で中々そんな馬鹿な事は出來ないけれども製絲家の繭仕入の狀況を能く見て居ります之を今爲遠方の繭買入に對し電報を發して所謂投機的に繭を買入るゝ場合が決して悪くない、トコロで斯ういふ繭の買入をせねば幾萬石となく買入る大工場に在て遂に手遅れをして繭の安い間は買はずに突飛の高値になつてから買ふやうなことになつてイヤ一年の大計を誤つて幾萬圓の損失を招く場合があるから除難なることやと云ふ人もありますが、併し此危險を冒す爲に成功する製絲家は拙くして逆算失敗を招く者が多いから斯かる危險の取引は全然之を避けて甘く養蠶家と製絲家との連絡をつけ自分の希望する繭を自由に買入るゝやうな方法を講ずることが肝要でありませう、夫れには原料相場の高低に拘らず正量取引を以て仕入れ之に依て製絲經營の豫算を確實にすることが最も宜しいことゝ考へますので前號にも一寸其意見を述べておいたことであります。

▲製絲家と養蠶家との直接取引は益發達せん

現に彼の那是製絲の如きは數年前より此正量取引を行ひ投機的に仕入るゝやうなことをせずに着々良い成績を收めて居るではありませんか、又彼の三州岡崎三龍社の如き養蠶改良の點に非常なる資本を入れて養蠶教師十數名を常設し以て養蠶家の指導を爲さしめ又繭賣試驗の如きものを設け或は原種の製造等に多くの費を投じ三龍又普及の新種を出して大規模の蠶種製造業を爲て養蠶家に配布し以て自己の希望の原料を買入るゝ事に盡力して居ることです、が實に田口社長の如きは實に其事業に忠實なるのみならず又國家に對しても其忠實なる他に多く四儲を見ざる處であります、故に其社運は年隆盛に趨き嘗ては皇太子殿下が親しく行啓あせられ賞賛の辭をさへ賜りしともある位であります、が、私共は世の製絲家は悉く此潮に倣はれん事を希望して止まぬ次第であります。

の手を藉りて種類混同玉石混淆の繭を買入れて製絲を遣るほど馬鹿氣切つた事はないやうになりますから眞に製絲經濟を完うせんと欲する人は是非養蠶家と直接取引の方法を講ずるやうにせねばなりませぬ。

▲繭の共同倉庫を設置せよ

併し大規模の工場は直接養蠶家と結びついて繭の仕入をするとしても五十人繰や七十人繰の製絲場は時に至難の場合がないとも限らぬ、夫れは外でもないが養蠶家の方で繭の共同販賣をして多額の繭を供給した場合でありまず、此場合に多くは其資本が薄弱であるから乍思其繭を買入るゝことが出來ないといふやうなことがある、夫れに又自ら養蠶教師を澤山派遣して實地指導を爲さしむるとか或は蠶種を配布して自己の希望する繭を作らしむるとかといふことは到底實行し得られぬことが多いのでありますが、此小製絲場經營者には繭の共同倉庫を設くるといふことを御勸めしたいと思ひます、小規模の製絲場が共同をして繭を買入るゝといふことは一面商買の掛引資本の融通如何に依つて至難のやうに思はれますが併し此共同倉庫を設けておけば金融の源泉を得易く隨て大量の繭共同販賣に向つて、之が買入を爲し易いのであります、之に就ては現に伊賀の東海社の如きは良き模範を示して居ることでありまして繭の貯藏に適するやう倉庫を建て水火盜難等の虞れのないやうにさへ設備をすれば銀行は喜んで此中に收めたる繭を擔保に資金の融通をして與れることとであります、彼の日本銀行や勸業銀行等に就て直接取引の便を得るといふことは個人的營業に於ては容易のことではないが、倉庫事業に對しては多大の便宜を與へ與れるのであります、のみならず此事業は一方養蠶家に對して一層の信用と安心とを與へ年々直接取引の關係を增進し得ることでありますから私は何れの製絲家に對しても繭の共同倉庫を利用せよと御勸めしたいのであります。

▲買入繭品評會に於て成効しつつある製絲家の實例

尙私は此外に一般製絲家に對して買入繭品評會の開設を御勸めしたい、買入繭品評會とは讀んで文字の如く養蠶家より買入れたる繭の品評をして養蠶改良の獎勵をするのでありますゝて其方法はイロ〳〵ありますが先づ十貫目以上の繭は悉く生繭二百目乃至三百目位を拔き取りて之に一定の乾燥を施し十一月頃に及んで殘らず肉眼審査と器械的審査とを行ひ絲量絲質解舒繭選別の歩合等を審査して一等より五等迄の等級に分けて此等級に合格した繭に對しては其生產者たる養蠶者に賞與を與ふるのであります、此賞に預りたる者は其地方郷黨に對して多大なる名譽となるから益々優良なる繭を作らんとし遂に漏れたる者は悒しく考へて來年こそはと奮發するやうになりますから、何れも皆蠶種を選び飼育に注意し桑園肥培の如き益々力を盡さうとする傾向があるのです、之が即ち製絲家の爲には非常の利益となるのであつて、其實例には乏しくありませぬ、今其一つを擧てみれば彼の三重縣の關西製絲の如き僅に百六十人繰の小製絲場であるけれども既に六年前から買入繭品評會を年々實行して居ります、此關西製絲に最も多量の原繭を供給する安濃郡の如き養蠶の發展繭の進歩といふものは實に驚く可きもので競ふて優良なる品を作らんとし桑園の如き一反八百貫の收葉量を見るもの珍らしくないのみならず製絲家として最も望む處の繭の選別を良くして賣るといふ良風が出來たので、之が爲に關西製絲で、買入るゝ繭の絲量は特に多いのみならず絲質も非常に良くて橫濱生絲合名會社の取引の中でも最優等の位置を保つて居るのであります、現に昨年の如き生絲不振の年柄にも拘らず株式會社として四朱以上の配當を爲して居る、斯る好成績を擧げてをるのは種々の關係もあらうが第一に此買入繭品評會の結果であると私は考へて居るのであります、此品評會は獨り關西製絲計りでなく石川製絲、原富岡製絲所等に於ても之を行ひ、其他にも實行しつゝあるもの尠いのは誠に喜ばしきことである、が、都合上此品評會を開くことが出來なかつたならば何れの方法なりとも講じて養蠶家とは小作人の如き連絡をつけ從來行はれ來りし不完全なる繭仕入の方法を改め以て製絲經營の改善を爲し一日も早く現在の悲境より脫する工風をするやうにせられたいのであります。

支那種の飼育大に發達せん(?)

蠶種改良の急務なることは萬人の認むる所なるが技に最も喜ばしき福音に接したるは支那種の飼育に關する一事なり、支那種は何人も知る如く繭質優良なるより夫明治三十年の頃には一時盛に其飼育行はれたるものなれども飼育困難なりとのことよりいつとはなしに之が飼育者跡を絶つの風情なりし然るに神奈川縣高座郡海老名村大島正三氏は明治二十四年の頃より舊農務局蠶業試驗場の製に係る支那種清白を飼育し連年失敗せるも屈せず遂に一の掛合種を造りて漸次之に改良を加へ今や殆と理想に近き種類として迎へられ昨四十四年度に於ける神奈川縣下の春蠶掃立は此掛合種が總數五割を占むるの盛況に達せり而して群馬縣下仁田町市川武十郎氏の如きも清國種に對しては非常の熱心を有し近年實驗の結果之が飼育の秘技を極め數年前より純支那種の製造を始め着々成功の途に就きつゝあり、本春の如きは其製造高二三萬枚の多きに達するならんとのことなるが岐阜縣稻葉郡日野村に於ても二百五十戸の內二百三十餘戸の養蠶家は悉く支那種を飼育するの盛況を呈し其飼育の有望なるを認めたる三木寬之助氏の如き岐阜市に蠶業革新社なるものを組織して挺身支那種の普及に努力すべしといへり

抑も此日野村の地勢は東南北の三方山を繞らし西方は長良川を控へて雄崇山を望み陰鬱蠶飼は暗きが如く、古來養蠶に好成績を得たることなき不幸の土地なりしに、三十一年の頃何處ともなく入り來れる支那種を飼育したるに、本邦種よりも比較的其結果宜しきより、一般に之が飼育を爲すに至りたるが、三十七年の頃同村より南清地方に至れる某軍人清國に於ける飼育法が粗放なるにも拘らず其成績を得つゝある實況を目擊し垂涎禁せず、切に其種類を送越し來て試育せしめたるに、從來の支那種に比し一層成績の良好なるより、養蠶家は復た競ふて之を飼育するに至れり、斯くて四十一年に京都蠶業講習所より支那種の新七號を取寄せ試驗せしに是亦非常の好成績なるより、日野村の養蠶家は勿論稻葉全郡の人氣頓に此種に集注するの形勢となり、昨春の如きは四千餘貫を產し、生繭一貫目四圓八十錢乃至五圓七十錢を以て名古屋製絲輸へ賣渡したる由なるが本春の掃立は外製二萬枚を下らざるべしといへば少くも其產繭は五六萬貫に達すべし因に三井物產會社橫濱支店の如きは支那種の生絲なれば見ずに一綑十圓高(在來種に比し)に買入るべしと唱へ居れる由されば該種の飼育は燎原の火の如く盛なるに至らんか吾人は我蠶界の爲に祝せざるを得ざるなり(編者)

蠶絲業法施行要義

學藝委員
農務技師　鹽谷清多郎

三、其他の當業者

其他の當業者と申すは、前に述べました蠶種製造者及蠶種冷蔵業者以外に於ける蠶絲業法の適用を受くべき當業者を指したので、生繭の取扱を爲す者、蠶種の行商を爲す者養蠶を爲す者（自家用蠶種製造を爲す者を含む）を謂ふのであります。是等の當業者は蠶種製造者又は蠶種冷蔵業者の如く免許を受くることは要せないが、指定せられた時期迄に屆出を爲し又は鑑札の下付を出願するの手續を採らねばなりませぬ、尤も屆出又は鑑札下付の手續を採りたるや否やに依りて法令の適用を受くると受けざるとが出來る譯ではなくて、此の手續を爲すも爲さざるも當然適用を受け違反の行爲ありたるときは正條に照し處分せらるることとなるのであります。

甲、生繭の取扱を爲す者

生繭の取扱を爲す者に對する法令の意義は極めて廣く、第四條及第三十五條に規定せらるる所を以て見れば、單に生繭の賣買に從事する者のみならず、蠶絲の製造に從事する者、殺蠶乾繭に從事する者乃至繭の荷造又は保管を取扱又は保管する者等も亦生繭を扱ふ者は之が營業たると又は其の意義に包含せらるるものと思ひます、又絲に生繭と稱する意義は乾燥したる繭即ち乾繭と云ふ語に對する反古に非ずして、繭内に在る蠶と此の蠶に寄生したる蠶蛆とが時期を得ば發出し得る樣に生存せる繭を謂ふのであります。

（一）生繭の取扱を爲す者が蠶絲業法に依り負ふ所の義務は法第四條の命令の定むる所に依り病蠶及斃蠶の病原微生物並に蠶蛆及其の蛹、蠅を滅殺し其他蠶病豫防の爲必要なる施設を爲すを要するの明文に基くものであります。

（二）生繭の取扱を爲す者に對して特に必要なる義務は蠶蛆若は其の蛹、蠅を發見したる際直ちに之を殺滅又は水殺することであります、其の方法は昨年十二月農商務省告示第五百七十一號に於て之を列擧すれば左の通りであります。

一、蠅殺は熱湯中に浸漬するか若は華氏二百十二度以上の蒸汽に接觸せしむるか又は華氏百六十度以上の乾熱に十分間以上接觸せしめ又は燒滅すること

二、蛆殺は熱湯中に浸漬するか若は華氏二百十二度以上の蒸汽に接觸せしむるか又は華氏百六十度以上の乾熱に十分間以上接觸せしめ又は燒滅すること

三、水殺は容器に滿たしたる水液中に蠶蛆は七十時間以上其の蛹は百二十時間以上浸漬すべし。

又室の全部を用ゆると一部を用ゆるとの如何に係らず苟も生繭を異散する室若は保存する室の床上に目張を爲すか磯紙其の他の適當なる目の粗物を布き且つ室の内側に下部より高さ二寸を下らざる隙板を設け蠶蛆及其の蛹の散逸を防がねばなりませぬ。尚其の隙板が生繭に接觸して居る場合には蠶蛆及其の蛹が之を喰ひ越して散逸することがありますから、一層隙板を高くして更らに繭の表面より二寸を保たしむることに成つて居ります、然しながら千歳又は堅密なる構造の室にあつて事實蠶蛆及其の蛹が散逸せないことが確であるか、又は密閉し得べき容器若は密閉し得ざる籠の高き箱、櫃等の中に納められてある場合には目張隙板等の設備は要せないのであります、又設備の有無に拘らず床下に蠶蛆若は其の蛹潜伏の虞あるときには床下掃除を行ふて其の塵芥を燒棄するか、又は百二十時間以上水液中に浸漬せねばなりませぬ（施行規則第十一條第十四條）

（二）生繭を自ら運搬し若は他人をして運搬せしめひとするときには其の繭より發出したる蠶蛆又は其の蛹を道路其他に散逸せしめない樣にする爲に綿布、麻布等より成る容器中に納めなければなりませぬ、此の容器は綿布、麻布と例示してある如く蠶蛆又は其の蛹の漏れないことが要件であるから葉蛾の如きは悉く之に檢査を與へ檢定印を付する所がありません（施行規則第十五條）

宮城縣仙臺市宮城縣立女子高等學校

（三）病患ありと認むる蠶兒、蠶蛹、蠶蛾は其の屍體を發見したるときは直ちに之を燒棄するか、又は熱湯「フォルマリン」若は石灰水中に投入し死體繭又は薄皮繭は直ちに之を乾燥し又は熱湯中に投入して其の病原體を滅殺せねばなりませぬ、其の處理方法に就きましては矢張昨年十二月農商務省告示第五百七十一號に左の通り掲げてあります（施行規則第十二條）

一、「フォルマリン」を用ゐる場合に在りては其の稀釋液（百分中蟻酸アルデヒード「瓦斯一分以上を含有し液温華氏七十五度以上のもの」）に投入し六十時間以上之を放置すること

二、石灰水を用ゐる場合に在りては生石灰一分に水九分以内を加へたるものに投入し百十五時間以上之を放置すること

三、熱湯を用ゐる場合に在りては其の中の一時間以上浸漬し若は五分間以上煮沸を繼續すること

四、乾燥を行ふ場合に在りては華氏百六十度以上の火熱又は蒸汽熱を用ゐ生繭百匁を四十匁以内に至らしむること

(四)死籠繭の混在して居るのは止むを得ませぬが化蛹せざる繭の混淆して居る生繭は之を賣買することが出來ませぬ、從來賣渡を急ぎ又は重量を貪る爲各地に兎角若搔きの弊多く生絲製造者の迷惑尠なからざりしのみならず國利を失ふこと洵に大なる譯でありましたから、其の弊を矯正する爲に此の規定を設けられたると思はれます、然し賣買を致しましても他に搬出せず現在の場所に据へ置くならば差支ないのであります、又生繭の賣買を營業とする者にて店舗以外の場所に於て賣買に從事せむとするときは道府縣廳より下附を受けたる鑑札を携帶せねばなりませぬ、雇人其他の從業者をして之を爲さしむる場合に於ては各從業者毎に下附を受けたる鑑札を携帶せしむるの要あるのであります、一體此の事は生繭の取扱を爲す者全般に關はる事柄ではなく單に生繭の賣買を爲す者或は生繭の賣買を營業と爲す者のみに關係することでありますけれども生繭の取扱を爲す者は事實概ね賣買業者てありますから、序に玆に揭げたのであります(施行規則第八十九條第九十條)

(ロ)形式上の義務　生繭の取扱を爲す者に對する形式上の義務は僅かに左の數項であります。

(一)生繭取扱屆　生繭の取扱を爲す者は最初より其の取扱場所を豫定し得ると否とに依り多少手續を異にする地方あるも大體は地方長官の定めたる時期に氏名、住所、蠶絲業に關する業種、生繭取扱場所、取扱豫定月日及其の數量を府縣の手續に定めたる樣式に依り屆出でねばなりませぬ、然しながら養蠶者、蠶種製造者及自家用の爲にする生繭取扱者に於きましては此の屆出を爲す必要がありませぬ(施行規則第七條)

(二)死亡廢業及變更事項等の屆出　生繭取扱を爲したる人が死亡したる場合には其の相續人より之を屆出で、又中途廢業したるときには本人より之を屆出でねばなりませぬ、尚前に揭げました屆出事項中に變更を生じたるときには遲滯なく其の旨を屆出ねばなりませぬ(施行規則第八條)

(三)標札の揭示　生繭の取扱を爲す者の中にて特に生絲製造者、眞綿製造者又は生繭の賣買、仲立、保管若は殺蛹乾繭に從事する者は其の生繭取扱場所毎に業種、住所、場所名、氏名若は名稱(法人の場合に)を記載したる縱一尺五寸以上橫四寸以上厚四分以上の木札を揭げねばなりませぬ(施行規則第十條)

(四)鑑札下附願　生繭の賣買を營業と爲す者にして店舗以外の場所に於て賣買に從事する爲鑑札の下附を出願せむとするときは住所地の地方長官に生繭の賣買を爲さむとする地域及鑑札を携帶すべき者の氏名、生年月日を記載したる願書を指定の期日迄に差出すのであります、其の願書の樣式の如きは府縣の手續にありますから、御覽を願ひたい、尚此の鑑札は何れの地に於ても有効でありますから遠方に行く場合などには特に大切にせなければなりませぬ、又此の鑑札の有効期限に就きましては地方長官の任意になつて居りますから各府縣共一樣ではありませぬ、即ち毎年之を受けさせる所と永年に渉りて使用せしむる所とあります、死亡、廢業等の場合にて鑑札不用に屬したるときは直ちに之を返納し毀損、亡失等の場合には更に下附を願出づることが出來ます(施行規則第九十一條)

産業組合に就いて(承前)

東京農科大學助教授 農學士 佐藤寛次

▲原料購買組合事業の經營

物品購入の手續等は前回述べた消費組合と異なる所はないが、購入の目的が異なるのと、大凡時期があるのとによりて大體に於ては其の經營方法に差違があるのである。

購入の目的より云へば、固より工業と農業とにより、又其の細則によりて異なるべきは云ふ迄もないことであるが、要は事業の性質によく叶つた原料を、出來るだけ安價に、又品質の間違のなきものを購入するにあるのである、即ち信用のある蠶種製造家より、精良の蠶種を、成べく安價に購入して、之を以て最も品質の善良なる繭を生産せんとするが如きは此の組合の目的で、又之を以て經營の目標とすべきである。原料購入の方面に於て幾分かの生産費を減じながら、尙生産物の品質を良好にして初て原料組合の役目が果されるのである。

尚本組合に就きて注意すべきは、農産業者の組合に於ては購入の時期に略一定の季節がありて、其の時期に限り、餘りに繁忙なるに反して、他の季節は閑散であるといふことてある、故にかゝる場合には、原料品の購入のみにつきて組合を設立するよりも、他の信用組合等と兼ね營みて充分であるのである、但し蠶種、種子、苗木、肥料飼料などを取扱ふに於ては相當の連續的事業となる見込がある場合もなきにしもあらずてある。購買品を組合員に引き渡すに際しては、消費組合の如くに必ずしも一定の店舗を設くべきでない、組合員をして、指定の停車場に於て受取らしめ、又は倉庫より持ち出さしめてもよい、尤も物品の種類によりては、組合にて購入せるものに製作を施し、連續して之を組合員に引渡すときには、其の製造工場の一部を以て賣店とし、組合員をして此の店につきて購入を爲さしむることもあるのである。

▲代金の定め方

原料組合に於ては、出來るだけ安價に組合員に物品を供給するを可とすることゝ思ふ。原料の安價なるが故に、空費するといふが如きことは甚だしきものでない、又原料としては出來るだけ安價なる限り、之を使用する事業の隆昌を來すべきもので、事業改良の計策も之を土臺として立る譯てある。こは消費組合が「市價に依る」との主義を固執するのとは幾分か趣きを異にした點である。

▲代金の仕拂方法

消費組合に於ては現金制度を採用するのであるが、こは消費用の品物は一度人の使用に依りて殆ど其の形を失ふものであつて再び同種の貨物を再生するものでなく、所謂最終消費であるが故に、其の代金は之を已に得たる現金を以て仕拂ふ

べきは當然であるからである。且つかくするときは組合の費金の運轉力も大となり益々品物を安價に購入し得ることになるのである。然るに原料組合になると、其の原料は使用せらるゝと同時に他の形態を以て遠からず再生する、而も再生した品物は原料購入の際に現金の仕拂が出來ぬとしても、後に於て相當仕拂を爲し得べき道理である、此の點は消費組合の場合と大に異なる點である。尤も現金仕拂に勝りたる方法は他にないから、成るべくは此の方法を採用すべきであるが、時と場合によりては原料組合ならば代金仕拂の時期を延期することも差支あるものではないと自分は信ずるのである。

▲購買組合の加工

尙序ながら述ぶべきことは、購買組合の加工である、こは消費組合たると原料組合たると論なく、組合に於て購入したるものに工作を加へて精製品と爲す事は差支ないのである。而して加工は製造と同意義に使用されて居るから、各種の材料を調合鹽梅して全然別種のものを製作することも差支ないことになるのである。

元來物品を安價に購入して之を使用若くは消費せんとするには、三種の方法がある。第一は之を製造業者、又は問屋より直接に買入れることである。第二は販賣組合より之を購入することである。第三は自らの之を製造することである。然るに製造業者若くは問屋は購買組合に對して思ふ樣に安價に供給せぬことも多ある。又は購買組合の發達に防害を與ふることもある。到底購買組合の味方でない場合も起る。販賣組合は其の供給力不充分であるとか、價格の協定上に於て面倒なことが起ることが購買組合の思ふ樣に進まぬこともある。（然し此の方法は近頃良好の成績を示して居るものもある。即ち丁抹の乳業組合及豚肉組合の如きは主として英國購買組合（消費上の）の需要品を製造し、佛國の生產組合も亦英國の組合の需要に應じて居る）此の如き場合にはどうしても自家生產の方法も已むことを得ぬ。

▲購買組合の自家生產

購買組合中自らの需要を自ら製造せんとするものは、特に勞働者の消費組合に多い、こは一は經濟上の關係に本づくもので、勞働と資本の調和を圖る爲め、生產に從事する人々をして事業と密接な關係を保持せしめ以て營業を減ぜんとする爲め、及び勞働者の失職なからしむる爲めに必要事である。原料組合に於ては、人造の肥料の製造飼料の調製等の場合に起るものである。兎に角に其の製造は多額に上るべきことが大切であるから、勢ひ生產は出來るだけ簡單なもので、直却する其だ確實の市場を有する場合である。今獨逸に於ける伯林及びハンブルヒ聯合會がこれに於ける勢を示して居る。即ち所屬組合調査組合數二百四十六、中二百七はパン燒を主とせるもの、二十六は屠殺組合十九は、清凉飲料及びリモナード製造組合七の燕麥組合、七の珈琲所である。我が國には未だ此の方面に於ける發達には見るべきものはないのである。

二十年間の研究と實驗とに依りて得たる秋蠶生種製造法（承前）

群馬縣蠶業試驗場
生種製造家　佐々木左原太

夫れ消毒法は、蠶種業者に於ける、要務中の要務なりとす然るに之れを察せず或は徒らに形式的一遍の消毒をなすを以て能事足れりとなすものあり、敢て問ふ、其心中に顧みて疚しき所なきや否や、其製種の如き、果して能く缺點なきや否や。

明治四十三年度群馬縣蠶病豫防事務所成績報告書を見るに縣下蠶種製造者數七百九十三人あり、而して、春秋二期を通じて蒸汽式を採用するもの僅かに二人なりとす一つは李氏なりとす、其氏は風穴種製造者なり、故に二化性生種製造者中に於ては一縣を通算して實に予一人のみなりとす、何ぞ已の少なきや、噫。

夫れ一化性の製造期は平坦部にありと雖も其季節低溫寡濕にして病毒の繁殖稍々少なく、且つ多くは積年の從業者にして學術經驗に富み其消毒の如きも蓋し遺憾なからん、二化性は年々製造の如きは毒の蔓延に適當なる候なりとす、宜しく大に其防禦力を增加せざるべからざる事は固より言を俟たざる所にして、且つ本縣下の二化性生種製種者は概ね予が斯業を奬勵せしより以來、其數を加へたるものにして其從業たる日尚ほ淺く學識經驗に有效の士は尠くなからん、蠶病豫防法の如き、大い完備の士は尠くなからず、而して予は其經驗により蒸汽消毒の有効なを信ずるものなり、特に二化性生種製造地は、多くは高原部にあるを以て其原料たる蘇炭豐富にして失費少なく、殊に之れを用ゆるに適せり、予は維令設備難く、勞費多からざるを以て之れ當業者に働めんと欲するものなり、況や設備簡にして勞費共に少なく效果甚だ多きものをや、予は其研究實驗する所のものの之れを人と同ふし、以て益々改良を期せん事を無數するものなり識者、幸に之れ選べ。

其十　良桑

桑葉の蠶兒に於ける、乃至蠶繭蠶蛾蠶種に於ける、一體にして良ければ良なるのみと予は之れを極言せんと欲す、故に桑良なれば則ち蠶良なり、桑劣なれば則ち蠶劣なり、桑良なれば則ち繭良なり桑劣なれば則ち繭劣なり、桑良なれば則ち蛾良なり、桑劣なれば則ち蛾劣なり、桑良なれば則ち卵良なり、桑劣なれば卵も亦劣なり、蠶種の良否は原種にありと雖も、一は其

桑葉の如何に依る事大なるものありとす、故に良種を製造せんと欲するものは必ず先づ良桑を用ひん事を要す、但し爰に予が良桑と稱する所のものは、一般に適用する彼の水分多き柔軟豐肥なるものを謂ふにあらず、翻へつて之れに反するものにして、即ち水分極めて少なく養分極めて多く、其質稍々剛強なるものを謂ふなり、予に一種の山桑あり、殊に其風土に適良なるのみならず、又極めて予が原蠶飼育に適良なるを以て予は一に之れを栽植す、而して桑園となすべき地質は粘土は稍々佳ならざれども、其他は砂礫埴壚皆可なり、其位置は高爽開濶にして傾斜あり陰に背き陽に向ひ、大氣流動の快なるを以て可とす、其樹は、高刈若くは中刈とし根刈は決して用ゆべからず、根刈は陽光及び風の透射あしく、水分多く且つ泥土を附着するを以てなり、其距離は寛濶ならん事を要す、肥料は隨時之れを施し且つ其多きを厭はずと雖も過剩なる窒素質は其刺戟作用桑の組織を疏鬆ならしめ、多く水分を含蓄せしむるを以て、原蠶育に供するに堪へざらしむるに至るものなり、故に之れを施すには發芽前に之れを吸收し了はるを以て度とすべし、施肥其時を誤らんか或は壯蠶期に際し桑葉頓に繁茂し、大に柔軟となるものあり、斯の如き桑葉を以て、飼育なしたるものは、其蠶種は甚だ劣惡なるものなりとす、原蠶飼育桑を培養するものは大に注意すべき點なり、然り而して、蠶齡と桑葉の大小剛柔其の度を失なはんか良桑を用ゆると雖も好果を收むる事能はざる事は固より其處なりとす、故に蠶兒の掃立に於て豫じめ其程度を計り、其權衡を保たしむる事を要す、一原蠶飼育に於ては必ず一種類の桑葉を用ひん事を要す、種類とは、早中晩の種類を云ふなり、同じく是れ良桑ありと雖も生長同時ならず、剛柔差あり、營養量亦同じからざればなり。

夫れ桑は一株にして蠶の一生を全ふするに適する營養物を具備するものなり、然るに之れを察せず初に於て早生桑を與へ、中に於て中生桑を與へ、終に於て晩生桑を與へ却て以て得たるものあり、或は早晩の差なく雜然として之を與へ以て顧みる所なきものあり、果して斯の如くならんか良桑將た何の益あらんや故に予は其初に於て早生桑を與へたるものは終りに至るも之れを繼續せん事を望むものなり、中晩亦然り、果して能く斯の如くならんか營養物は蠶の身體に伴ひ其健康に適順なるを以て完全なる良種を製造する事を得ん、是れ即ち予が原蠶飼育に於て必ず一種類の桑葉を用ゆべしとなす所以なり、予は原蠶飼育に於ては絕對に柔軟桑葉を用ゆる事を排斥するものなり、原蠶飼育に用ゆべからざる桑四種あり本會報第二百二十二號予が實驗談柔軟桑葉の害に就ての件中にあり、參照せられたし、然りと雖も催蠶及脫皮前後老熟期には、之れに對する適宜のものを用ゆべきは固より勿論の事なりとす、予は何を以て柔軟桑葉を排斥するか、曰く其害二あり、一は水分多く養分寡く、蠶兒徒に肥大にして堅實せず、其繭其卵亦然り、是れ營養缺くる所あり、發育完全なるを得ざるが爲めなり、而して其蠶種は必ず虛弱劣惡にして好果を得る事能はざるものなり、一は水分多さを以て多く濕氣を生ず濕の害たる至らざるなし濕にして冷ならんか冷濕の害蠶をして虛弱ならしむ濕にして溫たらんか溫濕の害蠶をして多病ならしむ、虛弱と多病にして蠶既に敗る何に依てか蠶繭を望まん、況や良繭をや何に依りてか蠶種を望まん況や良種をや、濕の害たる事を知らば則ち爰に予が所謂良桑を知らん、又曰く或は製種者にして桑園の設備なきものあり或は之れありとするも用ゆるに足るべき良桑なきものあり、或は必要に迫り遽かに之れを購入し其良否を辨ぜざるものあり、或は桑價暴騰に際しては其劣桑をも得る事能はず蠶をして饑餓せしむるものあり、予は其不注意なるを悲しむと同時に斯業の爲めに轉た寒心に堪へざるものあり、夫れ桑園は製種者の一大必要の基本なりとす、良種を製造せんと欲するものは、必ず良桑園を設備せん事を要すべきなり。

絲況

横濱市場

▲四月中の絲況　月の上旬は三日の大祭日、五日のグード、フライデー、七日の日曜、八日のイースターモンデー等相續て休業同樣の場合が多かつたので、兎角商談薄であつたが中旬に於ける市場は其賣行入荷以上を賣拔く好況を呈したので、相場は依然として保合の姿なれど、在荷は片端より減少して人氣は頓に引立つて來た、然るに下旬の市場は一轉氣配鈍狀を呈し信州上一番及場違物等には弗々ながら商談行はれたるも、海外の注文渺々しからざると、入荷の漸次增加せるとに依りて各商館何れも觀望の風情にて何等發展の模樣もなく越月した、取引の狀勢斯此にしてさて絲價は如何と顧みれば八百五十五圓で取引せられたる上一番格が十二日に五圓方下落したまゝ殆ど釘付の有樣で其他の絲價も格別高低を見せずに頗る單調であつたが併し之を昨年の同月に比すれば概して安直であつた。

▲價格の差　斯くて四月中の最高價は信濃東行社優等細の九百三十五圓で、最低價は岩代共同三馬折返の七百九十圓であるが、之を昨年四月の最高價遠江阿多古社中細の九百四十圓と最低價信濃日本社白太の八百三十圓とに比較すれば高値に於て五圓低値に於て四十圓の差がある。

▲集散の狀況　四月中に於ける生絲集散の狀況は次表の如くてある。

明治四十五年四月自一日至三十日生絲集散表

	器械	座繰	折返し	種絲	合計
持越	一四、八四四	三〇七	四六六	四〇	一五、六五七
入荷	二一、〇二九	二六〇半	五二五半	八	二一、八二三
賣了	二一、六一四	二五八半	六四九	—	二二、五二一半
地方積戻	八七六	八四	三五	—	九九五
繰越	一三、三八三	二二五半	三〇七半	四八	一三、九六四

備考

一、表中單位個は九貫目を指す

二、持越とは客月より本月に持越したるものにして本月一日の調査繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして先月末日の調査に係る

三、前月分の繰越と其數一致せざるは商談中のものあるに由る

四、賣了中米國に輸出せる者は八千一百四十八俵歐洲に輸出せるものは二千三百八十四俵なり

之を昨年の同月に比較すれば入荷に於て三千六百七十五個半、手合に於て一千九百二十八個半賣了に於て六千六百六十六個を增加し、積戻に於て三百五十個を減じた、之に依て見れば絲價は本年の方槪して低廉なるも取引の數量は餘程旺盛であつた、尙參考の爲に四月中に於ける日々の生絲集散の狀況を左に示すことにしやう。

明治四十五年四月自一日至三十日生絲集散日別表

（器械太□　同中△　同細○　座繰×　折返し＋）

月日	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地方積戻	國名	社名	種別	最高價	最低價	摘要
一日	一、二六〇	四三九	四四四	—	—	二九	上野 信濃	交水社旭繭 小口組	□×	八六〇	八四〇	續いて商談あり相場は更に十圓方引締れり
二日	六二七	三九五	一、〇三五半	—	—	七九	信濃 岩代	岡谷社 共同二馬	＋□	八四五	八三〇	當用口へ相場變りなく出來し米向も多少必要の商談あり
三日	—	—	—	—	六六六	—						大祭日
四日	一、四三三	二二六	一、〇三六	—	—	三三	伯耆 信濃	[illegible]木製絲 三井製絲	□□	九二〇	八四五	先つ保合にて相場かわらされど一寸商談薄となり稍靜かなり
五日	四一〇	二四四	一、九一〇	—	—	三〇	信濃 同	東行社蕃 信英社	□○	九三五	八三五	グード、フライデーにて休業せる向多く必要品多少商談ありし
六日	八七〇	一八	一、八五四	—	—	一二	三河 信濃	日登社 光進社	□○	九二七半	八三五	歐米にも此の日祭日にて入電せず商談罷て手薄なり
七日	—	—	—	—	—	—						日曜日
八日	一、四八〇半	—	三四三	—	—	四八半		未定				イースターモンデーにて大部分休業し商談なし
九日	七六八	四四九	五六六半	—	—	四三		未定				信州上一番其他商内出來し變りなく保合へり
十日	五六七	一二六	四七二	一八	一、〇二〇	四五		未定				新規商談薄なれども概して變りなし
十一日	九〇四	一三〇	五二八	七二	—	四八	上野 信濃	交水社旭繭 小口組	□×	八六五	八四〇	補充口の商ひ少しく出來せしも相場は幾分か安含みなりし
十二日	一、〇一六	一〇八	六三八	—	—	四七		未定				相場は變らざれども商談薄にて氣配引立たず
十三日	四四二	六三	六〇三	五四	一、八七七	三〇	岩代 信濃	共同金蚕 片倉川岸	□×	九〇〇	八五五	揚違物弗々商談の行はるゝ位にて依然揉々しからぬ成行なりし

月日	入荷	手合	賣了	引戻	輸出	地方積戻	國名	社名	種別	最高價	最低價	摘要
十四日	—	—	—	—	—	—						日曜日
十五日	一、四六七	八六一	四一三	—	—	四八		未定				遂に五圓安となり兩三度機會待注文口へ折合へり
十六日	五九五	二三四	一、八一四	一〇	—	五一	信濃 同	東行社優 開清館	□○	九三五	八五五	變りなく弗々當用口へ商談行れたり
十七日	一、〇三八	四一一	一、五一一	—	七四三	五八	武藏 信濃	上水社 ㊀組金龍	□○	九〇五	八四五	當用口の賣行あり相場品により保合居れど大勢は面白からざる成行なりし
十八日	七〇七	四〇五	九一〇半	—	—	三四	越中 信濃	清光社 橫內製絲	□△	八九〇	八五五	適當品は弗々なるも商談行はれ相場は先つ保合なりし
十九日	七八一	一六二	九二六半	—	—	四三	伯耆 岩代	倉光製絲 共同三馬	＋□	九二五	七九〇	少しく商談薄なりしも敢て變りなし
二十日	七五二	一八八	五八三	一九	二、二九九	二一	信濃 同	牧製絲 小野社	□○	九一五	八五五	前報同樣氣配別に變りなかりし
廿一日	—	—	—	—	—	—						日曜日
廿二日	一、四二八半	一九七	九三六半	五四	—	四三	武藏 信濃	富國館 信英社	□○	八七〇	八四五	相場變りなきも新規商談薄なりし
廿三日	四六五	九九	八六一	二七	—	五二半	出雲 信濃	櫻井製絲 尾澤組	□□	九一五	八五〇	兎角商談薄なれども概況保合にて必要口へ賣行けり
廿四日	八五九	四一四	一、六一四	九	一、一五九	六〇半	甲斐 信濃	甲南社 日本社白	□○	九二〇	八四五	相場變りなく弗々當用口の商ひ出來を見たり
廿五日	六六〇	二八九	八五五	一八	—	一八	伯耆 信濃	境製絲 今組金龍	□□	九〇五	八四五	更に變化なく弗々當用小口の小商談行はる
廿六日	五五四	一八一	六九二	四五	—	二三	常陸 岩代	眞壁製絲 共同三馬	＋○	九一〇	七九〇	相場同事なれども大筋物は少しく取組出來せしも氣配變りなし
廿七日	六七一	三六	六〇五半	—	二、〇四三	四五半	信濃 同	中信社 小口組	□□	八五五	八五〇	稍や氣配惡しく商談薄なり
廿八日	—	—	—	—	—	—						日曜日
廿九日	一、四九八	六〇〇	七〇一半	九	—	三七半	薩摩 信濃	鹿兒島協同 入○製絲	□○	九一〇	八五〇	遂に五圓安を以て折合に至りたるが氣配何分揉々しからず
三十日	五七〇	七二	六七五	一九	七二五	一六半	三河 信濃	日登社 寺正社	□○	九二〇	八五〇	御安直持の風情もありて兎角揉々しき商談なし
合計	二一、八二三	六、四四七	一二、五二一	三五四	一〇、五三二	九九五						

倘本年四月中の生絲集散の狀況を示し、且つ昨年四月末の夫れとを對照すれば左の如くてある。

▲減じた印×は增した印

月次	持越	入荷	賣了	積戻	操越	輸出數量	輸出價格
四十五年一月	三六、四八四(俵)	一四、一九五(俵)	三三、六六五(俵)	八七〇(俵)	三七、八四五(俵)	三三、八〇三(俵)	一〇、三三一、八六六(圓)
四十五年二月	三六、八三三	一〇、〇五九	一四、五七八	一、六四八	一七、八五四	一〇、三三一	一一、〇〇八、七三三
四十五年三月	一六、六五四	一八、三五八	一七、二六五	一、二六九	一六、五五七	九、七五〇	八、八九三、四五四
四十五年四月	一五、六五七	三三、八二三	三三、五三一	九九五	一五、九六四	一〇、五五四	
計		六五、五三一	八〇、〇二六	四、六八五		四五、三九五	
四十四年二月		五八、七七七	六三、九六五	五四、五五五		五九、〇三二	
差引		▲一四、五五六	▲一七、〇六五	×七三三		▲一四、三七五	

▲**松崎新繭と上一** 伊豆松崎の新繭も昨年よりは聊か後れたるも例年の吉例に習つて愈々去月十五日は初商ひが行はれたが昨年の四圓三十二錢に比し二十七錢安の四圓五錢に折合つた今最近に於ける信州上一の標準相場と松崎新繭の初取引とを比較表示すれば左の如くてある。

年次	松崎一貫建初相場	信州上一の標準
四五	四・〇五(圓)	八三〇見當(圓)
四四	四・三二	八二五
四三	四・二八	八三五
四二	四・六〇	八七〇見當
四一	四・〇〇	八四〇

昨年とは絲價殆ど大差なきに繭相場が兎に角安値折合を告げて掛目取も昨年の四十四五掛に對し本年は四十三掛を以てした、此標準を以て原料仕入を爲すならば或は以て損失を招かずに否幾分の利益を見るを得んか、絲家原料の競買を爲し自から繭價を高騰せしむるやうな拙策を爲してはならぬ。

▲**屑絲の入荷減退** 横濱蠶絲貿易商同業組合事務所の調査に係る四月中の屑絲の入荷高は左の如くてある

	本年四月	昨年四月	四十四年六月以後	四十三年六月以後
緞斗絲	一、一六一(俵)	一、二九二(俵)	三三、八三六(俵)	四〇、〇四七(俵)
生皮苧	四、一〇七	五、一四六	五七、一四六	六七、〇七
玉絲	三五五	一七	二、一八六	三、一四七
出殼繭	八八	—	六、八四七	一三、四七三
玉繭	—	—	—	五八
取合	七一	五九	一、一七一	一、二一九
合計	五、七八三	六、五一四	一〇四、一六三	一二五、七五一

即ち昨年六月以後十箇月間に於る入荷高は十萬四千百六十三俵にして、之れを前年の同期に比すれば、二萬一千五百八十八俵を減少した。而して四月中の集散高を前年と對照すれば、

	本年四月	昨年四月	比較增減
操越高	六、三一九	一〇、一二一	減 三、八〇二
入荷高	五、七八三	六、五一四	減 七三一
以上計	一二、一〇二	一六、六三五	減 四、五三三
賣込高	六、四八五	八、二二〇	減 一、七三五
直輸高	—	二八	—
内地行	一	一八〇	減 一七九
以上計	六、四八六	八、四二八	減 一、九四二
差引殘	五、六一六	七、六六六	二、〇五〇

本年は入荷の少數なる爲めに賣高に於ても減少し屑絲貿易は生絲の生產高增加せると、反對に年々縮少を示しつゝある事實顯著なるは內地紬絲業の發達せる結果たるは今更云ふを要せざる所なるが、輸出供給力の減少せるに拘はらず、其れが相場に寸毫の効果を示さずして、却つて相場の位置低下勝ちなるは一疑問てある。

紐育市場

紐育市況に就き同地駐在總領事代理沼野安太郎氏より外務省への電報左の如し

廣幅物及「リボン」は目下例年の通商ひ大に鈍く生絲の買付小口物のみにて直又は短期渡品なり、之に反し編物用生絲の需要甚だ多く現今「リボン」用としての消費に匹敵す、一封總關西特別飛切三弗七五、同飛切上三弗七〇同、飛切三弗六七五信州飛切三弗六二五、同一番三弗四五同一番半なし(四月二十五日發電)

生絲市場平穩例も先物に關し商議あるも値段折合はさるため多くは纏まらず關西特別飛切三弗七五、同飛切上三弗七二五、同飛切三弗六七五、信州飛切三弗六二五、同一番三弗四二五、同一番半なし(四月三十日發電)

季節外れにて市場平穩頃日は必要に迫るまでは餘り先物の買込を爲さゝる傾あり目下秋物の注文甚だ靜さも本年の景氣は結局略昨年同樣ならんと豫期する者ありパノターソンにては既に春物の織上げを終り目下閑散なるを以て機屋中雜工同盟決定協の賃率に應ぜず罷業するものあり

關西特別飛切三弗七五、同飛切上三弗七〇、同飛切三弗六五、信州飛切三弗六〇、同一番三弗三七五(五月十日發電)

市場平穩多くは現品の小口取引なり相場の高下頗る減したるも未た十分の落付を見るに至らず關西特別飛切三弗七七五、同飛切上三弗七二五、同飛切三弗六二五、信州飛切三弗六〇、同一番三弗四〇同一番半なし(五月十四日發電)

里昂市場

里昂生絲並に羽二重市況に就き同地駐在領事木島孝藏氏より外務省への電報左の如し。

生絲當座用小口取引相場堅し一番半器機絲九乃至十一「デニール」相場四十三法〇〇見當、一番半器械絲十三乃至十五「デニール」相場三十九(?)法五〇見當、在荷四、五五六「バール」

羽二重沈靜相場安く越前尺五、六付三十九法〇〇見當、在荷二、一〇〇函(五月一日發電)

歐洲養蠶は寒氣のため幾分損害を受けたるものあれども好天氣と爲らば恢復すべし槪して掃立分量は客年に少しく劣れり故に收繭も昨年より多きことなかるべし此ためか生絲相場持合ひ居れども相應に取引あり一番半器機絲九乃至十一「デニール」相場四十三法見當、一番半器機絲十三乃至十五「デニール」相場三十九法五〇見當、在荷四五五八「バール」羽二重安値のため弗々商談あり越前尺五六付三十八法五〇見當、在荷二〇四六函(五月八日發電)

前報後暑さ加はり收繭豫想も揃らさ佛國四養蠶は三四眠の間生絲靜か相場持合ふ一番半器械絲九乃至十一「デニール」相場四十三法見當、一番半器械絲十三乃至十五「デニール」相場三十九法見當、在荷四二五二「バール」

羽二重靜か安値持合ふ越前尺五六付三十八法五〇見當、在荷二〇三九函(五月十五日發電)

廣東市場

廣東絲況に付き瀨川總領事より外務省への電報左の如し。

本期(自三月廿九日至四月十一日)二週間內に於ても亦前期と同じく殘荷の買入に對し可なり活潑なる狀況を呈し、本期二週間內を通じて總計約二千三百梱の取引ありて目下昨年度の收獲に對する製品の殘荷は千五百乃至二千梱見當なるべしと云ふ、而して本年第一回作は目下二三眠の間に在るを以て、未だ其成績如何に就ては明言すること能はずと雖も、現今の相場に變動なくむば新年度即ち五月一日以後迄古糸を持越すことは萬なかる可し、又新絲契約は弗々ながら多少の商談ありたり、歐洲向出來高は二千四百梱來國向も相變らず相應の注文ありて合計九百梱の取引ありたり。

問答

◎桑樹の落葉に就き質問

沖縄縣 学藝委員 前田大吉

一、内地各府縣より各種の桑樹を取寄せ三年間試驗したる成績に依れば、何も十月頃落葉し翌年四月頃發芽し始て内地同樣の狀況にて、本縣桑樹の四時季々として新陳代謝行はいものに在し、非產の差違あるは如何なる理由なるや。

二、内地より皆桑の種子を取寄せ播種せしに、之れ又前陳同樣の差違あり云ふ、其理由如何なるか御教示ありたし。

答

学藝委員 農學士 川島勝次郎

一、種桑に於て内地桑が秋期落葉し、本縣が年間々々なるは孰れも桑樹が、久しき間に其土地に適應する結果化を為し得たるが為なれば、之れ又前陳同樣の差違あり云ふ、

◎蠶種貯藏氷庫に就き質問

愛媛縣 通常會員 鎌田鐵一郎

一、氷庫の温度は蠶過何度のものにや、外温の如何により氷庫内に影響ありや否や、

二、氷庫内の温度及湿度如何なる適當の貯藏温度となすや、温度の高低を處理する方法如何。

三、氷庫内に於ける注意の要件如何。

四、保護室内に於ける注意の要件如何。

五、氷庫の位置は地下六尺以上ならば如何なる協議にても可なりや、適不適あらば一、氷庫の價格に凡そ何程なるや、氷を詰むるに如何なる注意を要するや。

六、我國には氷庫貯藏の完全なる設備のある所は何處に有りや且つ其成績如何

答

学藝委員 農學士 林 鼎作

一、氷低三十三四度乃至三十七八度位ならば、人の出入等により外温の影響あるも微小なり。

二、三十二三度以上四十度以下が適當とす氷庫内温度を任意に調節することは困難なり。

三、取出の時期如何は結刻害の關係なかるべし。

四、取出後に於ける保護方法は要すべき要點は主として温度及湿度とす温度は少なくも七十度以上八十度内外温度は七十度以上八十度内外を保つべし。

五、氷の價は其品質及時期に依り高低一ならず、雑用天然氷は一貫匁大低一錢以上五錢以内位なるべし。

六、氷の詰むるには成るべく同間隔を存せざる地風則正しく蠶種し、其間隔及外圍には乾燥せる藁類等を填充すべし。

七、目下氷貯藏庫の多くが有する場方式は縦島新潟の二縣にて比較的多くの試驗なる有するものは左の二ヶ所なちなり。

縦島縣相馬郡石上村　相馬養蠶種冷藏庫

新潟縣中蒲原郡五泉町　養蠶種國營組合冷藏庫

◎蠶種運搬其他の件に就き質問

山形縣 通常會員 東海林勝藏

一、越年蠶種の風穴に遮搬するに入出穴則共里程三里以内に箱入として荷車を用ひて、蠶期の生殘上線等御宅被用の蠶室に於て風呂を沸すに、木綿の代用に石炭を使用せば蠶兒に悪影響有るや否や。

二、養蠶期中使宅被用の蠶室に於て風呂を沸すに、木綿の代用に石炭を使用せば蠶兒に悪影響及ぼすや否や風呂に居室の一隅にあり又居宅被用に非ずして離れて其用蠶室と為して或種式し果桑飼料桑不足の代用に天然の野生桑を使用

三、赤蠶非蠶育者として或種式し得る蠶兒の死體部位の汚物有無を調査し蠶兒の蠶ひ

四、蠶室蠶育者として或種式し得る蠶兒の死體部位の汚物有無を調査し蠶兒の蠶ひ

五、桑園の附近に於て桑樹の有無如何なる結果を見るべきや。

答

学藝委員 農學士 林 鼎作

一、蠶種は少量なれば差支なしゃ、多量なれば蠶兒に有害なり、殊に石灰燒過附近にあるいてはは確実のみなるべし、石灰の粉末飛散して桑葉に附着すべければ之れ

二、蠶兒の蠶座に一毎の割にて撒布せるるのは別に害を認めず、之病蠶も多く生じたり。

三、酒家に於て一度使用の蠶種は養蠶には使用せぬ方可なり。養蠶用の蠶種は一度清水にて洗滌乾燥して、極めて清潔なる容器に入れなれば、種々夾雜物を有するが如きものは避けざるべからず。

晩霜襲來

学藝委員 農學士 林 鼎作

一、蠶兒は桑葉に出るときは桑葉の場に出ずる場合は少なかれ、蠶種になると非常に出るから不測の結果を信じ、晩霜の場合は蠶兒の出る

45年6月

會務錄事

●評議員會

四月二十三日午後三時より本會事務所に於て評議員會を開會出席者左の如し。

會頭男爵　松平正直
理事　木多岩次郎　芳賀權四郎　八田捷也
評議員　今西直次郎　同　吉池慶正
同　林　時作　林　才作　加賀山晨四郎
土屋　泰　中川　望　北村七郎
法學博士　桑田熊蔵　下田伊左衛門（いろは順）

議案

一、理事、監事、會頭副會頭選擧の件
二、支會代表者會決議の事
三、諸易なる蠶兒飼育法並に桑葉經濟に關する研究に關する建議の件
四、横濱生絲貿易業者及全國製絲業大會開催の件
五、功績表彰規則改正の件

會頭松平男爵議長席に就き開議の始めに於て會頭より去三月二十七日の本會第七回總會に於て評議員の選擧に會頭に一任されたるに依り、會頭は前議長席の諸氏を指擧したる旨を報告す。

次で第一案より順擧を開き、會頭に理事、監事、會頭、副會頭全部滿場に於き當評議員全員を推擧を行はれたし と宣告す、八田捷也氏は總て前の通重任なれば辞したしと發議し、下田伊左衛門氏は之を賛成し滿場異議なく之を可決す。即ち左の諸氏重任せらるゝことゝなれり。

會頭　男爵　松平正直
副會頭　男爵　吉川重吉
理事　今西直次郎
理事　原　宮太郎
理事　木多岩次郎
理事　小野光景
理事　吉池慶正
理事　桑田熊蔵
理事　法學博士　益田孝
理事　茂木保平
理事　高橋新吉
監事　芳賀權四郎

第二案に移り吉池理事より支會代表者會決議の事項及之を處理したる件に就き報告する所あり議議第三第四も此決議に依りて提出したるものなりとの說明に異議なく過過したり。

第三案には吉池理事の說明あり て八田、北村、土屋、中川等の諸氏より種々の議論ありたるが結局本案には決議を赤期することゝなれり。

第四條には吉池理事の說明に次て林、芳賀、加賀山、中田等の諸氏より質問及意見ありしが、八田、北村、中川諸氏の發議ありて可決せり。

第五案には吉池理事の說明に次て下田、八田、中川、加賀山等諸氏の意見ありし、二三條改正の上原案の通可決せり。

●横濱生絲貿易商懇話會

本邦生絲一億四千餘萬圓の輸出貿易に從事せる横濱生絲貿易商諸氏は貿易港の關門に在りて斯業の鎖鑰を握れる重要の位置に在る人々なるに拘らず本邦蠶絲業の代表機關たる我大日本蠶絲會の幹部と一堂に會して懇談する機會を得ざりしは甚だ遺憾とする所なりしが茲に本會に開きたる全國安會代表者會に於て蠶絲業團を設置し本邦及海外蠶絲業品一切の販列と同時に內外に於て蠶絲業の進信紹介交渉調査等を爲し且內外當業者の交際機關と爲し以て蠶絲業の發展に資せんとす依て其意見を問ふ

者會に於て蠶絲業團陳列館設置の件に關し貿易業者の會合を圖り協議を遂げ完成に努ひべきことの答申あたるを以て旁々一席の懇話會を開くの必要を認め松平會頭は去四月二十九日右貿易商諸氏を麻布會館に招かゝることゝなれり、此日本會よりの出席者は松平會頭、吉川副會頭、木多、今西、吉池の各理事小池主事補等にして貿易商よりは左の諸氏來會せられたり。

小野光景　若尾璋造　原宮太郎　論澤義一
渡邊文七　山田鶴吉　北村七郎　小島與
今井秀松　金子常太郎　伊藤金兵衛　矢島善七
荻本常次郎　阿部太郎　大谷幸之助　角和善助
岡田美平　森山金輔　百井久七　古澤治幸太郎
井上宜吉　野々垣鶴納　絲井菊三郎　安齋羊遺
荒井新十郎　丸岡寛二郎　組合書記　吉川　春

午後五時三十分松平會頭は一場の挨拶を爲し次て吉川副會頭は現時に於ける輸出貿易の大勢を陳べ、蠶絲業者の奮勵を要する時なるを以て之が要路に當らゝ貿易業者諸君と本會とは最も親密ならざるべからずして協同一致其衝に當らんことを望ひとの趣旨にて一場の演說を爲し、次て吉池理事は昨年歐羅巴に出張の際に於ける感想より本邦に完全なる蠶絲業團を設立し最も必要なりとし來會諸君の御熱考を請ふと云ふを以て局を結びたり、六時過食堂を開き終りに松平會頭は列席者の健康を祝して乾杯を爲し（小野光景氏は起て一場の挨拶を爲し、且御懇話の次第は一々領承せり曾と我々講究の上御趣旨に副ふべく退て御答申すべしとの旨を陳べ正副會頭の健康を祝したり、食後更に談話室に入り て一同懇談を爲し八時過ぎ散會したり。

●全國製絲業大會

明治四十五年五月三日四日の兩日大日本蠶絲會事務所に於て全國製絲家大會を開催せり、其出席者、各府縣製絲家百二十餘名にして芳賀蠶絲調査長、加賀山、原蠶種製造所長、針塚長太郎氏の出席あり、其他東京、神奈川、新潟、埼玉、千葉、茨城、栃木、三重、靜岡、山梨、滋賀、岐阜、福島、秋田（高知、大分等の各府縣派遣の技術官）臨席し三日午前十時開會會頭松平男爵議長席に就き、副會頭吉川男爵及木多、今西、吉池、各理事山崎理事等松平會頭の祭辭を陳べ直ちに議事に移り吉池理事等から說明の任に當り本會より提出したる左の問題に就き協議せり。

問題

一、横濱に蠶絲業陳列館設置の件

本邦に世界に於ける有數の蠶絲產出國にして其名海外に傳播せらる故に外國人士の本邦に渡來する者為れも蠶絲業の狀勢如何ん と訣する之を一場に知悉せしむる機關なきに實に蠶絲國たる本邦の缺陷と する所なり又本邦の當業者に在りて世界蠶絲業に關する日進月歩の智識を吸收する機關なく徒に社會の悲運に相伴ふ感はざるの要あり故に本邦蠶絲唯一の輸出港たる横濱市に蠶絲業陳列館を設置し本邦及海外蠶絲業品一切の陳列と同時に內外に於て蠶絲業の進信紹介交渉調査等を爲し且內外當業者の交際機關と爲し以て蠶絲業の發展に資せんとす依て其意見を問ふ

參照

蠶絲業陳列館の事業

陳列部

一、日本の蠶絲業の沿革及其の興、衰水、榎型等にて陳列すること

二、世界の蠶絲業に關する標本、統計、書籍、雜誌、新聞等を陳列すること
三、發明、新案等の内外の機械、器具類は試驗をなし實物と共に其成績表及價格を添付陳列すること
四、内外の蠶絲業の現況生絲繭の相場は時々刻々調製し掲載すること

通信部

五、既刊の會報及雜誌以外に日報を編纂し内外蠶絲業の狀勢を網羅し通信すること
六、海外の蠶絲業の狀況を迅速に取寄せ本邦の當業者に周知せしむること

紹介部

七、内外に於ける當業者の中樞となり蠶絲業の交涉調查等に應ずること

倶樂部

八、常に内地當業者の來集を謀り交際を温むると同時に世界蠶絲業の狀勢を開知せしめ智識を啓發すること
九、海外に於ける名士の渡來に際しては案内等の便利を圖ること

二、生繭取引法改良ノ件

蠶絲業の發達に伴ひ生繭取引法に種々の弊害續生し之が爲養蠶家及製絲家の利益を減殺せらるゝこと蓋し尠少にあらざるなり故に今にして之を除去するにあらずんば蠶種の改良絲質統一の如きも遂に効果を全ふすべからざるの虞あり依て之が弊害を矯正するの方法を問ふ

三、生絲練減に關する件

佛國里昂生絲檢査所長及同國當業者より本會に對し數々本邦生絲練減率增加し若し今日に於て之を改良するに努めずんば本邦生絲の前途甚不利益なるものありとの警告を齎せり故に之に對し相當の處置を採らんとす依て其方法を問ふ

四、生絲二本揚防止の件

本邦輸出生絲に二本揚の多きことは昔日より海外當業者の唱導する處なるが近時益二本揚を增加せりとの苦情本會に到着するに至る此等は多少の工程を加へ注意を拂はば之を除去し得べしと信ず依ては適當なる方法及之を普及せしむるには如何にせば可なるや

五、生絲資金に關する件

本邦に於て製絲を經營するに當り當業者をして最も苦痛を感ぜしむるは之が資金を得るに困難にして且其金利高きにあり是れ國際的產業として海外諸國と競爭を爲す蠶絲業者に取りては實に多大の不利なりとす依て之を適當に供給するの方法如何

右五問題に就き吉池理事の說明に次ぎ、各員意見の陳述ありしが結局委員に付託し調查せしむることに決し、第一問題と第二、五の二問題と第三、四の二問題との三に分ち左の通各十五名の委員を選擧したり。

第一問題委員

京都 波多野鶴吉　新潟 山田巳太郎　埼玉 石川仁平
群馬 山口太三郎　靜岡 依田佐二平　山梨 大木善右衛門
岐阜 伊藤春次郎　長野 下村龜三郎　長野 今井五介
宮城 山田誠一　福島 安田常作　岡山 畑信好
山口 太田進熊　大分 笹山駒次郎　熊本 長野彌吉

第二、第五問題委員

東京 武井萬三郎　神奈川 中里鶴吉　新潟 玉木虎次郎
埼玉 若林金藏　茨城 小島倉吉　三重 山本竹藏
愛知 白井勝治　愛知 中西玉次郎　山梨 落合周平
滋賀 下郷傳平　長野 尾澤琢郎　長野 矢崎源藏
宮城 鈴木甚吉　山形 佐藤政二郎　島根 木佐德三郎

第三、第四問題委員

東京 小島大之助　神奈川 北井要次郎　埼玉 加藤金三郎
群馬 萩原鐐太郎　群馬 田村作太郎　千葉 鈴木市太郎
茨城 川崎毅朗　三重 四川利造　愛知 高木市兵衛
靜岡 藤井利三郎　山梨 新海祐六　長野 小口金三郎
長野 小山久左衛門　同 田中新藏　山口 矢田治作

三日午後より四日午前に至る間に於て各委員會を開き、四日午後一時より更に總會を開き委員會の報告に次ぎ、左の通決議せり。

四日午前中大日本蠶絲會評議員男爵澁澤榮一氏及三井物產會社紐育支店長瀨古孝之助氏の講演ありたり。

二、生繭取引法改良の件

生繭取引上の弊害を矯正せんとするには左の方法を取るを捷徑なりと認む。

一、生繭を夜間取引するは其弊害甚だしく之を禁止するも賣買兩者共不利を蒙ることなきを以て午後七時より翌日午前五時に至る間之が賣買を禁止せらるゝことを大日本蠶絲會頭より主務大臣に建議すること
二、大日本蠶絲會は生繭取引上地方の狀況により夫れ々々適宜の方法を以て養蠶家と製絲家と直接取引する方法を講ずることを獎勵すること

三、生絲練減に關する件

一、練減率は技術上一定し得べからざるものとす、仍て單品の商習慣を改正せしむる爲に大日本蠶絲會に於て交涉すること
二、練減問題は重要の事柄なるを以て大日本蠶絲會に於て調查攻究を爲すこと

四、生絲二本揚防止の件

一、二揚揚を防止する爲繰絲再繰上の賞罰を一層嚴にすること
二、二本揚防止器の發明を促す爲に大日本蠶絲會に於て懸賞獎勵すること
三、最良と認むる防止器は大日本蠶絲會に於て普及の道を講ずること

五、生絲資金に關する件

蠶絲は本邦主要の貿易品にして之が一張一弛は國家經濟に影響する處尠からずと雖も外幾多の勁敵を有す故に之が發展を計らんとせば内に生產費の節約を圖ると共に品質を改善し外幾多の勁敵に備へざるべからず然るに歐洲諸國に在りては極めて低利の資金を利用し競爭上の武器となせるに我國に在ては製絲資金に對する金利高く最も不利の地位に立てり從來は物價勞銀等比較的廉なるにより忍びたりと雖も近年日に月に物價勞銀共に昂騰し加ふるに生絲市場の不振等内外我に不利益の事情迫りたるを以て特に低利資金供給の途を講ずるは目下の急務なりと雖も其手段方法等に至りては未だ具體的成案なきを以て之を宿題として各自充分攻究をなし置き次回を待つて解決せんとす

右各問題を議了したる後大分縣笹山駒次郎氏は、全國製絲家大會を毎年一回開催すべしとの建議をなし、全會一致を以て可決したり。

次て第一問題の決議を實行する爲め、左の交涉委員を選擧し了りて笹山氏の發聲にて大日本蠶絲會の萬歲を三唱し、午後四時閉會す、此夕本會は一同を築地精養軒に招待して晩餐會を開き清談快話互に胸襟を披攊して懇親を結び記念の撮影を爲し午後八時散會したり(口繪參照)

交涉委員

京都 波多野鶴吉　神奈川 川井孝策　新潟 山田巳太郎
埼玉 石川仁平　埼玉 中島千代吉　群馬 宮口二郎
群馬 山口太三郎　千葉 鈴木市太郎　愛知 白井勝治
靜岡 依田佐二平　山梨 大木善右衛門　山梨 新海祐六
山梨 功力唯吉　山梨 近藤正一　山梨 藤巻富十郎
滋賀 下郷傳平　岐阜 伊藤春次郎　長野 下村龜三郎
長野 今井伍介　長野 尾澤琢郎　長野 小口金三郎
長野 小山久左衛門　長野 田中新藏　長野 小山鶴太
宮城 山田誠一　福島 安田常作　岡山 畑信好
山口 太田進熊　大分 笹山駒次郎　熊本 長野彌吉

常置委員

長野 今井伍介　京都 波多野鶴吉　埼玉 石川仁平
群馬 宮口二郎　群馬 山口太三郎　山梨 新海祐六
長野 下村龜三郎　長野 尾澤琢郎　長野 小口金三郎
長野 田中新藏

右の交涉委員は翌五日打揃ふて横濱に赴き生絲檢査所に於て横濱蠶絲貿易商同業組合長小野光景氏其他組合員諸氏に會見し、大會決議の趣旨を陳べ看貫料廢止の實行に就き熟

議する所あり、組長其他之を諒とし、至急更に組合總會を開き熟議すべしとのことにて一應袂を分ちたり、其後小野組長は直に組合員を召集し、總會を開き審議の末調査委員を選擧し調査を爲さしめたるが交渉委員の申出を以て當然の請求と認め外國商館に向て交渉を開始したり、外國商館は此交渉を受けたるより在留外商の總會を開き之れ又調査委員を選んで調査を爲さしめつゝありと云へば不日回答する所あるべし

（五月二十日迄の經過）

今回本會に於て開設したる全國製絲家大會は製絲家の繁忙時期に迫りたる際に拘らず全國主なる製絲家は大概參集せられ豫期以上の盛會を以て最も有益なる事項を議了し圓滿に閉會したるは本會の榮とする所なり、殊に其最も重要問題なる蠶絲業陳列館設置の件は滿場一致を以て可決し、此財源として端なくも開港以來の弊習にして多年の懸案となれる看貫問題を惹起し此機會を以て斷然之を解決せんことを期するに至り、製絲家諸君が熱心なる運動を開始せられたるは斯業の爲め國家の爲め慶賀に堪へざる所なり、希くば速に圓滿なる解決を見んことを祈る。

◉岐阜支會總會並品評會褒賞授與式

岐阜支會は第二回品評會を同縣下蠶業の樞要地たる惠那郡中津町に於て三月十六日より同二十日まで五日間開設し、同十八日を以て第二回總會並に褒賞授與式を擧行したり、當日夜來の雨歇ます、殊に寒氣強くして附近の山頂は白雪皚々たるものありしも來會者頗る多く、式場に充てたる小學校も立錐の餘地なき盛況を呈して會衆一千有餘と註せらる、軈て午前十時三十分第一號鐘にて會員一同著席、脇田幹事長は先づ起て岐阜支會第二回總會を開く旨を告げ、業務の報告を爲し次に薄支會長は左の告辭を朗讀せられたり。

告辭

玆に大日本蠶絲會岐阜支會第二回總會を開催するに當り會頭閣下の臨場を辱ふし多數會員諸子と相見ゆることを得たるは大に欣幸とする所なり

國家の富源は產業の開發に在り就中蠶絲業は其大宗たるもの今や縣下に於ては營業者の奮勵に因り年々斯業發展の趨勢を呈し農產物中重要の地位を占むるに至れりと雖猶ほ改善發達の餘地敢て鮮しとせざるなり

當支會の會員は縣下蠶絲業者の中堅として斯業の發達に最も重きを爲せるものなり而して本日の現在會員は四千三百五十四人を算し之を前回總會當時に比すれば僅に二倍を踰へ著しき增加を示めせるも十萬の蠶絲家を有する縣下に於ては僅に會員少數なるのみならず會務亦不振の憾なき能はず諸子一層會員の增加に努むると同時に蠶絲業の經營に於て當業者に模範を示めし斯業の發展に貢獻せられんことを望む

明治四十五年三月十八日

大日本蠶絲會岐阜支會長從四位勳三等　薄　定　吉

總會は之にて終了したるを以て脇田幹事長は直に褒賞授與式に移る旨を陳べ、審査長東京蠶業講習所技師松下憲三朗氏の審査成績報告及支會長の式辭有て後褒賞授與式に移り、會頭は優等賞に擬せられたる左記三名に對し總裁殿下より御授與の褒賞を吉池理事は賞狀を、一等賞以下の褒賞は支會長より順次授與せられ、又同時に支會長より縣下蠶絲業の功勞者に對し一々功勞賞の授與あり審査報告告辭式辭等左の如し。

審査報告

大日本蠶絲會岐阜支會第二回蠶絲類品評會開催に當り不肖審査長の重任を負ひ審査員諸氏の熱心なる補翼に依り審査全く終了を告け玆に其成績を申告し得るは洵に光榮とする處なり

抑も本會は過ぐる四十一年第一回を開催し爾後年を閲すること爰に四星霜にして第二回を開催し其出品區域二府十六縣の廣きに亘り出品點數實に三千五百四十點蠶種四百二十八點生絲百十六點桑苗六十點蠶具八十六點合計貳千百三十點にして之を前回に比すれば約五割の增加を示めせるは會員諸氏の熱心斯業に勉めたるの結果ならんも又以て本縣蠶業の進步實蹟を認むるに足るべし

出品の審査は審査員十八名と共に嚴密に審査を遂げ其成績を比較考量し優秀なるもの三點を選びて優賞に擬し尙一等以下繭千三百九十三點生絲四十三點桑苗十三點蠶具十三點總計千五百五十八點を選拔褒賞して旣に決裁を經たり今各出品に就き概評を試んに

繭は前回の出品に比し優品頗る多く殊に秋蠶に就て著しきものあり春蠶は其形狀略ぼ統一せられたる觀あるは喜ぶべき現象なりと雖も秋蠶は往々不正形のもの及び大に過ぐるもの等なり又色澤に徴して不良の傾あるは殺蛹乾繭を誤りたるものありと雖も概ね上簇後の注意周到ならざるに起因すべく又種類の撰擇と桑樹の肥培とは繭量の多寡に重大なる關係を有すること審査の成績に徴して明かなるものあり須らく注意するを要す

蠶種は優良のものに乏しからずと雖も概して產着不良にして卵數少なく前回に比し著しく改良せられたるを認めず是產額の激增に伴ふ自然の結果ならんか然れども病毒の少なきと色澤概して良好なるは喜ぶべきことなり願ふに本縣の蠶種業は近時著しく發達し尙將來大に望を嘱すべきものあり益進んで懇到なる注意を拂はれんことを望む

生絲は前回以來年次改良を加へられ橫濱市場の聲價揚りたるものあるは審査の實績に徴して瞭かなり然れども產繭の品質上より謂ふれば未た的製絲の改良を要するの餘地多きを認む就中繰絲の趣味乏しく類節多きの憾あり之れ蓋し從來半乾繭製絲の慣習に伴ふ煮繭程度不充分の結果ならんか又束裝も不良なるもの多し宜しく改良を要す

玉絲は出品點數少し本縣の如く屑繭の產地にありては有望の事業なり將來の發達を望む

桑苗は優良なるもの多しと雖も夏秋蠶期の摘葉過度に陷り加ふるに苗床の撰擇を誤り苗伏せの方法等を失したる爲か枝條の伸長顯著なるも根の發育不良のものあるは遺憾とする所なり

蠶具は實用に適するもののなきにあらざるも特殊効驗あるものに乏しく出品甚だ平凡にして稱揚するに足るもの少し

以上審査の成績を具し謹みて褒賞授與あらんことを稟請す

明治四十五年三月十八日

審査長蠶業講習所技師從七位　松下憲三郎

式辭

大日本蠶絲會岐阜支會第二回蠶絲類品評會出品審査終了し玆に貴紳各位の臨席を忝ふし褒賞授與の式を擧ぐるは當支會の光榮とする所なり

當支會は明治四十一年十月第一回品評會を開催し爾來僅に四年の歲月を經過したるに過ぎずと雖も此間蠶絲業法發布せられ斯業に關する制度確立すると共に之か改善發達の企劃定より蠶絲界の革新頗ふる顯著なるものあり蓋し富源を培養し國力を充實せんと欲せは斯業の發展に期待する所多大ならざるへからず本會の出品は之を前回に比すれば千四百餘點を增加したるのみならず且つ其品位一般向上し斯業の進步當業者の熱誠を示すの標徵として大に滿足する所なり然りと雖蠶絲業の前途は尙遼遠にして桑園の改良增殖に原種の統一に養蠶組合の經營に製絲の改良に其他施設を要する事項頗る多し當業者宜しく審査の成蹟に鑑み益之か改良發達を企圖せられんことを望む

明治四十五年三月十八日

大日本蠶絲會岐阜支會長

從四位勳三等　薄　定　吉

告辭

大日本蠶絲會岐阜支會は本日を卜して第二回總會並第二回品評會褒賞授與式を擧行せらる慶賀の至りに堪へざるなり夫れ蠶絲は本邦重要の物產にして海外輸出品中の首腦なりと雖宇內に幾多の蠶業國ありて年々の產額益多きを加へ市場の競爭日に激甚ならんとするものあり此秋に際して本邦蠶絲の聲價を揚け之をして永く競爭場裡の覇者たらしめんと欲せは品質の優良と價格の低廉を以て鍵關せざるべからず政府か蠶病豫防法に代ふるに蠶絲業法を以てし原蠶種製造所を置て優良種の統一を圖らんとする其因由全く玆に存し各府縣が鋭意斯業を獎勵し當支會か品評會を開設して當業者相互の研鑽資料に供せんとする其目的全

く終に容せず

惟ふに本邦は中古大綱國に列せられたりと雖其後漸く衰へ復た見るべきの發達なかりしが故に重り無當業の論説其宜を得たるに依て當業者の熱心なりしが故に漸次奮起の機運を誘出したるは欣ぶべきの現象なりとす然りと雖も當業組織の狀態は尚改善發達の餘地十二分に存し未だ以て當業者の満足を充たすものの有り産業の需要供給の均衡を失ひて一層の奮勵努力を要し其上産物の質の保存盛衰品の産出と價格の低廉とを期して本組織業の改良は現況を革四に し會員の奮起して益々一層の奮起して告起す

明治四十五年二月十八日

大日本蠶絲業々頭正三位勲一等男爵　松平正直

優等賞拝受者

岐阜縣羽島郡駒塚村　田内安次郎
生絲　同　士岐郡土岐村　伊藤喜次郎
蠶種　同　東那郡　姫川蠶種同業組合

次に來賓の祝辭、出品人總代の答辭等ありて式を終りたるは正午を過ぐる二十分なりき。

後記那部委員部の主催にて來賓及會員一同を東榮亭と式場に於て中食を饗し、餘興として東濃名物の一たる木曽節手踊を演じ、來賓の幕間に供せられたり、食後出品陳列場に至る蠶業服飾所に至り、出品を巡覧したるが會場には蠶業服飾の建物全部を提供せられ、陳列場は鏡檢室を以て之に充て、岐阜名產の檜目傘、經木其他リボン、鏡、岐阜提灯等にて装飾をなし、美觀云ふ可からず出品點數の多き支会品評會中稀に觀るの盛況なりし。

午後五時より支會長の招待會あり、宴酣にして散會の際主客數を盡して散會したるは十時半頃なりき。

て種々事務官等打合の爲め上京なし、種々準備せらるゝ所あるを以て高知縣民は千秋の遺憾となし、而かも惡天の會員は中に及ばず七十萬縣民の感激推く能はざる所なるべし、今發會式及褒賞授與式は、午前六時の會員は中に及ばず七十萬縣民の感激推く能はざる所なるべし、今發會式及褒賞授與式は、午前六時より縣公會堂の廣庭に式場を設け、式場の階段には松平十時より縣公會堂の廣庭に式場を設け、式場の階段には松平會頭を首め吉川副會頭、吉田主事、明石農務技師、今西生絲檢査所長、辻審査長、杉山支會幹事長、和田縣會議長、其下方左側には縣和田縣會議長、望月支會幹事長等席し、其下方左側には縣内外來賓及審査員、右側には新聞記者、佩有功章者、委員部長、審議員、支會職員等の席を設け以下前方には品評會授賞者、有功章新拝授者、褒賞功績者及一般男女會員等無慮千五百名着席せり、之に引続き奏列員一同最敬禮理に君ケ代の奏樂あり、終つて杉山支會長開會を宣し直に支會役員及會員名簿、出品評、出品數表等を會頭に呈覽す、此に於て松平會頭は恭しく起つて左の總長宮殿下の令旨を代讀せらる、

令旨

大日本蠶絲會高知支會本日を下して發會式並に第一回品評會褒賞授與式を擧行するを欣ぶ

今や本邦の蠶絲業は其進運見るべきものありと雖も尚其實質を改め其步武を進む可きの餘地頗る多し會員諸子當支會の發達に盡力すると共に審査の實績に鑑みて一層の勉奮を爲し愈精斯業の爲に國家の富源に寄与して

会務彙事

明治四十五年四月一日

大日本蠶絲會總裁
級大勲位功二級　貞愛親王

次で杉山支會長より左の答辭を奉れり。

答辭

謹て大日本蠶絲會高知支會發會式に臨行するに當り

恭しく聖意を拝し

殿下の御厚意を

感謝し

聖意の

奉戴

益々

本支會の

発展

何人

の為

に為

すべ

きか

を思

ひ

一

同

奮勵

努力

せん

こと

を期

す

明治四十五年四月一日

大日本蠶絲會高知支會長正五位勲四等　杉山四五郎

謹て

大日本蠶絲會高知支會發會式を擧行するに當り

恭しく

聖意を拝し

感激

奮勵

努力

せん

こと

を期

す

明治四十五年四月一日

大日本蠶絲會高知支會長正五位勲四等　杉山四五郎

告辭

夫れ國家の富源を涵養せんと欲せば産業發達の力に俟たざるべからず而して産業の種類多しと雖も絲糸輸出品中の首座を占むるものは蠶絲なるを以て殖産の改善發達を期するは國家救富の最大要決なりとす乃ち政府は新に蠶絲業法を公布して將に大に其施設奬勵に努めんとし本會官業者の勉勵力を協力にして之に依て以て大に殖産の發展に力を致さんとす雀し廟堂相俟て其目的を達するの時に見る所あり從來蠶絲業發展の大阪なる誇と迄て本會支會を設置して著々會員の研鑽に資さんと欲する實に奥象なりと謂ふべし而して本日其發會式並に褒賞授與の式典を擧行するに當り

越後殖下の治績を偲ひ懷古の情にさりしに手秋の感涙なる令旨を賜り且本會に寄に眞摯なる諸氏に有功章を授與せらるゝ感激の至に堪へざるなり

尚に是れ當支會の名譽にして又本邦當業者の光榮なりと信ず將氏共一層の奮

◎高知支會發會式並品評會褒賞授與式

【會頭一行の出發】　松平會頭吉川副會頭幷に吉池主事及小池主事補金谷書記の一行は高知支會發會式及第一回品評會褒賞授與式に臨席し給へ為賞、四月三十日午前八時の新橋發汽車にて出發せり、神戸に至て今西生絲檢査所技師、明石農商務技師と合し、共に午後八時三十分發の高飯丸に搭乘して高知に向ふ、穏定の如く三十一日正午を過ぐる少時にして浦戸灣に入れば煙花一發空天に揚りて一行の入港を報じ、杉山高知支會長以下數十名纜橋に迎へられ、一同城西館に投ぜり。

【懐旧館烈士遺墨の展覧】　會頭一行は著後休憩の後杉山知事の案内にて高城天守閣の大書院なる懐旧館に至る、館内には故新井信人内務省公の遺墨を始め武市半太、坂本龍馬、中岡慎太郎、吉村寅太郎等烈士の遺墨を蒐集し、會頭一行の展覧に供せられたり、都て是れ王政維新等を忘れ身を捨て人間の外を放擲したる名士の遺墨にして眞摯虔禮の文字紙面に躍如たるもの、或は清修修練感外に超絶たる山水花鳥等此人にして此絶技ありしかと疑はしむるが如きあり、何れも其當時と其人を偲ばしむるものなるさまはなし、了りて一同天守閣に昇り高知市街の下瞰展望して其風色賞し夕食に及びて旅館に歸れり

【貴業家の招宴】　此日午後六時より高知郡笠原郡長和田郡長民氏は會頭一行並に東京より來高したる前記諸氏及品評會當業者として熟般來熱心聞き為すべきの為に招き祇園なる得月樓に招き祇園なる得月樓に宴を為し歓を盡せり、主客数名談論に時を移し午後十時に至りて散會せり

【發會式及褒賞授與式】　明くれば四月一日高知支會發會式並に第一回品評會褒賞授與式の當日なり、此日天氣晴朗一點の雲片なく、山水明媚なる高知市の中央に新に王を竣へたる壯美麗の縣公會議事堂に於て式は擧行せられたり。

是れより先き高知支會は此發會式に際し特に

聖旨を仰ぎ奉らんとして杉山支會長は東上東京の手續を爲し次

勵努力を爲し以て台旨に應ふるなくして可ならんや

抑も近年蠶價の不振相襲ぎ當業者中動もすれば斯業經營の難を訴ふるものなきにあらずと雖も其方法宜しきを得ば現在の蠶價猶優に利潤を收むるを得べし況や世界的市場に於て覇を爭はんとせば優良品を廉價に販賣するを唯一の武器と爲すに於てをや本縣當業者の熟練なる斯業經營に於て敢て誤りなきを信ずと雖も此際特に荒怠相戒め桑樹の肥培を熟にし育蠶操絲の方法に一段の改良を加へ品質の精良と價格の低廉とを期して本縣蠶絲の名聲を博せしめ國本培養の實を擧げられんことを聊か蕪辭を陳して告辭とす

明治四十五年四月一日

大日本蠶絲會々頭 正三位勲一等男爵 松平正直

右終るや支會長は會頭より有功章を代授さるゝ旨を告知し吉池本會理事功記を朗讀して松平會頭より有功章を代授し吉川副會頭より賞記を授與せらる其氏名左の如し。

一等有功章	支會長	杉山四五郎
二等有功章	支會副長	和田世民
三等有功章	同上	和田和一
同	同上	岡林起盛
同	特別會員	望月平太郎
同	同	中島和三
同	同	徳永秀實
同	同	江淵俊政
四等有功章	特別會員	小山田武夫
同	同	茨木定穀
同	同	木久眞吉
同	同	森下直樹
同	同	西山精一
同	同	水野岩由
同	同	天矢景光
同	香美郡委員部長	鄉田喜全
四等有功章	高岡郡委員部長	佐野傳
同	幡多郡委員部長	佐竹行治
同		井上正茂
五等有功章	特別會員	正岡周澄
同	特別會員	市原景貴
同	同	山崎喜代太郎
同	長岡郡委員部長	東山桑馬
同	安藝郡委員部長	舘井治明
同	特別會員	近森武城
同	特別會員	岡本漸
同	同	森田寅四郎
同	同	甲藤茂實
同	同	杉本茂晴
同	同	田村熊五郎
同	同	宍戸哲吉
同	同	明神藤太郎
同	同	岡本祐高
同	同	岩井正水
同	同	島村喜七
同	同	仲靜穂
同	同	岡上久萬彌
同	同	三木寅太郎
同	同	横田直榮
同	同	井上偉太郎
同	同	山崎和吉
同	同	長崎太郎
同	同	山中一巳
同	同	朝日製絲株式會社
同	同	幡多製絲協
同	同	吉眞治吉
同	同	上島永治

次に支會長は蠶絲功勞者の表彰をなす旨を告げ支會幹事長功記を朗讀し支會長より賞狀を、支會副長より賞品(銀盃)を左の諸氏に授與し。

高知縣蠶絲同業組合	土佐蠶絲同志會	西内豊穎
横山元次	越知製絲株式會社	故小野百四郎

尚木盃一組宛を松尾富功鎌外十一氏に木盃一個宛を今村俊郎外十氏に授與し從業者にして功勞ある者公文安雄外十六氏に授賞せられたり。

右終つて更に第一回蠶絲品評會褒賞授與式に移り辻審查委員長の審査報告あり優等賞は會頭代授し賞狀は吉川副會頭より授與し褒賞は支會長より賞品は支會副長より授與せらる其の優等賞授賞者姓名左の如し。

▲優等賞

蕃又告 並村喜七	生絲	越知製絲株式會社

此他一等より三等に至る授賞卒りて和田縣會議長の祝辭演說に次て祝電の代讀、受賞者總代並村喜七氏の答辭朗讀等あり、支會長より閉會を宣するや參列員一同奏樂聲裡に退場し何れも別席に於て折詰、酒瓶を受取り散會したり、時に零時二十分。

【記念講演會】 蠶絲品評會及發會式の爲め來縣せられたる諸氏に懇請して開會せられたる記念講演會は如上式典擧行の當日午後三時より第一中學校講堂に於て開會せり、聽衆は品評會の爲來集せる縣下東西當業者等三百餘名にして小山田技師開會の辭を述べ、第一席辻蠶業講習所技師は本縣下の養蠶業に就て、第二席明石農商務技師は桑園の整理に就て、第三席吉池理事は我國養蠶業の前途に就て最後に今西横濱生絲檢査所長の講話ありて孰れも有益なる講話を爲し當業者に多大の利益を與へ午後六時閉會せり。

【祝宴會】 發會式に伴へる祝宴會は一日午後七時新築の縣公會堂樓上に開催されたり、主人側は杉山支會長以下出席し、松平會頭、一行其他明石農商務技師、今西生絲檢査所長、辻審查長等亦臨席せり、招待を受けて出席せるは縣下朝野の名士二百餘名にして開宴劈頭杉山支會長は起つて開會の挨拶をなし、次て本會會頭松平男爵には起つて本支會の盛大なる祝宴に御招待を辱ふしたるに端み謹て天皇陛下の萬歲を三唱し奉るべしとて同會頭の發聲にて 陛下の萬歲を三唱し一同之に和して乾杯せり、次て吉川副會頭は一場の謝辭を述べ、直に開宴、酒間には纎腕盃盤に交錯して斡旋の勞を採るあり、餘興には蠶絲大薩摩、吾妻八景、羽衣ダンス等あり、主客共に十二分の歡を盡して滿意散會せり。

【品評會場】 今更に其品評會場の光景を報ぜんに會場としては前記の如く新築せられたる縣公會堂階下大廣間の全部を以て之れに充當せられたるが、門前には大緑門を構へ大國旗を交叉し、而して構内には隙なく萬國旗を引き廻して光彩燦然たり、門内の南側には特に優待席を設け四方には式壇を設備し式典終了後は之を餘興場に充て毎日時を定めて藝妓の手踊等ありて來衆の娯樂に供せり、進んで館内に入れば彩旗紅燈昏れく點綴せられて人目に映寫するの間に無慮二千餘點の出品物は類別蒐集せられて極めて體裁よく陳列せらる、即ち其入口の正面には小亭約六角堂を構へ屋上繭を以て滿載せる上に大繭と大蠶蛾とを造り附け、其堂内には工合よく蠶種を配列し倚入口の左右兩側に屏風を形ち造りて是れに蠶種を配置し、場の中央に特に意匠を凝らしたる戸棚二個を置き、一は京都蠶業講習所より一は横濱生絲檢查所より、特に貸與せられたる參考品を陳列して大に參觀者の注目を惹き其次に南北に亘りて約六間の長與形構造ありて其の兩側には擧つて蠶繭を陳列し、場の北側一帶には蠶具及び參考品を併べたり、而して場の西北隅には谷羽二重工場の特別陳列たる羽二重及び繭を以て構成せる榮老の翁あり又た南西隅には是亦製種家横山元次氏の特別陳列たる蠶種販賣に擬したる人形あり、尚南東隅には縣知事並に各事務官の令夫人等が親しく飼育せられたる蠶繭、及び其生絲、其織物あり、又た場外には新に新案特許となれる「横山式桃蠶鍋」を使用して實地に繰絲の作業に從事せるありて孰れも快感と利益とを與ふること尠からず、斯くて日々の參觀者は數千を算するの盛況にして夜に入りても館の全部並に大緑門とも皆く「イルミネーション」によりて宛然畫の如く爲に場の内外常に晝に讓ざる賑ひを呈せり。

【兼山神社の落成式】 野中兼山先生は土佐藩三百年間中の傑物なり荒蕪を拓き水利を通じ、產を興し民を富ましめ、藩政を更革し士氣を振興せしめ、儉素を貴び虛飾を戒め以て土佐千歲の基を礎たり、維新の前後英士雲の如く輩出して絕世の大業を補翼したるもの其因て來る所遠く先生の涵養に基く所尠少にあらざるべく又現在に於ける土佐產業の素因又多くは先生の遺德に基くもの多しと云ふ後祉を五臺山上に建てゝ縣社に祀られたるが、先生逝て茲に百五十年之を機として社殿新に成り高知支會發會式の翌日を以て落成式を擧げられたり、杉山知事の請に依りて松平吉川兩男爵の一行其式に列し、其他山内男爵等本縣著名の士數十名又列りて式を擧げ、杉山知事は郗しく祭文を捧讀し、聯隊の將卒中小學校生徒等亦參拜を爲し最も森嚴に豫定の式を了れり、杉山知事が特に縣下民衆の多數集りたる此機會を以て莊重森嚴なる落成式を擧げたるは其先賢の偉蹟を宣揚し偉業を鼓篋し以て風氣を振作し時弊を救ふに於て裨補する所蓋し尠少ならざらんか。

【浦戸灣の舟遊】 本會其他來縣の一行は杉山知事其他數十名の有志諸君と共に五臺山を下り泊船岸より豫て用意せられたる當地名代の屋形船川一丸外四艘に分乘し汽船之を牽る徐ろに灣內に浮び出でたり、屋形船は此地特得のものとか我々の乘船に充てられたる川一丸は胴の間が疊敷きの十二疊にて天井は手の屆かざる程に高く兩側に障子を立て廻らしたる構優にして宏壯なり、やがて栗門より狹島附近に至れば當地名物の網打は開始せられたり、二十餘艘の漁船隊伍を作り先頭に立てる指揮の號令に應じて何れ劣らぬ手腕を振ひザンブ／＼と網打を爲す壯觀云はん方なく思はず喝采の聲各船に鳴り響けり、一網毎に溌剌たる鮮鱗舟中に躍る其漁獲三四十貫目に達す、去りて御疊瀬の邊に至れば危帆行列嚴々として羅行せり、大なる帆綱天井の傘を小船の中央に立て風位に依りて自由に動くべき裝置を爲せるものにて之を帆に換へて船を操縱し若し雨降れば傘本來の用を便ずと云ふ、一列徐行しつゝ釣魚を爲せり、之れ又他に見るべからざるの奇觀なり、船は進んで將に外海に出でんとする灣口の內面なる久方の濱(種崎千松公園とも云ふ)に至り全員上陸して松樹鬱蒼たるの邊に新築せる得月樓の別莊に入りて休憩し、獲れる鮮魚を割て一盞を傾ふし黃昏に至りて一同再び乘船し更に得月樓本店に引上げ、半日の清遊に主客共積日の勞を慰して解散せり。

【一行の歸京】 本會の一行は翌三日正午盛實丸に搭乘し歸京の途に就きたるが此日風浪高く船は前後左右に動搖し、一行何れも多少の苦痛を感ぜざるものなく流石歐米に數回の航行を爲して外洋の波濤に馴れられたる吉川副會頭も船室に横臥せられつゝありしを見ても如何に波動の激しかりしを知るに足らん、之に就ても若し高知より學平に至るの間に鐵路のあらしめば斯く苦痛は無かるべきものをと其交通の不便なる高知縣人の爲に同情に禁へざりし。

今回高知支會に於る發會式は杉山支會長其他幹部諸君の熱誠なる盡力に依り稀有の盛會を以て圓滿に結了を告げたるのみならず一縣多數の會員を募集して本會の發展に資せられたるは本會の感謝に堪へざる所なり而して倘一行に對し支會長始め有志諸君の非常なる好意を以て遇せられたるは一行の永く記念として忘るゝ能はざる所なり、此に謹て其厚意を謝す。

●三重支會第十一回總會

大日本蠶絲會三重支會第十一回總會は去四月十四日を以て本縣蠶業取締所津支所內に開會したり、來賓の主なるものは吉池主事京都蠶業講習所石川技師横濱生絲檢査所稻生技師等にして、出席會員三百五十餘名の多きに及べり、午前十一時席定まるや、北野副會長開會を宣し、支會長代理桐田副會長は戊申詔書を捧讀し、終て久保田支會長の式辭(桐田副會長代讀)松平會頭代理吉池主事の告辭、立野幹事長會務の報告あり、引續き阿山郡稲田村農會飯南郡蠶業同志會に對し彰功狀贈與式を舉げ式全く了り、式後來會者一般に折詰を配付し休憩喫飯後午後一時より講話會を開會せり、今式辭、彰功狀、演題等を掲ぐれば左の如し。

式辭

玆に大日本蠶絲會三重支會第十一回總會を開くに當り會頭代理吉池主事並に來賓各位の臨場を忝ふしたるは深く光榮に堪へざる處なり

惟ふに本縣の蠶絲業は逐年發生し今や收繭額拾貳萬六千餘石を算するに至れると共に飼育の術漸く熟練を加へ製絲事業の改善亦見るべきものあるは國家の爲に慶幸とする所なり

然れども翻つて蠶絲業の現況に徴するときは前途甚た遼遠に耐へざるものあり他なし生絲の價格他の物價の騰貴に伴ふ能はざるの結果事業の經營日に困難を感ずるに至れること是なり會員諸君須らく世の大勢に鑑み相共同して益發奮努力し以て飼絲の齊一改善を圖ると共に生產費の減少に勉め斯業の基礎を確立すへし玆に一言以て式辭とす

明治四十五年四月十四日

大日本蠶絲會三重支會長 久保田政

彰功狀

阿山郡稲田村農會

村內蠶絲業者の共同一致を圖り桑園の改善繭質の統一に關し多年苦心經營の結果斯業の基礎益々鞏固に其實積見るべきもの尠しとせす洵に他の模範と爲すに足る依て本會彰功規程に基き金四拾圓を贈與し其功績を表彰す

明治四十五年四月十四日

大日本蠶絲會三重支會長

正五位勳三等 久保田政周

飯南郡蠶業同志會

彰功狀

蠶絲業の經營に關し多年審策の結果施設宜しきを得事績の見るべきもの尠からず洵に他の模範と爲すに足る依て本會商議員會の決議に基き玆に其功績を表彰す

明治四十五年四月十四日

大日本蠶絲會三重支會長

正五位勳三等 久保田政周

答辭

本日の盛典に當り優渥なる辭を賜り表彰の榮に浴す光榮之に過きす惟ふに斯業の前途は尙ほ遼遠にして改善を要すへき點一にして足らす殊に團體の施設經營に關しては一層の奮勵と努力を要すべきは言を俟たす本團體等は其の施設に經營に何等斯業に貢獻の績なくして此の榮を擔ふ實に慚愧に堪へす自今一層協心戮力斯業の隆昌を圖り以て本日の光榮に酬ひむことを期す謹むて答ふ

明治四十五年四月十四日

被表彰者總代

阿山郡稲田村農會長 高島多兵衛

演題

所感　石川京都蠶業講習所技師

世界の蠶業　吉池本會主事

生絲の品位に就て　稻生生絲檢査所技師

時恰も櫻花爛漫の好季節も天氣晴朗なりしを以て遠近の當業者多數參會し、殊に講師の熱心なる講話は深く感動を與へしものゝ如く、斯業發展上稗益尠からさるを認めたり。

次て八木商議員の縣外實業視察報告及中山製絲同業組合長代理の第二回繭解舒品評會開催の計畫發表等ありて、午後五時閉會同六時より大觀亭に於て懇親會を催ふし頗る盛會を極めたり。

蠶桑雜觀

●青山御所の御養蠶

未來の國母に在します東宮妃殿下が每年其御內庭に於て御養蠶遊さるゝことは萬民の普く之を傳へ承りて感激措く能はざる處なるが、本春も去四月二十六日及二十九日の兩度に蟻蠶十六匁の本邦種及外國種を掃立てさせ給ひ、時々殿下御自身蠶室に成らせられて近侍の女官達に給桑せしめらるゝ御事あり、又稀れには玉手もて給桑せさせ給ふこともありとかや、英照皇太后御在世の砌仕立させ給へる桑園二反歩の外に更に一昨年より三反歩餘新桑園を設けさせられたるを以て、本年は他より御買桑の必要もなく青々と榮え茂れる葉にて御飼育の蠶兒は昨今既に御美事なる繭となりたるもの多しと承るだに畏し。

●春蠶概況

今春の掃立蠶種は或は其數增加すべしと云ひ、或は減少すへしと稱し未た其實際を知るに由なきも、各府縣に於ける通信委員の報導を綜合するに、長野群馬福島山梨埼玉等の大養蠶地は幾分掃立枚數を減じ其他の府縣に在りては幾分增加せるものゝ如く結局昨年の掃立高と大差なからんか、斯くて桑葉は不順勝ちなる氣候に應へしも其伸長案外に住良に害品の被害亦極めて輕微なるを以て、其供給の豐かなるは敢て疑ひを容れざる處なるも、去四月十九日に於ける愛知縣下の降霜反別二千百七十町歩に上り去五月十一日に於ける、降霜被害反別宮城縣下四千二十九町歩福島縣下二萬二千四百九十四町歩の多きを算し其他東京埼玉群馬宮崎新潟熊本岩手秋田栃木等の各府縣にも降霜被害あり其損害高を通算し來れば決して其額の尠少ならざるを遺憾とす、蠶兒の發育は未だ不良の聲を多く聞かずと雖も、本春の氣候兎角順を得ず五月初旬の如き日本アルプスの連峰には白雪皚々たるものあり、越えて同月十八日より二十日迄の氣候頓に昇騰して信州地方の如き華氏九十度以上を示し、長野測候所創立以來の新記錄を作れりと云ふ、斯く不順の氣候に弄ばれたる蠶兒は其後如何なる發育を爲しつゝあるか、早場所としての豆州松崎の新繭は前年より四日遲れて去月十五日に其初取引行はれたるも其他は大部分昨今四五齢の壯蠶期に在るを以て、未だ蠶作の豐凶を報導するの自由を有せずと雖も、此際當業者の注意其宜しきを得されば或は恐る養蠶者

の意外に多からんとな。

●東西蠶業講習所の蠶況　東京蠶業講習所の掃立は研究用蠶兒は四月十五日より五月五日に亘り講習用蠶兒は四月廿九日卅日の兩日に於て之を行ひたるが其蟻量は總べて八十九匁六分三毛に達し、掃立以來の經過は何れも佳良にして六月一日前後に大部分上簇すべし、又京都蠶業講習所に在りては講習生用として八十一匁五分其他研究用として若干を五月二日前後に於て收蟻掃立を爲したるが、蠶兒の發育は前年に優る良好の經過を示し六月五六日頃には上簇の由なり。

●原蠶種製造所蠶況　中央原蠶種製造所及福島、前橋、長野、京都に於ける各支所に於ては本春より一部の種類試驗事業を開始せられたるが、該蠶種は地方に於て優良と認められたるもの一府縣二種又は三種、歐羅巴種二十六種、複製歐羅巴種三種、支那種三種、複製支那種四種、東西蠶業講習所にて製造したる蠶種十五種合計百四十二種なるが、此中本所に於て飼育せられたるものは本邦種二十七種、歐羅巴種二十種、複製歐羅巴種三種、支那種二種、複製支那種三種、東西蠶業講習所にて製造せる蠶種十五種合計七十種にして、本邦種は四月二十九日三十日の兩日に、支那種及歐羅巴種は五月一日より二日に亘りて掃立てられたり、其後の經過何れも佳良本月上旬中には大部分上簇すべしといふ。

●世界の蠶況

伊太利蠶況　掃立は四月下旬より五月上旬に行はるゝもの大部分を占むるも美蘭地方に於ては五月八日頃より十五日頃までに行はれ、其掃立數量は美蘭ヨーモの二縣は昨年より幾分增加せるが如きも、全體に於ては勞力の缺乏と繭相場の低廉とを懸念して、其掃立數量平年額に達せざるものゝ如し、桑樹の發育は昨夏高き氣溫を受けたる爲頗る其伸長良好にして桑芽開綻後數日を經て結霜ありしも其被害は大ならざりしと云ふ。

佛蘭西蠶況　「ガルド」「ヘウクルーゼ」「メル」「ヘラウルト」「ドローメ」等の蠶兒は五月四日の當時既に早きは二齡にして遲きも初齡に在り、四月下旬の氣溫著しく降下して飼育に困難多かりしも一般に健全に發育しつゝあり、桑葉の供給豐富、掃立の數量はヘラウルトは幾分增加せるも其他は前年と大差なきに似たり。

西班牙の蠶況　蠶兒の掃立は三月二十日より二十五日迄の間に大部分行はれ、メレシア地方は數年前より掃立順當減少の傾向あり、桑葉の繁茂佳良、四月中の天候寒冷にして雨量多く當時四齡に達せる社蠶には其影響少からざるが如し。

露國コーカス地方の蠶況　掃立蠶種の數量昨年と大差なし、桑葉の開綻早かりし爲掃立亦早し。

清國蠶況　五月十七日在上海松村洋行より某所への情報に依れば

久しく晴朗なりし天候も十四日夕刻來曇り一昨十五日は早朝より小雨時々降り午後は烈風起りしも降雨は止み昨十六日は午前細雨ありしも暫時にして止み陰晴常ならず、本日は朝來曇り微雨あり、溫度は前日と大差なく六十五六度前後を往來し風は毎日發し、今日の模樣より推測するに尙は數日は晴れざるべきかと思はる。

若し天候の回復急ならざれば折角良好を期したる無錫地方も或は案外の成績を見るやも難計し。

紹興は十五日頃には凡て開市嵊縣四十弗即ち乾繭上海着百斤に付百十五兩、昨年に比し生繭に於て五弗乾繭上海着に於て十一兩安し。

作柄は紹興府内は東南西三地方に優り北方稍劣るとの評判もあり、或は北方は四分五厘作東南西三地方は六分作と云ひ、或は掃立は昨年に比し三割減なり抔風說區區にして信據するものあるなし。

買入代金は其土地土着の人々間には多少貸借ありし如きも、其他には凡て現銀を以て仕拂ひせる如し。

出廻りは懸仁其他二三の地方は盞明相場より一時少しく引下げたるに直に地方人の買人現はれ却て盞明相場以上も引上げざるべからざりしと云ふに見るも、荷物多き爲め引下げたるか、又は買人少なき爲め引下げ實行の困難なりしにはあらざるかと聞く。

昨十六日無錫本繭五百斤物として二萬斤百二兩にて約定出來したり、斯くて製絲百斤の繭代五百十兩工賃百圓と見るも六百十兩に相當し、可なりの安直なるを思はしむ、而して其實人の計算に依れば無錫生繭は三十六七弗以下に取入るゝ機算なりしならんか。

新絲は今週に入りて約三萬斤手合出來せり。

七里金縣繭は漸次出來安盞明相場より二十七兩半暴落して四百十兩となれり、實に昨年に比し六十兩安ながら舊替相場の相違より打算して、外國着直正に同樣なり。

鐵式機械絲は未發表ながら約定の出來せるもの凡そ一萬三四千斤あるものゝ如く、出來直は十中上等物六百五六十兩見當にして昨年に比し八九十兩下位にあり、製絲家は全く案外の感を懷ける如も、前記七里絲の格合より推して正に然るべし。

新絲氣配は斯の如くなれば折角新繭買入直の安きも、製絲家の爲めには何等の餘裕を許さゞるものあり。

杭州地方の春蠶は既に三眠を過ぎ四眠に入らんとしつゝあり、發生以來天氣晴朗にして寒暖の差少なきを以て、蠶兒發育非常に良好なり、今後とも給桑潤澤の見込確かなれば、本年の春蠶は非常の好成績なるべし、事變の影響を受け金融逼迫當業者も過半休業中なるを以て、前途新繭價格の安價なるを豫想し、自ら桑園を有する者の外桑葉を買入れ飼蠶する者絕無の有樣なり、從て平常百斤三弗乃至四弗の價格を有する、桑葉も本年は僅かに五十仙乃至七十仙にして、尙は需用者少なきに苦しみ居れり、而して當業者の見込によれば、本年の產額は多くも平年の半數を出ざるべしと見込居れり。

尙上海南商務官よりの電報に依れば、外國人繭買付に關し江蘇、浙江兩都督は軍隊を以て十分保護を與ふるをと爲りたる結果、保險會社に於ては或る條件を附し引受くるとと爲り、是まで出發を見合せたる買付人は漸次產地に向へりといふ。

●生絲の日露聯絡輸送　生絲の日露聯絡輸送會議は三月二十一日より四月十八日迄浦鹽に於て開かれたるが、出席者は東淸鐵道會社、日本國有鐵道、南滿鐵道、露國義勇艦隊、大阪商船、黑龍江州稅關等の各代表者にして、其問題は

橫濱京都間停車場敦賀港と莫斯科及露國の西歐洲國境停車場間に於ける本邦生絲の浦鹽經由直通連絡に存し、會議の結果輸送の一般順序は先づ汽船會社は生絲發送の最初の地點に於て直通送狀を與へ東淸鐵道會社は浦鹽に於て此生絲に對する送狀の謄本を作り送狀は莫斯科に於ける東淸鐵道の出張所に於て送狀の謄本に代へられ、荷主は其謄本に依りて露國鐵道の停車場に於て生絲を受取るを得べき順序にして、生絲貨物の保護に就ては日露兩國の鐵道及汽船は各自國の貨物運輸に關する法規に準して責任を負ふ可く其運賃は橫濱莫斯科間每百ウエト（約十二貫）十五圓七十五錢見當なりと云ふ、されば在來蘇士廻り橫濱莫斯科每百ウエト十四圓五十錢位なるに比すれば約一圓五十錢の相違あれども輸送期間に於て蘇士廻りの八十日間に比し浦港經由は僅に三十五日にて足る譯けなれば三十五日間短縮さるゝ事となるを以て、金利保險料等を通算するときは格別の差を生ぜざるべしとのことなり、尙此實施は船車とも新設備を要するを以て各委員締約協定の上兩國政府の承認を經る都合にて本年には今一回我東京か或は露都に於て日露鐵道の代表者相會し協議する處あるべしとの事なるが、此計畫は露國實業家の注意を喚起したりと見え莫斯科市に於ける二百年來の舊家として知らるゝ、アイ、イー、ソコクコフ氏は機臺五百臺を有する屈指の機業家にして且有力なる生絲問屋なるより、ヴイ、ダブリユ、スチエレコフ氏と共に來朝し親しく本邦の製絲地を視察すべしといふ。

文藝

懸賞募集　俳句

花の本花翁宗匠選

秀逸

新繭や世に褒めらるゝ夫婦仲　桐生　松風

新繭や光りの動く夕灯し　隴郡　月見

新繭や桑の匂ひのぬけぬ宿
新繭に新繭の香を忘れけり
旅閑し支度振りなり涼搖
深山路の花を土産や涼り
造り雨葵の埃拂ひけ散
一懐に咲かせて見たき葵鳥
涼一捲く手に馴れけり涼搖
此頃の日和續きしや涼搖
僕小屋へおとなひもして涼家
時鳥馬耕も知らぬ片山散
寶買に花咲く繭の走り散
雨風の辛苦堪へて涼搖
明安き夜を苦にもせず時鳥
咲出し日も忘れけり立葵
遠山の夕月細し時鳥
新繭や客に見するも隣走り
夏立や快く見る田の面
新繭や機屋の響ある鉄の鸞

出陸越下駿仙同甲信同秋武岩同下高近尾
雲中後總河臺　斐濃　田藏代　毛崎江張
翠古風梅山汪露松奇白風無有暇光白靜紅
波松月窓仙洋松柏柔仁好遊樂甫月蝶鈴山

溪水や向ふの岸も涼搖
峠から不斗横顔や時鳥
身の無事も願ひながらや涼搖
木曾川の淺瀬越けり涼搖
町中や只行過る涼搖
夏立や茶の里の朝霞
新繭や桑の芽も又はき巡り
去年今年同じ場所なり花葵
直を安く賣る錢携やり錢樂
出來榮に手綱目立ちぬ今年蘭
夏立や矢車の實にり來る村水貫
夏立や門の井戸賣る村郭公
草のもあるも空や落來る郭公
藤の木も門も落頃なり郭公
日暮里の雨うら悲し郭公
郭公啼や水鶏も叩く夜中
開道も心信顔やく涼搖
征垣にも見染る色や紅葵

伊上陸佐常宮古上宮同越同同甲同同駿常
賀毛奥伊陸山河雅城　後　　斐　　河陸
花陽一開波水長浦雪松更秋茂宮鶴大諷古
山撲雄山東河水月山庭月花理水田潮川館

新鋼や山里さ沸かすも風はしら
霧由寒二人見りり涼接線
雨時夏つ雨の冷子涼
氣寒冷冷涼接所
雲の冷涼涼接
冷涼

人　天
散る色もなくて寒るゝ奏哉　羽前　雅山　漆の木揺れてあとの日の暮き　陸中　早泡
地　追加
新鋼を見せて飼方聞りけり　武蔵　瑞穂　夏立や老も乗りたき飛行船　選者　花翁

懸賞募集 狂句

金坊子選

▲秀逸

二度起きまでに敵陣も崩れ出され　愛知　楓峰

女鑑上手で玉の輿に乗り　奥濃　天島
拔けたけ手に見ゆる戦れ帰子　宮城　同人
放置した小鳥ちゃんなり　京都　及川
新婦の年とり鑑をたたなり　南翠　常陸
迫出した女房しやり鑑時　宮城　鬼外
蓋の中に鑑の下に振り　愛知　政代
桑の木なる事鑑は鑑に設みつけ　京都　風人

▲五彩

上蔵で細沙汰の跪書きながら、紫り鑑なる知らず文
せ山の鈴鹿ふ山、鑑ばりやら紫ふつみ
鑑ら菊一と鑑浪へて、手間の細心り鑑時
鑑ら手入れも固いに桑の巡れ巻の雨
寿み育にして岸ら鑑せば、桑の繁つた畑十里

仙臺　みつ子
京都　南翠
京都　同人
長野　同人

▲人賞

鑑時一寸便所も休憩所　埼玉　新井一貫

▲地賞

鑑時赤い眼で鼠とり　宮城　城倉一豊

▲天賞

すきつの腹抱へて笑ふ鑑時　甲斐　渡邊大和田

懸賞募集 俚謡

高橋鬼川選

▲秀逸

鶏が鳴しく桑鑑の、ふくらうの、ふくらうの、鳴く鶏
鶏が鳴しく桑鑑の、ふくらうの、ふくらうの、鳴く鶏
お月様へ泣田へ鶏、工女風情の恋やもの
梅に牡丹の行く大、野の鶏
鶏も、鶏がとり田鶏、鶏の鶏
下戸も上戸も鶏に酒もつて鑑の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏
鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏の鶏

陸前　政代
仙臺　愛
羽前　友
東京　及川
埼玉　一
愛知　清洲
山梨　田
丹波　外
同　人
宮城　一豊
飛騨　美士里

▲人賞

霞む中から桑摘み唄が
もれて静かに暮れる村　岐阜　大島彩花山人

▲地賞

落ちたりボンが葉桑にかゝりや
蝶が蝶に来るヒラ〳〵と　京都　原田　南翠

▲天賞

花の短冊墨色あせて
お茶に忙しくなる在所　長野　柳町　柳雨

懸賞募集

小品文

高橋鬼川選

▲秀逸

◎來給へ　丹波　中山花外

大江山も案内するが先っ機嫌成程に原鶯種製造所の總帳かだ、石垣の細の番、大工の、種上げるほどの若鮎にかけて「女學校の花がセクフの書かんで敏で來るの、また和知の流れ為る若鮎に釣なら雲れるのも面白い、忙しくなゝぬ中に來給へ。

◎桑摘　愛知　三加楓峰

久しく定らなかつた桑摘が、やつと昨日から喚れかけて、廻いつぱいの雲が小鳥の鳴く春に目覚めて、あの山なり谷へ〳〵と流れて行く、三度ほど開いた桑の芽の眞中の葉は綠が深く柔かで、綠り立ての蠶蛾はまだ蟻人で食べるであらう、あゝ年に蠶に……。

◎杜鵑　京都　泉虚春

夜半は夜明けがたから、ねむ〳〵蠶飼のために、寒れかたはい村雨の身の上に、たゝつて少しい家庭に味氣なく生活を送つて居る、朝夕女塾縫み蠶に拘いて、蒼白く月を仰ぐ時、鎮守の社頭の森に啼く杜鵑の聲が、云ひ知れぬ淋しさを與へるのである。

◎慰勞會　愛知　田中清州

職業であつた、勞りの會見の家で社會教育の勞働會で賑てあつた、組合員の婦人達は集つまつて、笑顔の絶えず、あつちからも、こつちからも、先生々々の聲と共に、賞の見さんと蠶飼に人望ある手腕家であつたが、今は、今よりこの年前に他界の人となつたのである。

▲人賞

◎畫題　京都　小林楓溪

空は碧く晴れ渡つて、鶯が悠々と鳴つて居る下は、漠々たる由良の下流で、青々とした河中島の桑園に摘桑の人がチラホラと見えて居る、そして島と向ふの緑りの山との間を白い帆舟が靜々とのぼつて來る、よい畫題だ。

▲地賞

◎啞娘　秋田　東海林桑翠

啞の娘は今日も裏の畑で一人唄もなく桑摘みして居る、ふと二羽の蝶が上になり下になり舞ふて行くのを、娘は手をとめて恍惚と見つめた、あゝ十八の春を迎へた乙女の胸に、云ひ知らぬ悲みは漲ぎつたであらう。

▲天賞

◎別れ　岐阜　山口青嵐

卒業證書を懷中に勤一はうろ〳〵と驚蜜の近所を、深い思に沈みつゝさまよふた、事務室では聞き馴れて先生の話聲が手に取るやうに聞える、あゝ、もう行かうと決心した彼の胸には、別れの悲しい思と、未來の希望に滿ちた嬉しさとが、妙にこんがらがつて、眼には涙が溜つた。

雜報

▲田口社長の赤裸

關西戰線界の奮闘家三龍社長田口百三君負けず嫌ひの性格能く高級を排して奮々成功の途に就き、紳士隆々たるものあり、君蓋來社立藝術講習所を新築して四月三日に其落成式を擧ぐ、式後特に貴賓を深川樓に招じて優待せるが寒闌にして主客陶然たる時君一美形を擁して立ち、トーザイ、トーザイ之より御覽に入るは三龍社長得意の十八番、マッタ藝題は國藝の神髓を極めたる瓜拳トーザイ、トーザイ暫く御靜に と言乍らパッと東西に分れてチョンヌゲ、チョンヌゲ、チョンヌゲ〳〵、チョジガナノハデ、ヤチョンガホイと拙聲勇しく調子を挑みたり、君は矣きさと敵の不意を打たんとしたるも此時既に遅し、相鄭と構へたる老妓の早業に上衣を剝がれ、チエー、疑念ケ、ゴ稻荷さんてと敢國きたるも、對手は是海筒を向られてギャフンと參りイツの間にかチョッキを剝れたる君蓋哥立ちて接戰十數合ネクタイ、カラ、ホワイトシャツ、ズボン、靴下と順次に剝ぎ去れて餘す處唯一個鼻柳あるのみ、君ガチ〳〵前と發はせ乍ら、オー寒い春風は痛う身に染む。

蠶海涓滴

△本年一月　以降五月中旬迄の輸入超過累計九千八百八十四萬五千圓不健全なる輸入超過は歐州の授入より、恐しと云ふ萬朝子の實に國運の神來不塲愈念。

△遭難逆戻　件數五月廿四日迄の內務省調査三百八十件、二千七百八十三人の多きを數すると敢見なる國民の所爲概ね知此し寧政の美を見る遂遺なる鶴。

△鶴島縣信　飯名に及ふと雖に宮城縣島等の慣事者にしては此種の慣話頗る多かれ、國

△寺內總督　夫人同伴縁人奴隸の爲本拳等大々的に蠶見を掘立てたりとか聞かも北和鶴見其外紙材料也と紙材知らず鮮人上の紙も底下之に倣ふと出現るや否や。

△東京市內　四月中の蠶受物前月に比して九風二毛の驚數を以て日日の國費なり何程の微貨數中米、麥、豆類の價格騰貴は急國に取つての一大痛錯。

△日本生絲　の品質數年來等々改良の跡を認めざる日の品質に却て數年前よりも不良なりたりとは傳國經絲家の批評塲山の石米邦製絲家の反省を望む。

△佛國燃絲　家所靜と言ふ近年欧洲市場に現ぼる入日本生絲の品質不良の原因は其其好なるもの若柔麻に輸出さるゝに由ると都隱も技に來て驚かず。

△愛知の蠶　寒宮城福島の蠶は我蠶州に匹敵の損害を與へ間だに滅身滅なる生ずるに五月廿四五の兩朝東北に赤霜寒あり蠶強防の其法なるものにつ力

△煙炭は温　鼠を殺し温度を高め且つ保有するの性狀に監ふ養蠶上の効力

△五章廿九　等とり成る蠶業法案伊國々會に顧る議案通過の曉には生絲の共

△北海道蠶　昨市場たる米綿其他に於て激烈なる競爭を試むべしと伊國蠶業の將來如何。

△永年本會　立蠶業講習所五月一日午前零時四十分見破氏の講ふ所となりて金而島有に陸し其出發二萬圓と爾子哥今上新の長中蠶業火の元知用心が肝要に由上會者を離かれてありと云の古跡を思ひ浮べて今更から情況の情勢ぞ。

蠶界小誌

本欄に投稿を歡迎す

四月一日 高知縣公會堂に於て本會高知支會發會式並第一回蠶絲品評會褒授與式擧行●長野縣上高井郡豐洲村桑苗品評會開催
四月二日 東宮殿下本日甲府市矢島製絲工場へ行啓
同 三日 愛知縣岡崎町三龍社蠶業講習所新築落成式及共同飼育協桑園品評會褒賞授與式擧行
同 四日 新潟縣[illegible]組合聯合會[illegible]開催●長野縣々會議事堂に於て同縣[illegible]協議す
同 五日 [illegible]蠶業技術員を招集し[illegible]打合せをなす●新潟縣第三回蠶絲品評會協贊會發起人會開會●長野縣下[illegible]
同 六日 [illegible]
同 七日 伊那郡[illegible]
同 八日 長野縣上水內郡役所に於て同郡蠶種同業組合評議員會開催●[illegible]
同 九日 香川縣木田郡池戸村に於て同郡蠶種共同飼育設立者及擔任教師の協議會開催●新潟縣北蒲原郡役所に於て[illegible]
同 十日 島根縣[illegible]に於て本會島根支會商議員會開催●長野縣[illegible]に於て北佐久郡蠶業同業組合創立總會開催
同 十一日 長野縣下各郡蠶業取締支所フォルマリン檢定主任者打合會を北信は上田南信は松本に於て開催●同縣上水內郡蠶種同業組合は同事務所に於て[illegible]
同 十二日 [illegible]
同 十三日 [illegible]
同 十四日 [illegible]
同 十五日 [illegible]
同 十六日 [illegible]
同 十七日 [illegible]
同 十八日 [illegible]
同 十九日 [illegible]
同 二十日 [illegible]
同 二十一日 [illegible]

●靜岡縣田方郡北狩野村外四ヶ村蠶業組合並水註北豆組合にては本日南小學校に於て總會並に蠶業講話會開催
同 二十二日 埼玉縣入間郡坂戸町婦人會にて本會吉水信子女史を聘し講話會開催
同 二十三日 本會事務所樓上に於て本會評議員會開會
同 二十四日 農商務省にては蠶業講習所試驗部を原蠶種製造所に移すことゝなりたる結果兩所の官制を改正し本日公布せり
同 二十五日 群馬縣內にて本會群馬支會商議員會開會
同 二十六日 愛知縣下一部に降雹被害あり
同 二十七日 宮城縣柴田郡及び志田郡、新潟縣長岡地方、三河山間部に降霜被害あり●京都府蠶業講習所春季蠶種掃立は本日より三十日迄に全部掃立を了せり●
同 二十八日 東京蠶業講習所春季蠶業講話會開催
同 二十九日 栃木縣下都賀郡赤津村農會主催農作物品評會褒賞授與式擧行
同 三十日 山梨縣本會は横濱生絲貿易商を事務所に招待し晩餐會を開く●[illegible]
五月一日 [illegible]蠶業取締支所に於て本日より七日間蠶業取締支所主事及書記の事務打合會を開く●
同 三日 本會事務所に於て全國製絲家大會を開く
同 四日 本會事務所に於て開催せる製絲家大會は本日終了午後五時より築地精養軒に會を催す●栃木縣下都賀郡水代村役場に於て水代村外六ヶ村蠶絲組合發會式擧行
同 五日 若貫料廢止問題につき製絲家側發起委員は横濱生絲貿易商組合を訪ひ製絲家大會決議を開陳す
同 七日 横濱生絲貿易商組合は若貫料廢止問題に關し本日午後一時より取引所階上に於て臨時總會を開き協議せり●島根縣大東町に於て山田農事講習所長を聘し蠶絲講習會開會
同 九日 新潟縣古志郡に大霜害あり
同 十日 愛媛縣西宇和郡二木生村に降霜あり被害甚大●三重縣製絲同業組合主催第二回品評會褒賞授與式擧行
同 十一日 [illegible]
同 十二日 靜岡縣伊豆松崎に新繭現はれ一貫目五圓二十錢にて御祝儀商ありたり
同 十三日 若貫料廢止問題に關し横濱生絲貿易商組合特別委員と製絲業者側の常置委員との會見意見の交換ありたり
同 十四日 岐阜縣稻葉郡役所に於て蠶絲組合會開催
同 十五日 衆議院議員總選擧を行ふ各地蠶絲業者の競爭激烈を極む●信州諏訪製絲の元勳たる尾澤金左衛門翁逝去
同 十六日 山梨縣北巨摩郡韮崎町外七ヶ村の同業者相謀り蠶絲業組合を設立せんとて韮崎町に於て創立總會を開く
同 十七日 三生絲製造同業組合第四回總會開催●岐阜縣山縣郡高富町に於て本日より向六ヶ月間蠶業講習會開催
同 十九日 前橋市に於て新繭の手合あり九貫目四百八十圓の相場にて二貫七百八十匁の取引ありたり
同 二十一日 千葉縣種繭審查會を縣農會樓上に開く
同 二十三日 清國無錫縣繭市場開市
同 二十四日 岩手縣九戸郡二戸郡に大霜害あり
同 二十五日 若貫料問題に付製絲大會定置委員横濱に赴く●福島秋田青森方面に大降霜あり

人事彙報

十級俸下賜(四月十一日文部省) 上田蠶絲專門學校教授 三谷 徹
蠶業講習所技師舍監 土屋 泰
同 町田 積

訓令本年四月勅令第九十六號ニ依リ東京蠶業講習所舍監消滅セリ(四月二十五日)
蠶業講習所技師 川島 勝次郎

京都蠶業講習所養蠶手傳內田寛一カ別科講習生入學試驗問題ヲ詐取シ試驗執行前之ヲ漏洩シタルハ所長心得トシテ平素部下監督不行屆ノ致ス所職務ヲ怠リタルモノトス仍テ文官懲戒令ニ依リ譴責ス(四月二十六日) 原蠶種製造所技師 松下 憲三郎

十一級俸下賜(四月二十六日農商務省) 飯田 耕平

任長野縣技師敍高等官八等 四月二十九日 愛知縣農業技師 芝山 直清

年俸千四百圓下賜 愛知縣農業技師 水野 長五郎

年俸八百圓下賜(以上四月二十六日愛知縣) 正六位農學博士 大森 順造

敍從五位 上田蠶絲專門學校長正六位 針塚 長太郎

陞敍高等官三等(以上四月三十日) 生絲檢查所技師兼農商務技師 松田 呂德

依願免本官並兼官(四月三十日內閣) 商務官 紫藤 章

靜岡縣へ出張ヲ命ス(四月三十日外務省) 長野縣技師 飯田 耕平

年俸叄拾圓下賜 生絲檢查所技師 松田 呂德

六級俸下賜 蘋摩郡立蠶業學校長 湯淺 中夫

十一級俸下賜(四月二十三日鹿兒島縣) 郡立東磐井蠶業學校教諭 小島 道治

十一級俸下賜但當分六百五拾圓(四月二十四日岩手縣) 島根縣農業技師 毛、品 正春

年俸千貳百圓下賜(四月二十四日島根縣) 郡立周桑農蠶學校長兼教諭 奥山 慶松

八級俸下賜(四月二十日愛媛縣) 山形縣農業技師 大須賀 保勝

島根縣農業技師ニ任ス(五月六日) 商務官 紫藤 章

京都大阪ノ二府及靜岡愛知福井石川富山兵庫岡山福岡熊本ノ九縣ヘ出張ヲ命ス(五月十日外務省)

任原蠶種製造所技師 蠶業講習所技師 正七位 横田 長太郎

任佐賀縣技師敍高等官八等(五月十六日) 佐賀縣技手正八位 玉木 淸三郎

陞敍高等官七等 鳥取縣技師正八位 丹岡 熊次郎

任岩手縣技師敍高等官六等 休職秋田縣技師正七位 池本 島太郎

岩手縣農業技師ニ任ス(五月二十二日) 休職秋田縣農業技師 池本 島太郎

年俸叄百叄拾圓下賜(五月二十二日內務省) 岩手縣技師 池本 島太郎

新刊紹介

●東京蠶業講習所試驗成績 第四十五號 第四十六號 東京蠶業講習所刊行

本報第四十五號には乾繭器設計調査、放熱室中に於ける送風羽根應用試驗、秋蠶繭乾燥程度試驗、製絲用水蒸露試驗、生繭蒸熱試驗櫻組の寄生が繭絲に及ぼす影響、春秋蠶繭絲の化學的研究、第四十六號には桑の蜂花發育に關する研究、桑葉中蟲蛋白蠶繭除法試驗、赤蟻粘蝕の蠶組に關する調査、蠶組の齢に關する研究、化性試驗、桑葉水分蒸散量の次代蠶繭に及ぼす影響試驗、微粒子生存期間試驗蠶室內の濕潤と蠶病との關係試驗等を載せたり。(非賣品)

●實驗蠶種製造論 早川 文太郎著

山梨縣の蠶種製造家として嘗ては山梨縣蠶種同業組合長をも勤め名聲嘖々たる早川氏が多年の實驗に基きて微粒子挾蠶種の製造に關し忌憚なく其意見を吐露し其方法を說述したるもの優良蠶種に苦心するの士一讀して可なり、紙數三百餘頁洋裝美本定價一圓廿錢發行所東京市日本橋區箱屋町十六番地丸山舍

●蠶絲業一覽 大日本蠶絲會刊行

蠶絲業に關する現行方規の凡てを網羅しその蠶絲業に關する重要統計を添く蒐集して上梓したるものポケット入にして携帶に便蠶業界の要路に在るの士一本を左右に備へ置くの必要なきか(郵稅共價に二十錢)

●工 女 訓 加藤 知正著

製絲經營に成功せんと欲する者は先づ工女の品性陶冶に勤めざる可らず本書は其品性陶冶に資するの目的を以て編纂せるものなり第七版全く盡きて玆に改訂第八版を公にしたるを以て改めて紹介しおく。定價十錢發行所東京市神田區松下町十番地以文館。

文藝懸賞募集

俳句

六月分課題六月十日ノ切迫候投書
全年分の課題は二百三十九題に在り

▲選者　花の本花翁宗匠

▲課題　水無月。鯛子原風。水鶏。夏狩猟。梅杞の花。

▲懸賞　天一人（同）宿賞一ヶ年分◎人（同）宿賞三ヶ月分

▲規則　題目句（句）一人に付五句以内とし。題目は毎月四題宛。投稿は毎月十日迄に本社へ到着すべし。遅延したものは選者の採用に入らざるべし。題目の外に別に題目を出すべし。題目は毎月一回宛。投稿は毎月十日迄に本社へ到着すべし。投稿は毎月十日迄に本社へ到着すべし。投稿は毎月十日迄に本社へ到着すべし。

狂句

▲選者　高橋鬼川先生

▲課題　（川柳）（原題ノ切毎月三十日限り）

▲懸賞　天一人（同）宿賞一ヶ年分◎人（同）宿賞三ヶ月分

俚謡（郡々謡）

▲選者　高橋鬼川先生

▲課題　（原題ノ切毎月三十日限り）

▲懸賞　天一人（同）宿賞一ヶ年分◎人（同）宿賞三ヶ月分

小品文（一名写生文）

▲選者　高橋鬼川先生

▲課題　蠶絲業に關する百般の事を見聞した個感自く記す

▲懸賞　天一人（同）宿賞一ヶ年分◎人（同）宿賞三ヶ月分

注意

選課題用紙懸賞

選者の課題は蠶絲業に關する百般の事を見聞した個感自く記す

用紙は書一枚に限り一行二十字詰にして五行に記すこと

懸賞　天一人宿賞一ヶ年分◎人（同）宿賞三ヶ月分

狂句・俚謡・小品文懸賞は用紙一枚に付き五句限り一人に付三ヶ限り。▲用紙に郵便はがきに限る。▲宿賞者は本社員外と記し住地・氏名・職業・▲共明記し大日本蠶絲會文藝係宛にて送らるべし。住所氏名無き分は選外とし入るも賞賞せず

大日本蠶絲會報廣告料

回數	特等	並等
一回乃至六回ニ付	一頁　弐拾圓	半頁　拾貳圓
七回以上一回ニ付	拾七圓	拾圓

回數	並等
四分ノ一頁	半頁　七圓
四分ノ一頁	五圓
一頁	拾五圓
半頁	八圓
四分ノ一頁	五圓
一頁	拾貳圓
半頁	七圓
四分ノ一頁	四圓

◎會員は右料金の二割引とす◎四分の一頁未滿は掲載せず◎前金にあらざれば掲載せず◎一頁は一行二十七字詰七十二行とす

◎本報定價

一部　金拾五錢
一ヶ年前金壹圓七拾錢
但會員に限り壹圓五拾錢

明治四十五年五月三十日印刷納本
明治四十五年六月一日發行

編輯兼發行人　東京市神田區錦町三丁目十八番地　小池松市

印刷人　東京市神田區淡路町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區淡路町二丁目一番地　三秀舍活版所

恭賀　蠶業

發行所　東京市神田區錦町三丁目十八番地　大日本蠶絲會
（電話本局一四七三番）
（振替口座東京一二〇六番）